平成16年度

愛知県埋蔵文化財センター

年報

2005

(財)愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

目　　次

Ⅰ.平成16年度事業概要 …… 1
調査の理由と工程 …… 2
平成16年度 調査遺跡位置図 …… 4

Ⅱ.遺跡調査の概要 …… 7
岩倉市　御山寺遺跡 …… 8
清洲町ほか　朝日遺跡 …… 13
扶桑町　高木遺跡 …… 20
瀬戸市　惣作・鐘場遺跡 …… 21
桑下城跡 …… 31
日進市　三ケ所遺跡 …… 32
知多市　桜鐘古窯群 …… 33
常滑市　夏敷古窯跡 …… 35
蛇廻間窯跡 …… 38
御津町　高坂遺跡 …… 39
安城市　惣作遺跡 …… 41
試掘調査
岩倉市　御山寺遺跡 …… 45
安城市　鹿乗川流域遺跡群 …… 46

Ⅲ.刊行報告書抄録 …… 47
第119集 金萩遺跡　第120集 上中・西屋敷遺跡　第121集 志賀公園遺跡II
第123集 四池A古窯　第124集 宇トゲ窯跡・中洞窯跡　第125集 吉野遺跡
第126集 長谷口遺跡　第127集 名古屋城三の丸遺跡VII　第128集 荒山古墳群
第129集 Ⅰ−G−2号窯　第130集 南木戸遺跡

Ⅳ.埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録 …… 71

Ⅴ.発掘調査技術等研修会の記録 …… 75

Ⅵ.埋蔵文化財センターの活動 …… 79
現地説明会等 …… 80
資料の貸出・提供 …… 81
報告書作成のための遺物等の指導　発掘調査現場における遺構・遺物等の指導 …… 83
ホームページ …… 84
平成16年度愛知県埋蔵文化財センター組織一覧 …… 86

上品野遺跡調査報告(県建設部分) …… 87

Ⅰ. 平成 16 年度事業概要

調査の理由と工程

1．発掘調査

調査委託者		事業名	遺跡名	面積 (m²)	調査期間	調査担当者
国土交通省	愛知国道事務所	名岐道路	朝日遺跡	749	平成16年10月～平成17年3月	石黒・加藤・早野・川添
日本道路公団	中部支社	近畿自動車道名古屋関線清洲JCT	朝日遺跡	374	平成16年10月～平成17年3月	石黒・加藤・早野・川添
名古屋高速道路公社		県道高速清洲一宮線及び県道高速名古屋朝日線	朝日遺跡	374	平成16年10月～平成17年3月	石黒・加藤・早野・川添
都市基盤整備公団（現独立行政法人都市再生機構）	中部支社	常滑西特定土地区画整理	夏敷古窯跡	915	平成16年4月～7月	宮腰・早野
		常滑東特定土地区画整理	蛇廻間古窯跡	700	平成16年8月	宮腰・早野
企業庁	愛知用水水道南部事務所	工業用水道事業	桜鐘古窯群	536	平成16年4月～7月	宮腰・池本
建設部	道路建設課	国道248号	惣作・鐘場遺跡	10,200	平成16年4月～10月	酒井・樋上・鵜飼・武部・川添
		県道岩崎名古屋線道路改築	三ヶ所遺跡	880	平成16年10月～12月	永井(宏)
		県道草井羽黒線道路改築	高木遺跡	850	平成16年4月～6月	石黒・加藤
		県道大塚国府線道路改築	高坂遺跡	1,700	平成16年10月～平成17年2月	宮腰・松田
		国道363号道路改良	桑下城跡	1,000	平成16年12月～平成17年3月	酒井・樋上
	都市整備課	街路新設改良一宮春日井線	御山寺遺跡	2,480	平成16年6月～9月	石黒・加藤
				100	平成16年4月	石黒・蔭山
	河川課	中小河川改良	惣作遺跡	3,295	平成16年10月～平成17年2月	宮腰・鈴木
			鹿乗川流域遺跡群	230	平成17年2月～3月	宮腰・松田・鈴木
		13事業	12遺跡	24,383		

2. 整理・報告書編集

	調査委託者		調査の理由	遺跡名	面積 (m^2)	調査年度
整理	国土交通省	愛知国道事務所	東海環状自動車道	瓶子窯跡	1,300	平成15年度
	道路公団	中部支社	近畿自動車道名古屋関線清洲JCT	朝日遺跡	3,646	平成13～15年度
	名古屋高速道路公社		県道高速清洲一宮線及び県道高速名古屋朝日線	朝日遺跡	7,487	平成11・13～15年度
整理・報告	国土交通省	愛知国道事務所	東海環状自動車道	鶯窯跡	1,600	平成11・13年度
				上品野遺跡	13,500	平成8～10年度
				惣作・鐘場遺跡	2,125	平成14年度
				凧山C窯跡	700	平成14年度
			一般国道302号	NA311号窯跡	1,800	平成11年度
	道路公団	中部支社	第2東海自動車道	水入遺跡	67,850	平成11年度
	国立名古屋病院(現独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター)		看護婦養成所大型化整備	名古屋城三の丸遺跡	1,100	平成14年度
	愛知県道路公社		知多横断道路	奥町F古窯群		
	企業庁	尾張水道	愛知県水道用水供給事業	南木戸遺跡	195	平成15年度
	建設部	道路建設課	国道363号	上品野遺跡	360	平成９年度
			県道名古屋岡崎線道路改良	小針遺跡	2,100	平成15年度
		都市整備課	県道西市場助七線道路改良	清洲城下町遺跡	2,700	平成10年度
		公園緑地課	公園緑地整備事業	I－G－2号窯	350	平成15年度
				15遺跡		

3. 平成 16 年度刊行物

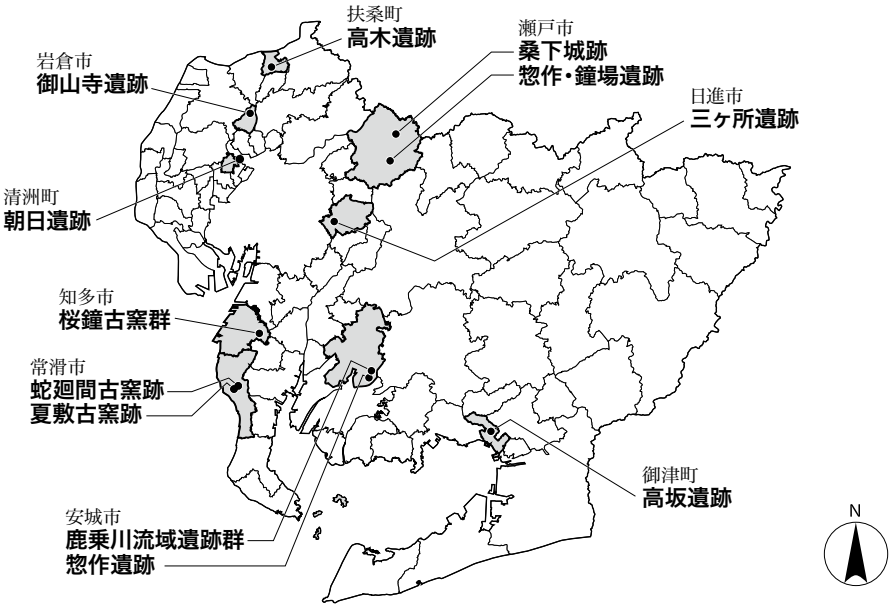
・埋蔵文化財調査報告書 (計 11 冊)

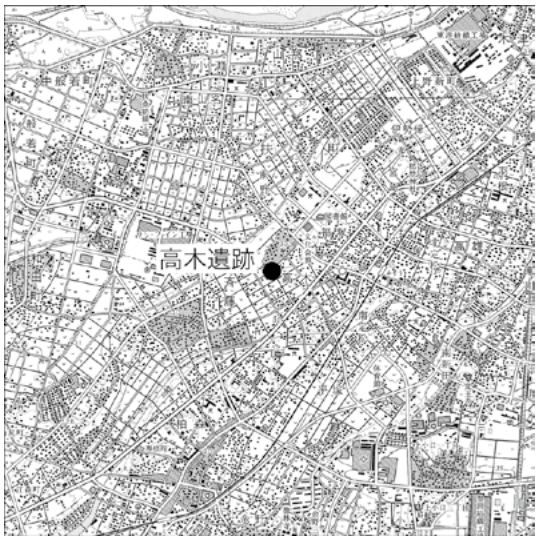
第 119 集　金萩遺跡
第 120 集　上中・西屋敷遺跡
第 121 集　志賀公園遺跡 II
第 123 集　四池 A 古窯
第 124 集　宇トゲ窯跡・中洞窯跡
第 125 集　吉野遺跡
第 126 集　長谷口遺跡
第 127 集　名古屋城三の丸遺跡 VII
第 128 集　荒山古墳群
第 129 集　I-G-2 号窯
第 130 集　南木戸遺跡

・平成 16 年度　愛知県埋蔵文化財センター　年報

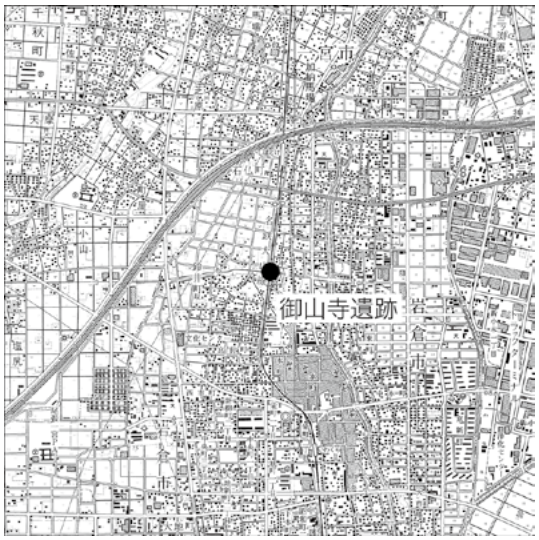
・研究紀要　第 6 号

平成16年度　調査遺跡位置図





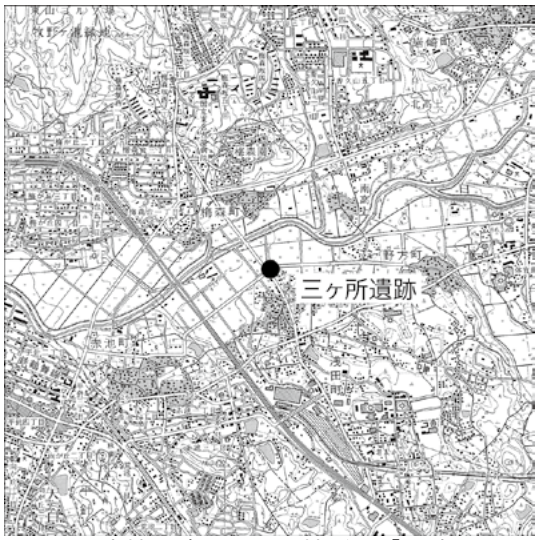
国土地理院 1/2.5 万地形図「犬山」



国土地理院 1/2.5 万地形図「一宮・小牧」



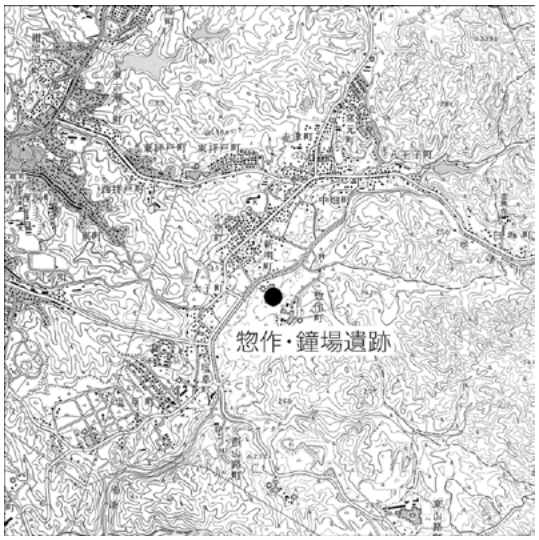
国土地理院 1/2.5 万地形図「清洲」



国土地理院 1/2.5 万地形図「平針」



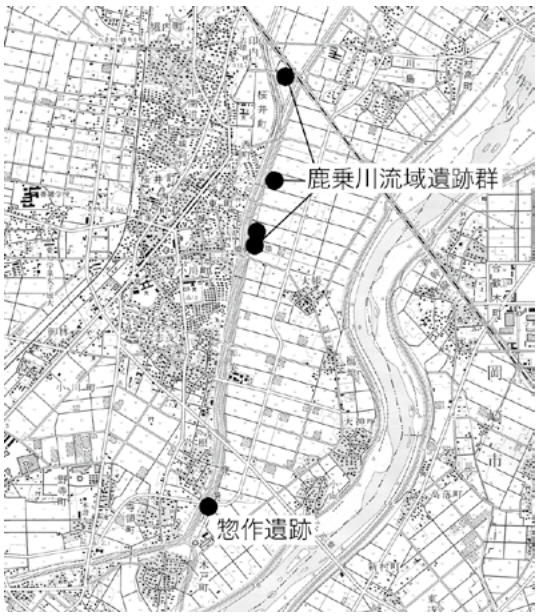
国土地理院 1/2.5 万地形図「高蔵寺・多治見・瀬戸・猿投山」



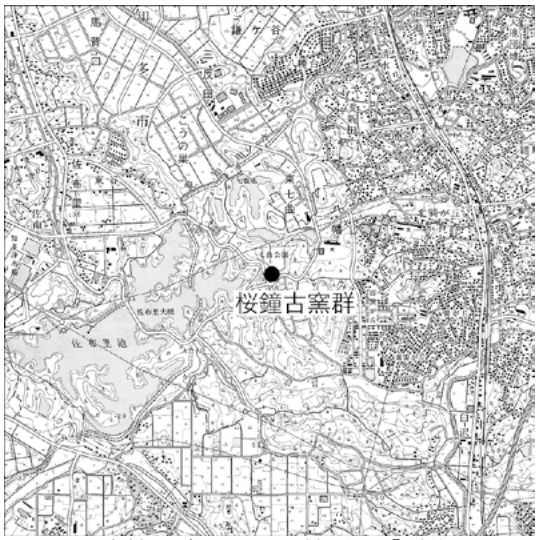
国土地理院 1/2.5 万地形図「瀬戸・猿投山」



国土地理院 1/2.5 万地形図「常滑」



国土地理院 1/2.5 万地形図「安城・西尾」



国土地理院 1/2.5 万地形図「刈谷」



国土地理院 1/2.5 万地形図「小坂井」

※ 地形図は 50%縮小されています。

II. 遺跡調査の概要

御山寺（ごさんじ）遺跡

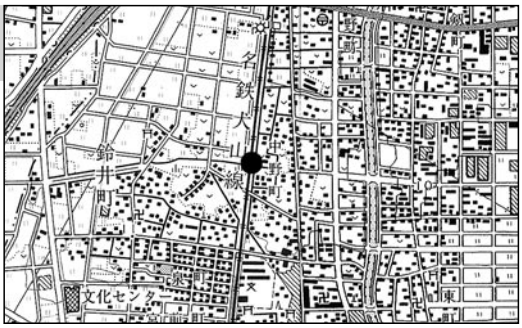
所　在　地　岩倉市中野町
（北緯35度17分18秒 東経136度52分13秒）

調 査 理 由　県道一宮春日井線街路新設改良工事

調 査 期 間　平成16年４月(範囲確認調査)、
６月～９月（本調査）

調 査 面 積　2,580㎡

担　当　者　石黒立人・加藤博紀



調査地点（1/2.5万「一宮・小牧」）

調査の経過　本遺跡の発掘調査は、県道一宮春日井線街路新設改良工事の事前調査として、愛知県建設部都市整備課から愛知県教育委員会を通じた委託事業として、当センターが範囲確認調査と本調査を実施した。範囲確認調査は四月中旬に、本調査は名鉄犬山線を挟んで東西に調査区（西側を04Ａ区、東側を04Ｂ区と呼ぶ）を設けて、平成16年６月から９月までの４ヶ月にわたって実施した。調査面積はあわせて2,580㎡である。

立地と環境　調査区周辺はちょうど、犬山扇状地から沖積平野に移行するあたりに相当し、標高は約11ｍである。明治17年の地籍図では大きく蛇行する旧五条川の痕跡が水田として表記されており、調査区はこの旧五条川が東に強く屈曲する部分の北東に位置している。04Ａ区は表土直下が長さ30cmほどもある大きな円礫を含む礫層であり、これはちょうど扶桑町や江南市の北を流れる現在の木曽川で見つかる円礫に相当する。礫層は04Ａ区の東部で急激に地下にもぐり、04Ｂ区では砂層になる。おそらく、旧地形は西側の旧五条川寄りが高く、東に下降する。04Ａ区西部で古墳時代以後の遺構が大溝以外見つかっていないは、上部の削平によるのであろう。

調査の概要

古墳時代　古墳時代前期に属す竪穴建物跡は、04Ａ区の西部で２軒が隣接して、東部では２軒が重複して見つかった。両者の間には小穴が群集し、窪地に堆積する遺物包含層も認められた。西部の２軒は礫層を掘り込んでつくられている。床面には炭化物がひろがり、壺や甕の破片が出土した。東部の２軒のうち、上部の竪穴建物跡からは壺や甕が砂層中から潰れて出土したので、洪水によって埋没したと考えられる。04Ｂ区では同時期の竪穴建物跡はなく、古墳時代中期の土坑がいくつか検出できたにすぎない。

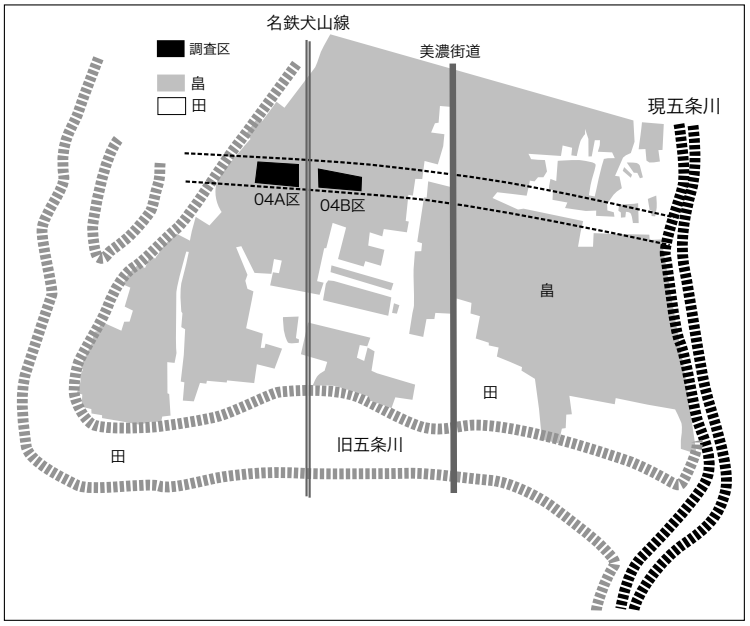


図１　明治17年地籍図による旧地形の復元

奈良・平安時代

竪穴建物跡は04Ｂ区で８軒検出したが、この中にはカマド周辺のみ検出したものを含む。カマドを含めて全形のわかる竪穴建物跡は１軒しかないが、長辺は東西方向の長方形で、カマドは北辺にあり、その北側には煙り出しのトンネル（煙道）も付設されていた。柱穴については判然としない。04Ａ区で見つかった掘立柱建物跡は、柱間は１間×２間で、長辺が南北方向を向く。室町時代の柱穴が付近に多数あるが、穴の形が異なっているために判別できた。柵跡は04Ｂ区西端で見つかった。柱穴が東西方向に並び、その中の一つには平安時代の須恵器片が詰め込まれていた。同じように須恵器片が詰め込まれた柱穴は他に２つあるが、掘立柱建物跡と柵跡のどちらであるかは不明である。このほか多数の土錘とともに焼けた粘土塊が集中して出土した土坑がある。

室町時代後半以後

今回の調査では鎌倉時代の遺物も若干出土したが、遺構は明確ではない。ここでは室町時代以後の遺構のみ取り上げる。04Ａ区では平行する２条の溝と多数の柱穴が検出された。前者は屋敷地周囲の「道」状の空間であり、後者は掘立柱建物群が展開したことを示している。調査区の西側では同時期の遺構は皆無であった。04Ｂ区では、調査区西部で平行、または重複する複数の溝と多数の柱穴を検出し、幅の広い溝を挟んだ東側では多数の土坑を検出した。室町時代後半には多数の柱穴が東西の調査区から見つかったが、残念ながら04Ａ区では柱穴のまとまりは確実には把握できなかった。いっぽう、04Ｂ区では柱穴に川原石が残っているものが多く、柱の基礎となる根石と想定された。調査区の西部では建て替えが確認できる掘立柱建物跡を確認した。

今回の調査でもっとも問題となるのが大溝である。大溝は、04Ａ区では幅約５m、深さ２m弱の規模で、調査区の南辺にそって東西にのびている。04Ｂ区でも調査区南端で東西にのび、調査区東部では重複して幅約７m、深さ２m弱の大溝が再掘削されていた。大溝は最終の埋没時期が17世紀で、上部を洪水層が覆っていた。（石黒立人）



04B区大溝 西から

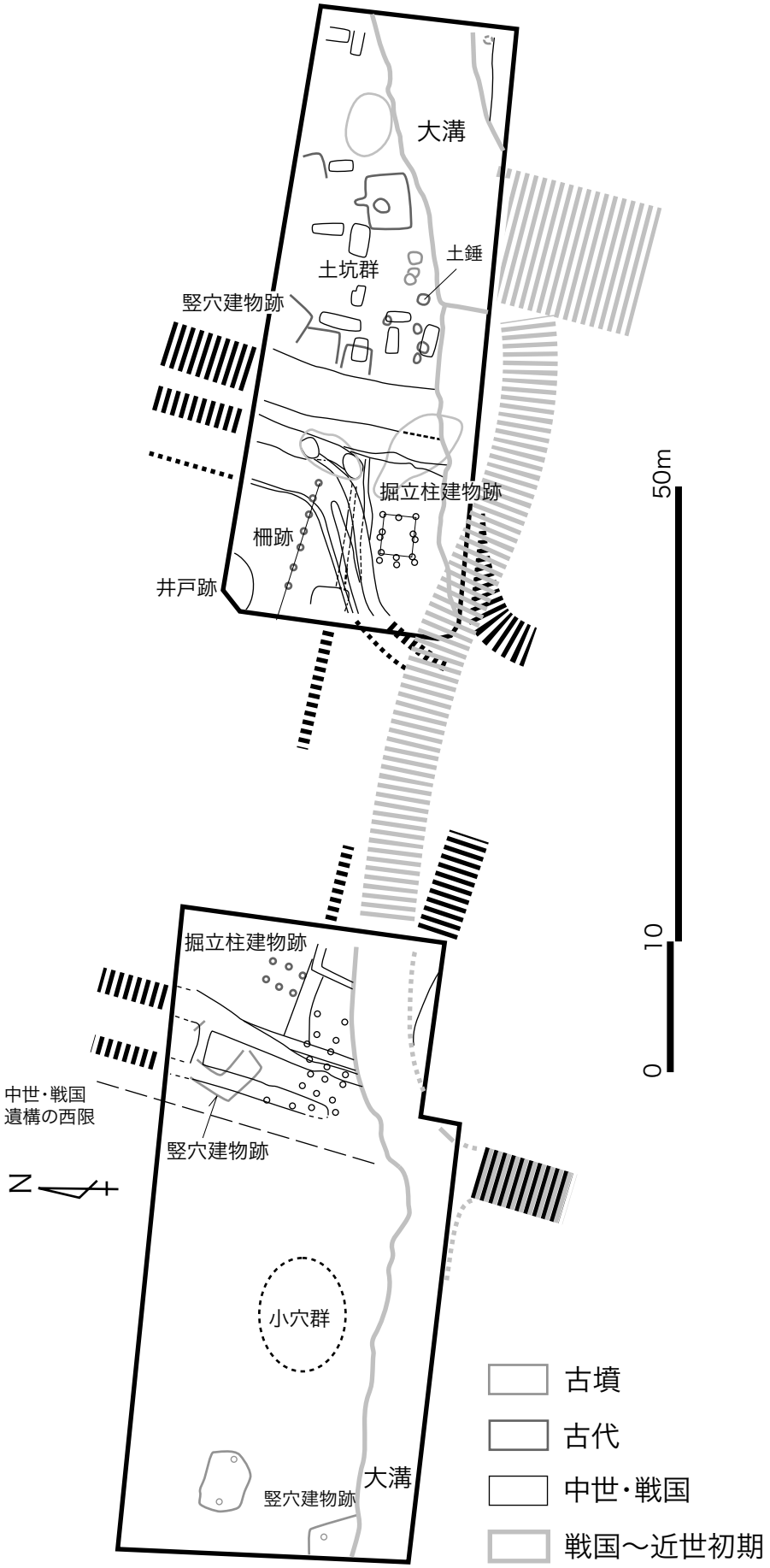


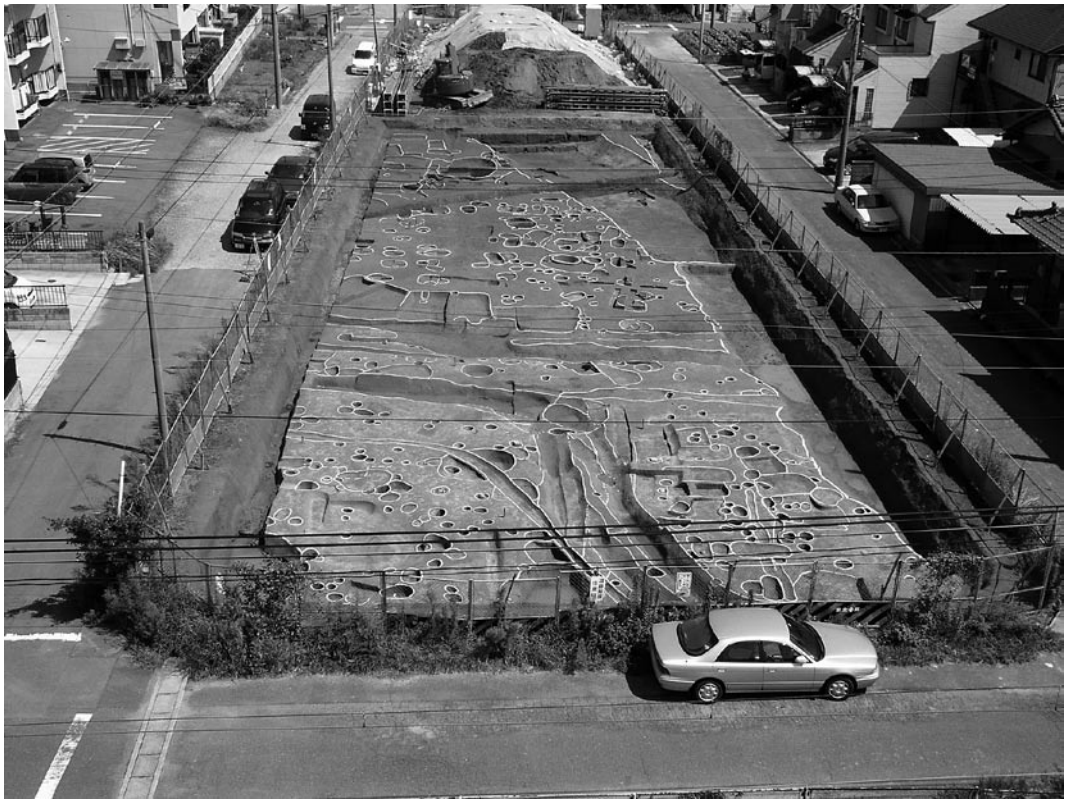
図２　御山寺遺跡遺構配置図



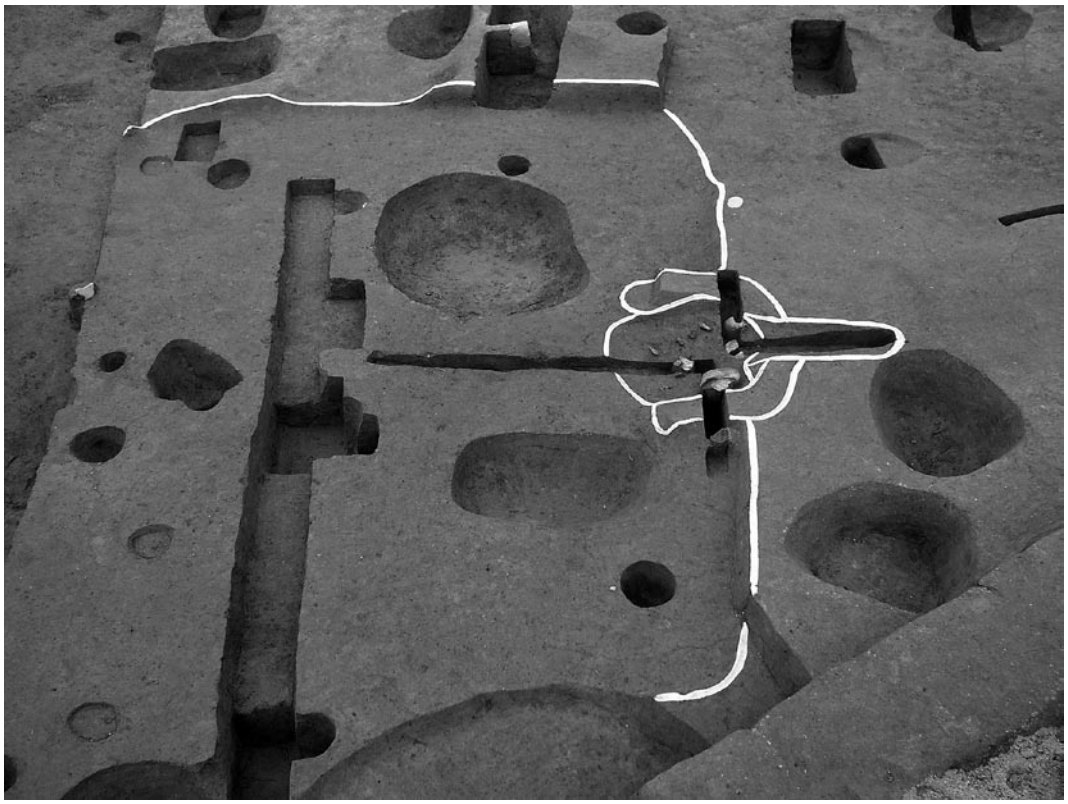
調査区全景　西から　中央が名鉄犬山線



04Ａ区全景　北西から　手前の白い部分が礫層　右上が大溝



04Ｂ区下面全景　西から



古代の竪穴建物跡

朝日（あさひ）遺跡

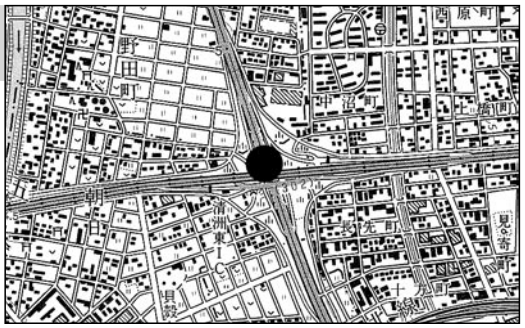
所　在　地　西春日井郡清洲町、春日町、名古屋市西区
（北緯35度13分18秒 東経136度51分18秒）

調 査 理 由　名岐道路

調 査 期 間　平成16年10月～平成17年３月

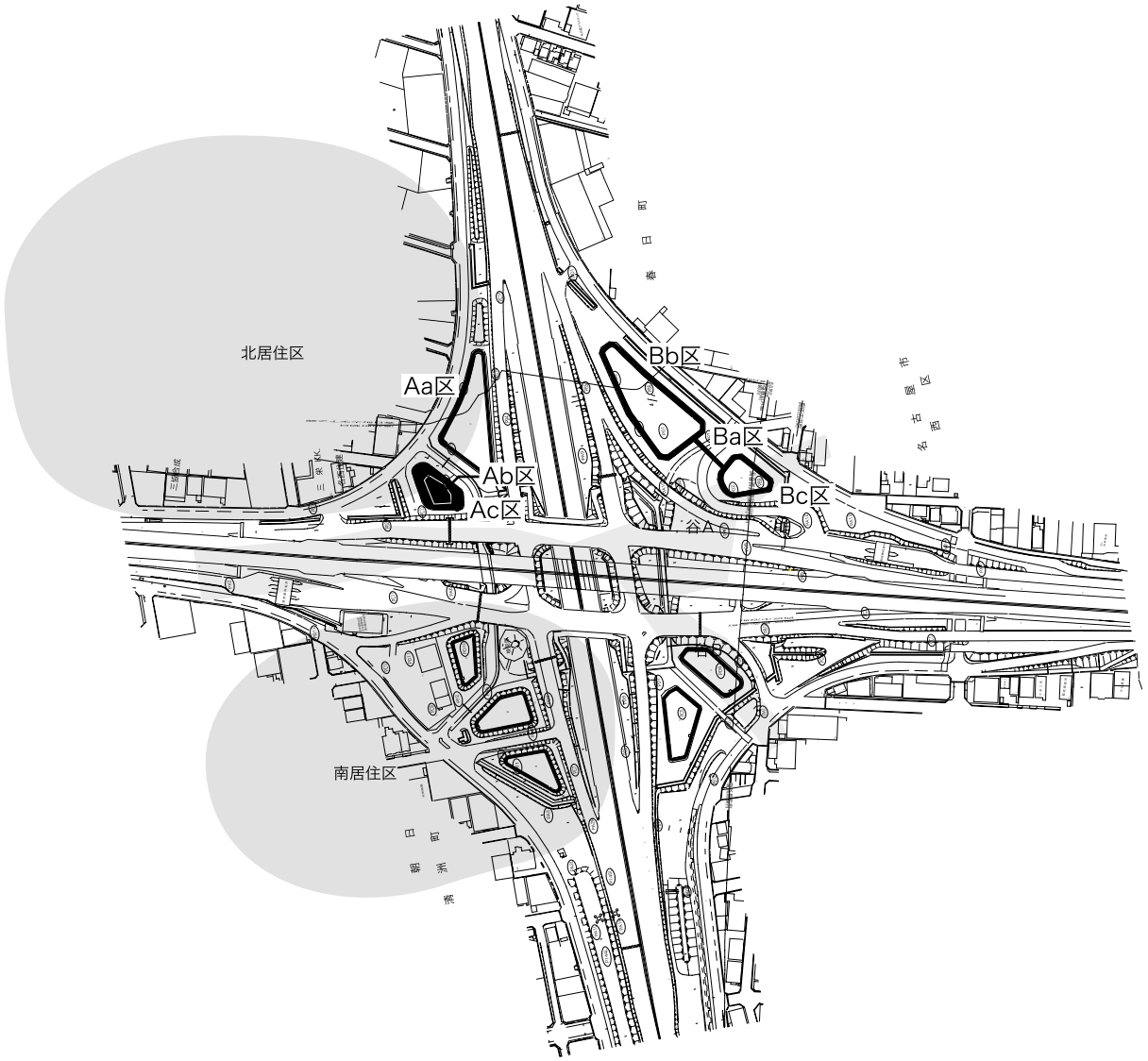
調 査 面 積　2,616㎡

担　当　者　石黒立人・加藤博紀・川添和暁・早野浩二



調査地点（1/2.5万「清洲」）

調査の経過　本遺跡は、西春日井郡清洲町を中心に同春日町・新川町・名古屋市西区に広がる東海地方屈指の弥生時代集落である。平成10年度より清洲JCT建設に伴い、当埋蔵文化財センターによる発掘調査が継続されている。調査は、名岐道路建設に伴う事前調査として、国土交通省愛知国道事務所・日本道路公団中部支社・名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。本年度は、2,616㎡を対象に、04Aa区・04Ab区・04Ac区・04Ba区・04Bb区・04Bc区の６調査区を設定し、調査を行った。



平成16年度調査区位置図

調査の概要
04Aa区

調査区は平成11年度に調査された99Ac区を挟み、また愛知県教育委員会が昭和54年度に調査した第78区～第82区の西側に位置する。検出された遺構は、大きく弥生中期前葉・弥生後期前半・古墳時代初頭・中世の４時期に分けられる。

弥生中期前葉の遺構としては、竪穴住居跡10軒程度・土坑多数・貝層・炉跡などがある。竪穴住居には方形プランと円形プランの両者がある。調査区北側を中心に、土坑内における貝層の堆積とともに、一部が遺構外に斜面堆積している様子が確認された。またそれに伴う焼土・炭化物を伴う炉跡が２基(SF01・SF02)と平坦面を作り出すための整地部分が検出された。SF01は径約３mの円形で、SF02に比べより広範囲に広がっているばかりか、その縁辺で貝層と焼土は互層をなし、貝層堆積と焼土形成が連続して行われていたようである。一方、整地層は貝層下および貝層中にも確認できたことから、貝層・焼土の形成直前および形成中に、整地作業が行われたようである。貝層の貝種はマガキが主体であり、ハマグリ・ヤマトシジミが若干含まれる。

弥生後期前半の遺構としては、竪穴住居跡12軒・環濠１条・区画溝１条がある。環濠は内環濠と考えられ、検出時で幅約１m70cm・深さ約１m50cmを測り、断面形状は逆台形である。区画溝は内環濠に直交するもので、検出時で幅約２m50cm・深さ約１m80cmを測り、これも断面形状は逆台形である。両者とも昭和54年度の調査でも確認されているものである。竪穴住居跡は、調査区全面で検出された。方形住居のみであり、長軸は北西―南東方向が中心である。構築材などの炭化物が多量に出土する住居跡(焼失家屋)もいくつか見つかっている。また、99Ac区に南接するSB01やその付近からは、ガラス小玉および管玉がまとまって出土している。

古墳時代初頭の遺構としては、竪穴住居跡３軒がある。調査区の南端・中央・北端に見られ、調査区周辺での居住地形成がこの時期に終焉したようである。いずれも方形プランであり、長軸は北西―南東方向が中心である。SB02では、住居内から土器群がまとまって出土した。

中世の遺構では、方形土坑が３基見つかっている。　　（川添和暁）



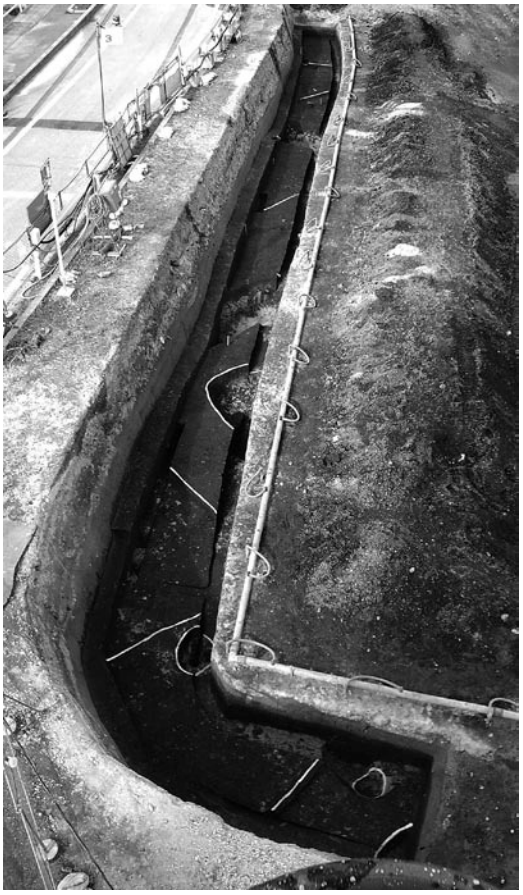
SF01および貝層検出状況（南西より）



SF01および貝層セクション（東より）



弥生時代後期～古墳時代初頭遺構全景（南より）



弥生時代後期前半遺構全景（南より）



弥生時代中期前葉遺構全景（南より）



SB01遺物検出状況（南より）



SK93（東より）

04Ab･Ac区　04Ab・Ac区は、北居住区と谷Ａの北岸が接する位置に相当する。調整池の底面となる04Ab区については、愛知県教育委員会との協議により、調査の対象を弥生時代後期の遺構が展開する調査区北半に限定し、調査区南半の弥生時代中期以前の遺構と堆積層は保存した。調査した主な遺構は、弥生時代後期の環濠３条、弥生時代中期後葉の大型土坑と貝層、弥生時代中期前葉の環濠１条、弥生時代の河道（谷Ａ）、中世の方形土坑である。

弥生時代後期の遺構として、北居住区を囲繞する環濠３条を検出した。環濠の幅は2.5ｍ前後、深さは1.5～2.0ｍである。内環濠SD01と外環濠SD02は後期前葉に開削され、埋没後、後期中葉にSD01を外環濠として再掘削すると同時に、内環濠SD03が新たに掘削される。つまり環濠は、２条が同時期に併存して機能したことになる。２条の環濠は、当初は断面逆台形､再掘削時には断面V字形に掘削され､掘削土は環濠間の盛土としている。また、環濠は遅くとも古墳時代初頭までにその機能を停止していることも確認した。

特筆すべきは、外環濠SD02が陸橋部を形成し、北居住区が南東に向けて開放することが判明したことである。加えてSD02が外方に向けて弧状に張り出すことは、半島状に突出する区画（別区？）を設定する意識があったことをも連想させる。

SD02には、木製品と土器を主とする遺物が大量に廃棄されていた。出土した木製品には彩色楯、工具（鑿？）の柄、武器形、合子蓋、高杯、筒形容器、丸木舟などがある。工具の柄は彩色がある優品である。なお、後期の環濠に貝の廃棄は認められなかった。

弥生時代中期後葉の大型土坑SK03は、谷Ａ北岸近くにおいて検出した。径約4.5ｍの円形で、擂鉢状に掘削される｡SK03にはハマグリ、アカニシを主体とする貝と石斧柄、鋤・鍬などの木製品が大量に廃棄されていた。中期後葉の貝層は同じくハマグリ、アカニシを主体とし、北居住区の縁辺から谷Ａにかけて広範囲に形成される。

弥生時代中期前葉の環濠SD10は､SD01南岸に一部重複しながら、谷Ａ北岸に沿って掘削される｡04Ab区で検出した部分については遺構を保存したため、04Ac区においてその一部分を調査したにすぎない。

中世の方形土坑は谷Ａ近辺に集中する傾向が認められた。

04Ab・Ac区の調査においては、弥生時代後期の環濠の開削と再掘削の時期を明確にしたこと、環濠開口部付近の景観復原に関係する資料を得たことが特筆すべき成果である。これらは後期の環濠集落の機能的な問題にも直結する重要な知見である。また、環濠から一括出土した土器群や木製品群は器種も豊富で、単一時期の遺物組成を示す良好な資料体としての評価が与えられる。



04Ab区全景（弥生時代後期）



SD01高杯



SD02



SD02彩色楯



SD02パレススタイル壺



SD03



SK03断面



04Ac区

04Ba・Bb区　04Ba・Bb区は、北居住区の東外縁に相当する。検出した主な遺構は、弥生時代中期前葉の竪穴住居と土坑、中期中葉～中期後葉の方形周溝墓、後期の竪穴住居、中世の水田と方形土坑である。

弥生時代中期前葉の遺構は、04Bb区北東部分を中心に分布し、より東の地区には安定した居住域が続くことも想定できた。検出した遺構は竪穴住居と大型の廃棄土坑などである。竪穴住居は床の構築が複数回に及ぶものが多く確認され、遺物も濃密に出土した。廃棄土坑は長軸2.0m以上、短軸約1.5m、深さ約1.5mで、平面形は長楕円形状と推定される。土坑には種子などの自然遺物も遺存する。また、04Bb区南西では、谷に面した緩傾斜面に遺物が大量に廃棄されていた。

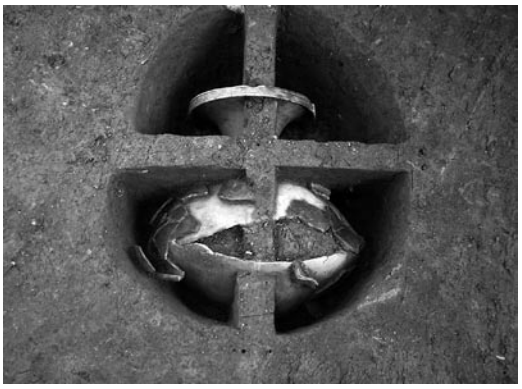
弥生時代中期中葉～中期後葉の方形周溝墓は調査区全域に分布する。中期後葉の方形周溝墓については、17基を確認した。これらは04Bb区北西、北居住区の環濠帯に接する地点から順次築造され、04Bb区の南東方向に徐々に造墓範囲を拡大したことも明らかとなった。墳丘盛土の残存は良好で、盛土内に埋設された土器棺を６基確認した。周溝は基盤層を深く掘削し、掘削土は墳丘盛土としている。周溝の幅は3.0m前後で、周溝底面からの墳丘の高さは約2.0mに達する。周構内各所からは供献土器が出土した。他に特筆すべき遺物として、04Bb区北西端の方形周溝墓の上層より出土した腕輪形（貝輪形）土製品がある。



04Ba区方形周溝墓



04Bb区方形周溝墓



04Bb区土器棺



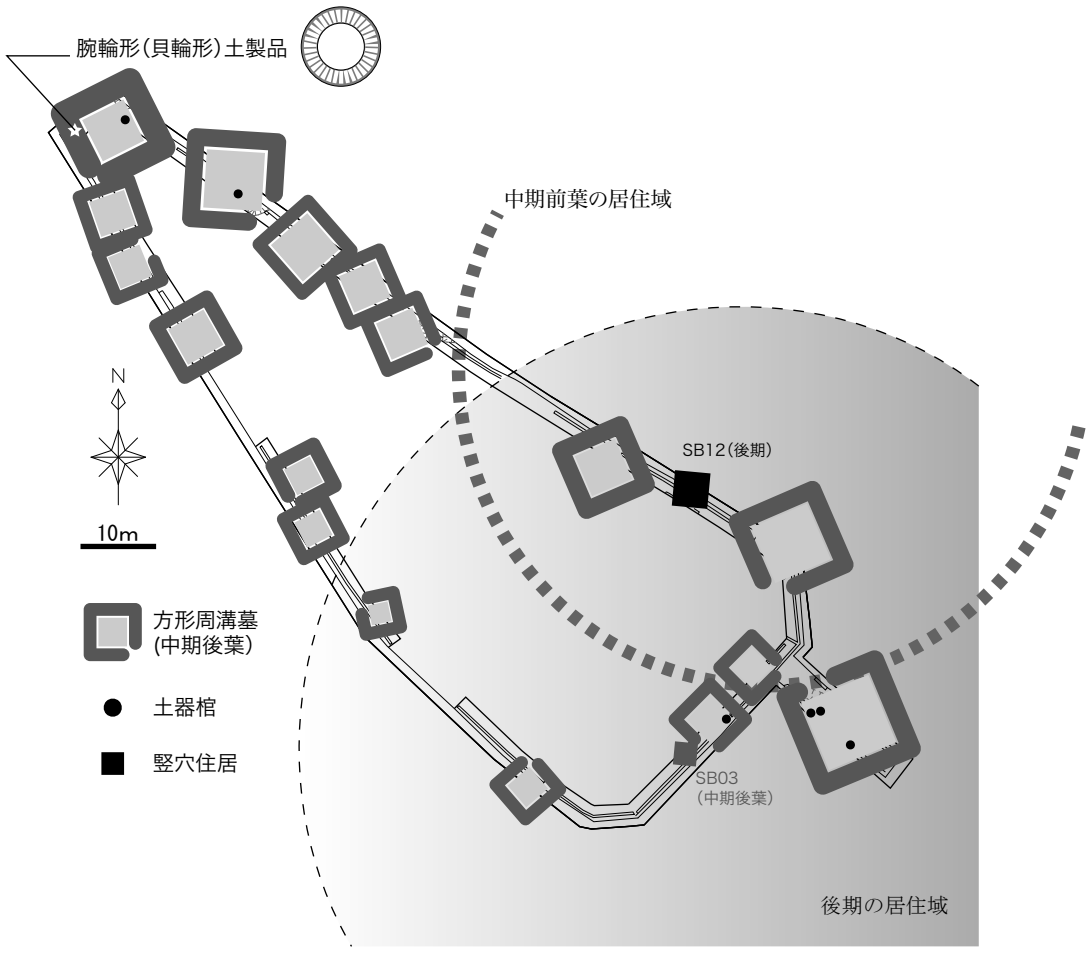
04Bb区SB12

中期中葉の方形周溝墓は、中期後葉の方形周溝墓との重複によって、全体像を把握することが困難であった。概して小規模で、供献土器がともなうことはまれである。

弥生時代後期には方形周溝墓の埋没が進行し、04Ba区、Bb区南東は散在的な居住地へと移行する。居住地は埋没過程の方形周溝墓の起伏を利用して住居や配水路を配置し、周溝にはしばしば土器を廃棄する。竪穴住居SB12では土器の一括出土、柱根の遺存を確認した。

中世の水田は重複関係から、方形土坑に先行することが明らかとなった。なお、04Bb区北西の北居住区から続く微高地端部、04Bb区南西の谷に面した南西方向への緩傾斜面を中心に、縄文時代後期の土器の分布が確認された。

04Ba・Bb区の調査においては、広域に展開する方形周溝墓群を良好な状態で調査できたことが特筆される。加えて、縄文時代から近世に及ぶ景観、土地利用の変遷を詳細に跡づける新知見が数多く得られた意義も大きい。これらの情報によって、従来不明瞭であった東居住区と東墓域の構造の理解が大きく前進するものと思われる。　　（早野浩二）



04Ba・Bb区遺構配置図（1：1,000）

高木（たかぎ）遺跡

所　在　地　扶桑町大字高木
（北緯35度21分35秒 東経136度54分29秒）
調 査 理 由　県道草井・羽黒線道路改築
調 査 期 間　平成16年４月～平成16年５月
調 査 面 積　850㎡
担　当　者　石黒立人・加藤博紀



調査地点（1/2.5万「犬山」）

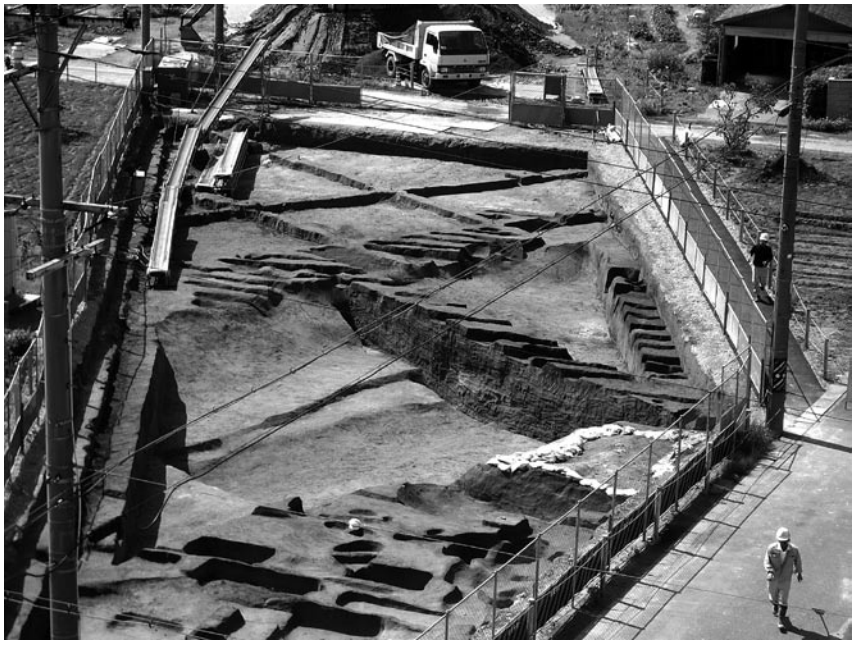
調査の経過　本遺跡の発掘調査は県道草井羽黒線道路改築に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成16年４月から５月にかけて実施した。調査面積は850㎡である。

立地と環境　扶桑町は木曽川の左岸に位置し、犬山市と江南市に挟まれる。高木遺跡は標高30m前後の犬山扇状地上に立地し、北西および南東には旧木曽川の流路が谷地形を残している。

調査の概要　今回の調査区は平成15年度調査区の南東に位置する。上面の調査結果は前回同様であり、遺構検出面は幅の狭い撹乱溝によって縦横に裁断され、部分的に方形土坑が遺存していた程度であった。遺物の出土もあまり多くは無かった。

下面では幅約14m、深さ２mほどの大溝（SD01）を検出した。遺物の出土量は上面同様けっして多くはなかったが、７世紀後半代の須恵器が出土した。堆積層は、下部に砂層があることから水流の存在がうかがえたけれども、底面は土壌化しており、当初は乾燥していたと判断される。

大溝の方向は調査区内ではほぼ南北であり、扇状地を斜に横断している。水流の存在は木曽川旧流路に接続していることを示すと考えるが、当初乾燥していたことは、水路ではなく微高地を横断する「切り通し」的なものでなかったかと想像させる。　（石黒立人）


SD01全景　南東から

惣作（そうさく）・鐘場（かねば）遺跡



調査地点（1/2.5万「猿投山」）

所在地　瀬戸市惣作町、鐘場町地内町
（北緯35度13分4秒 東経137度7分42秒）

調査理由　国道248号線建設

調査期間　平成16年４月～10月

調査面積　10,200㎡

担当者　酒井俊彦・鵜飼雅弘・樋上 昇・武部真木・川添和暁

調査の経過　調査は県道瀬戸設楽線建設のため愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて委託を受け、平成12年度より実施している。平成12年度は遺跡範囲の南部、平成13～15年度は南部および北部と一部中央部の調査を行った。先年度までの延べ調査面積は13調査区20,575㎡である。これまでの調査によって旧石器時代末から近世までの遺構・遺物が検出されている。今年度は遺跡北部に１調査区、中央部に４調査区と北部に１調査区を設定して調査を実施した。今回が本センターの行う最終調査となる。

立地と環境　惣作・鐘場遺跡は瀬戸市東部の惣作町・鐘場町に所在し、矢田川支流である赤津川の左岸の標高170m前後の２段よりなる洪積河岸段丘上に立地する。周囲は山地および丘陵地帯であり、盆地の中央に展開する。遺跡は赤津川と門前川を西限及び南限とし、北側と東側は山地に接する。惣作川を挟んで地形的に南北２つに別れる。周辺には南側に太子縄文遺跡、太子遺跡、北東部の山地部に大目神社古墳、巡間Ｅ窯跡、瓶子窯跡、凧山Ｃ窯跡、凧山窯跡、凧山屋敷遺跡、凧山Ａ窯跡、赤津川上流に長谷口遺跡、八王子遺跡など旧石器時代から縄文時代が主体となる遺跡と中世以降の古窯跡が分布する。

調査の概要　調査区として、遺跡北部にＡ区1,850㎡、中央部にＢ～Ｅ区計7,750㎡、南部にＦ区600㎡を設定した。

０４Ａ区　南北に長い段丘の上位面と一部下位面に位置する。東側は惣作川の河谷に面し、西側と南側は下位段丘面である。隣接する部分の調査は平成13・14年度に行っている。調査区全体に近年の耕作による削平が著しい。主な遺構としては、弥生時代後期、古墳時代、奈良時代の竪穴住居を多数検出したが、遺構の遺存状況は悪く、遺物も全体として少量である。

弥生時代については、02Ｂ区で銅鐸型土製品を出土したSB01の残りの部分を検出した。弥生時代後期から古墳時代前期にかけては11棟の竪穴住居を確認した。調査区南端部のSD01からは02Ｂ区と同じく古墳時代前期の遺物が比較的まとまって検出された。その他、調査区全体からは部分的なものと痕跡的なものを含め、約100棟の竪穴住居を検出した。古墳時代～奈良時代の時期に属すると考えられるが、全体として遺存状況が悪く、詳細は明らかにできない。

04B・C・D・E区　赤津川と門前川の間の南西から北東方向の段丘上に位置する。Ｅ区の南東部は門前川の河谷にかかる。Ｃ区の南東部とＢ区の大部分は低位段丘面にあたり、調査範囲の中央部は上位段丘面に相当する。調査区の北東端は惣作川の河谷に面する。南西に隣接する部分は平成12～15年度の調査が行われている。また、04Ｄ区の北西側は瀬戸市埋蔵文化財センターの調査が行われている。

この調査区で検出された主な遺構・遺物としては、古墳時代、中世および戦国時代と近世の時期のものがある。古墳時代の遺構としては前期の竪穴住居が２棟（SB07・08）、同後期が６棟（SB01～06）検出された。SB07・08はいずれも北東側に竈が検出され、土師器甕などが比較的まとまって出土している。SB01～03は隣接する平成15年度の03Ｂ区で同

時期の竪穴住居が展開し、その住居群の一部である。6世紀代の時期と考えられる。SB04～06は軸を同一方向にとる。遺存状況は悪く、出土遺物がわずかなため詳細は不明であるが、6～7世紀の時期に属す。04B区東半部分の下位段丘面において、基盤層の最上層の黒色土中でこの時期の土器が少量検出されている。中世以降、この面は水田であることが確認されている。溝、畦畔などは検出されず、花粉分析ではプラントオパールなどの結果は出ていないが、古墳時代にも生産域となっていた可能性がある。

中世の遺構としては、掘立柱建物の柱穴と考えられる土坑多数および、竪穴状遺構1基（SX01）が検出された。戦国時代以後の遺構に切られ、混在するために詳細は明らかにしえないが、03B区にかけて集落が存在したと考えられる。また、B区からC区南東部にかけての低位段丘面に水田耕作にともなうと考えられる溝が展開する。段丘面は惣作川から門前川に向かってわずかに傾斜し、溝は傾斜の方向に沿う形で最大4条が平行して検出された。埋土は黄白色粗粒砂を基本とし、流水の痕跡が認められる。少量の山茶椀が出土した。同層位で近世以降の水田耕作土がのるため、この時期の畦畔などの遺構は検出されなかった。その他、E区の門前川の河谷では基盤面に近い層序から、谷に沿う方向に杭列が検出された。河谷埋土から13～14世紀の包含層が検出され、山茶椀、古瀬戸施釉陶器、少量の木製品などが比較的まとまって出土した。

戦国時代の遺構は、B区からD区にかけて多数の掘立柱建物の柱穴および土坑、井戸4基（SE01～04）、溝などが検出された。土坑はC区南西半に密集して検出され、この部分を中心に南西側と北東から東側を大溝群が走り、集落域を形成する。集落域は北東から南西方向に走る溝群によって中央部が区切られている。大溝は検出面において、最大幅約8m同深さ1.5mを測る。南西側溝群は南東方向にむかって門前川の河谷に達している。北西側は瀬戸市埋蔵文化財センターの調査により北東方向に屈曲することが確認されている。北側の溝群は、東半はほぼ南北方向、西部は北西方向に角度を変える。新しい溝の掘り替えでは南東に屈曲して河谷に向かう方向をとる。これらは15世紀後半から16世紀前半の時期に属し、溝の切り合い関係から、最少3時期に細分される。調査区内では確認できないが、遺跡南西側で連結する可能性が高い。遺跡北西側では、一定の時期において連結することが考えられる。SB101は、比較的大形の掘立柱建物で、主軸を区画溝と同一方向をとる。SB102は大溝より新しい時期に属する。井戸は4基検出された。SE01・02は構造物が抜き取られているが、曲げ物を井戸側とする。SE03・04は桶組の井戸側で、SE04は方形井戸枠を有する大形のものである。

近世の遺構はC区東部で検出された。落ち込み状の遺構（SX02）から、17世紀代の瀬戸窯産施釉陶器、漆椀などの木製品が出土した。SE05、SE06はこの時期の石組み井戸である。

04F区

上位段丘面に位置する。東側は門前川の河谷であり、急傾斜面となる。

古墳時代前期の土坑および中世以降の土坑、溝などが検出された。近年の耕作に伴う削平などによって遺構の遺存状況は悪く、遺構・遺物は少ない。少量の古墳時代土師器甕、山茶椀などが出土した。

ま と め

B～E区の位置する部分は、遺跡の所在する盆地の中央部分に相当し、段丘の最高所にあたる。中世から連続的に集落が展開してきたものと考えられ、今回の調査では戦国時代に大規模な溝に囲まれた集落が形成されたことが確認された。この集落は近世初期には縮小し、以後廃絶している。このことに関する伝承などは現在のところ確認できていない。今後、この時期の集落の推移について文献をふくめて検討していく必要がある。

（酒井俊彦）

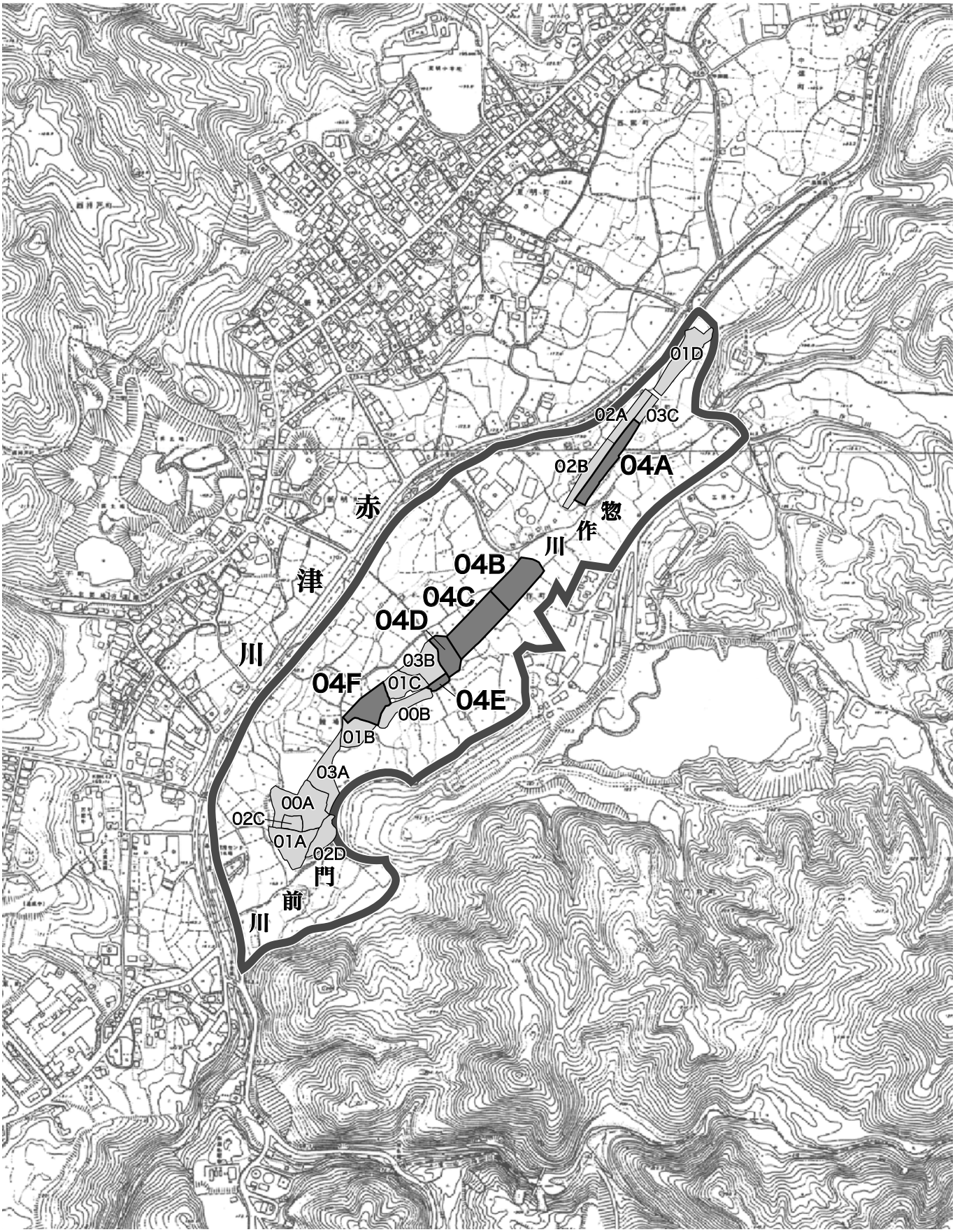


図１　調査区位置図（約1：7,000）

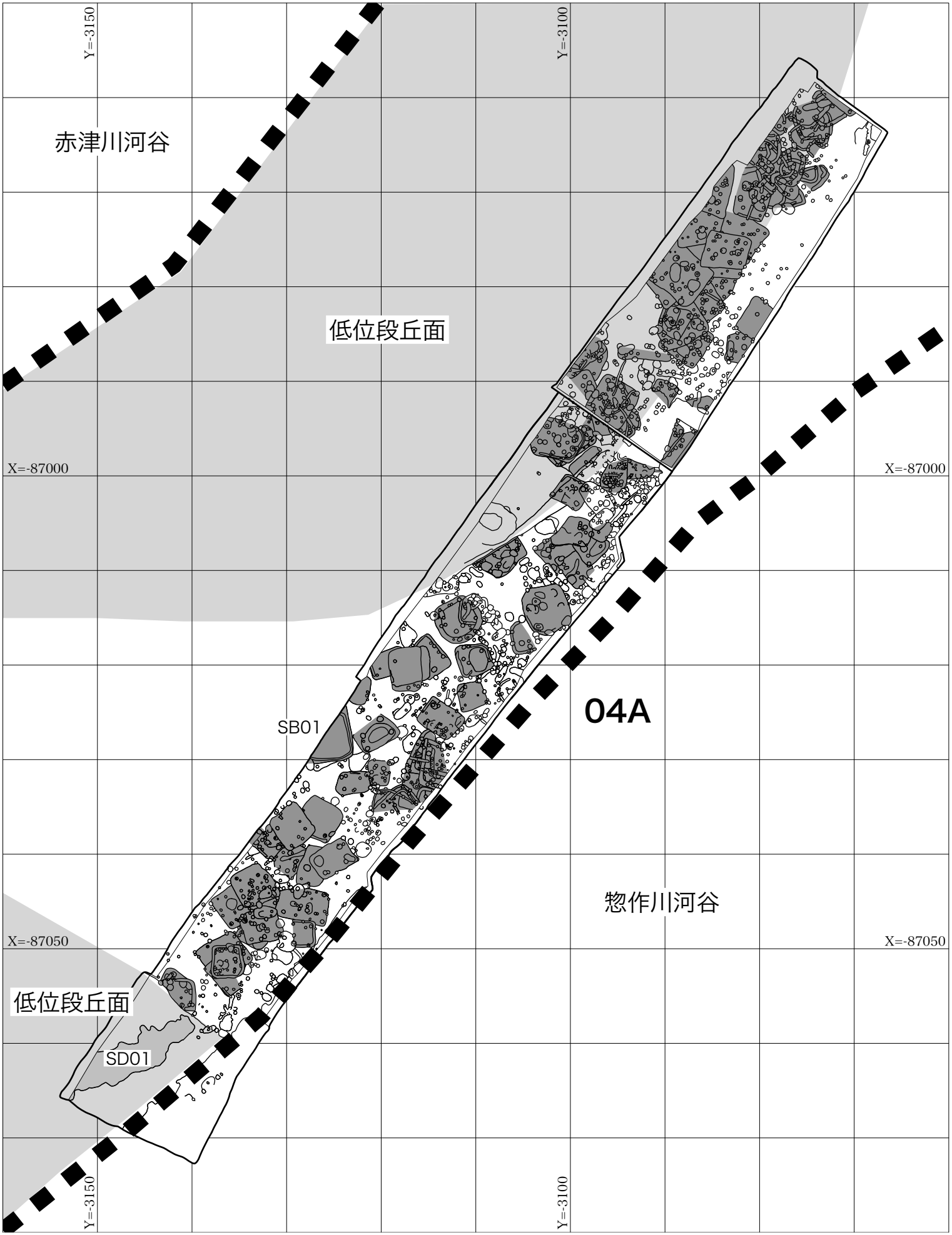
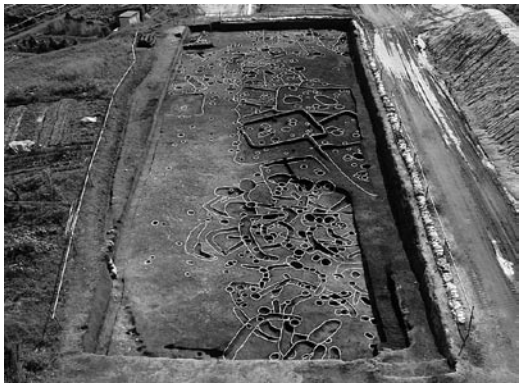


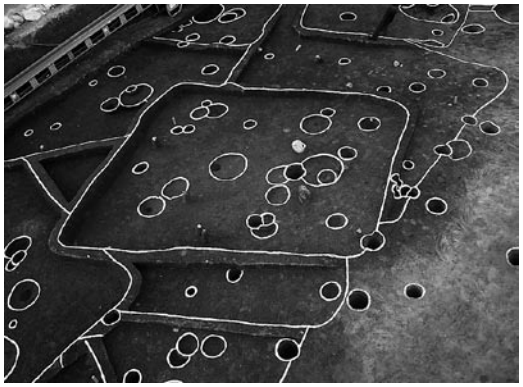
図2　A区遺構全体図（1：500）



Aa区全景　北東より



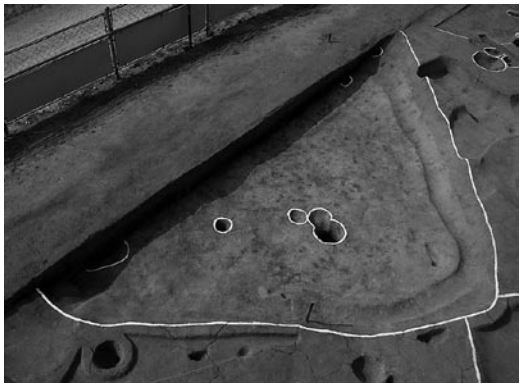
Aa区竪穴住居



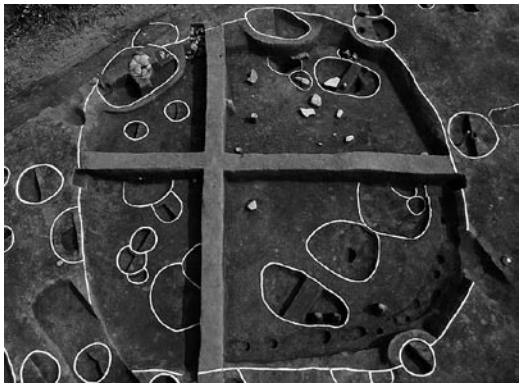
Aa区古墳時代竪穴住居



Ab区全景　北東より



Ab区弥生時代竪穴住居



Ab区古墳時代竪穴住居



古墳時代遺物出土状況



SD01　北東より

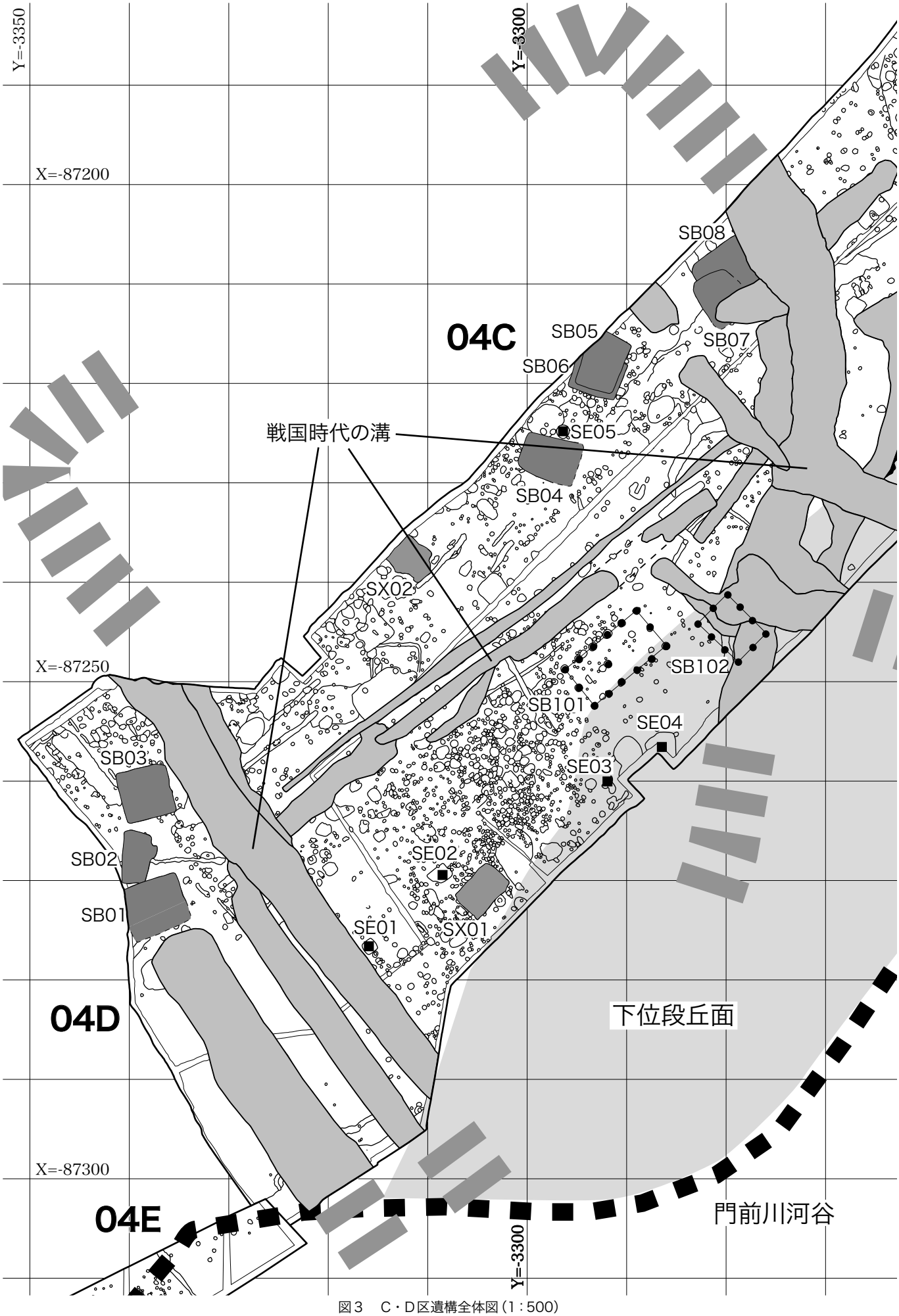


図3　C・D区遺構全体図（1：500）

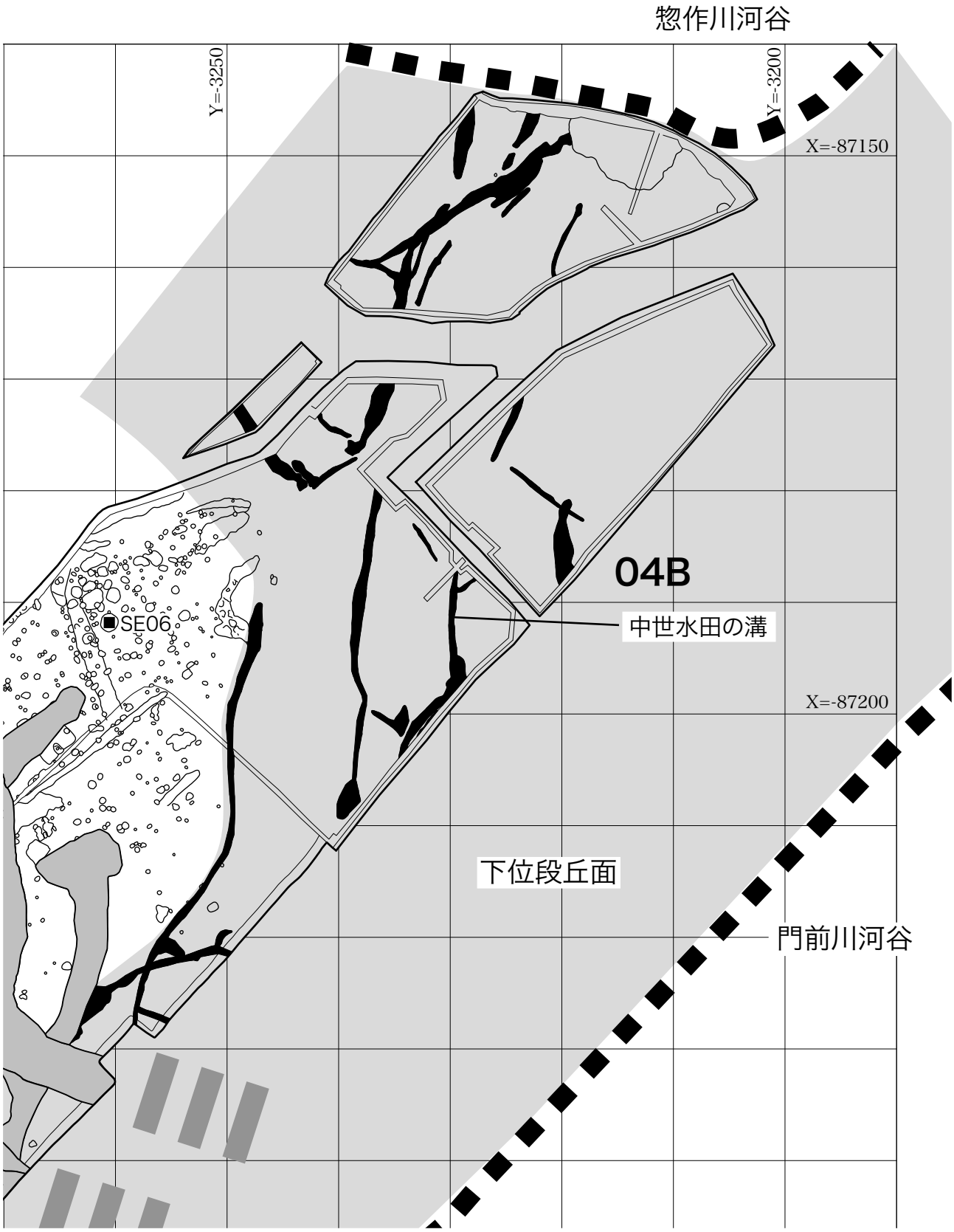


図４　Ｂ区遺構全体図（1：500）



B区全景　南西より



B区溝群　南より



B区溝完掘状況



Ca区全景　北東より



Ca区大溝群　北より



SB101　北東より



SE04　北東より



Cb区全景　南東より



Cb区大溝　南東より



Cb区竪穴住居群　南東より



SX02　南西より



Db区全景　南東より



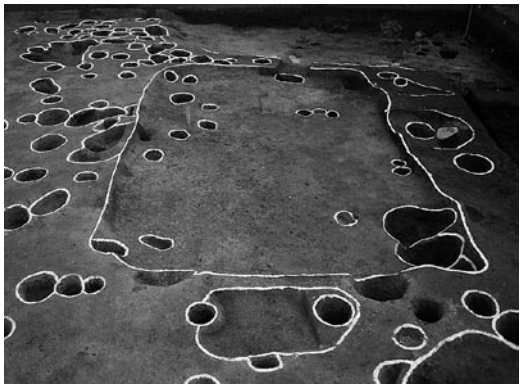
Db区大溝群　北西より



Db区古墳時代竪穴住居群　北西より



SE01遺物出土状況　南東より



SX01　南西より

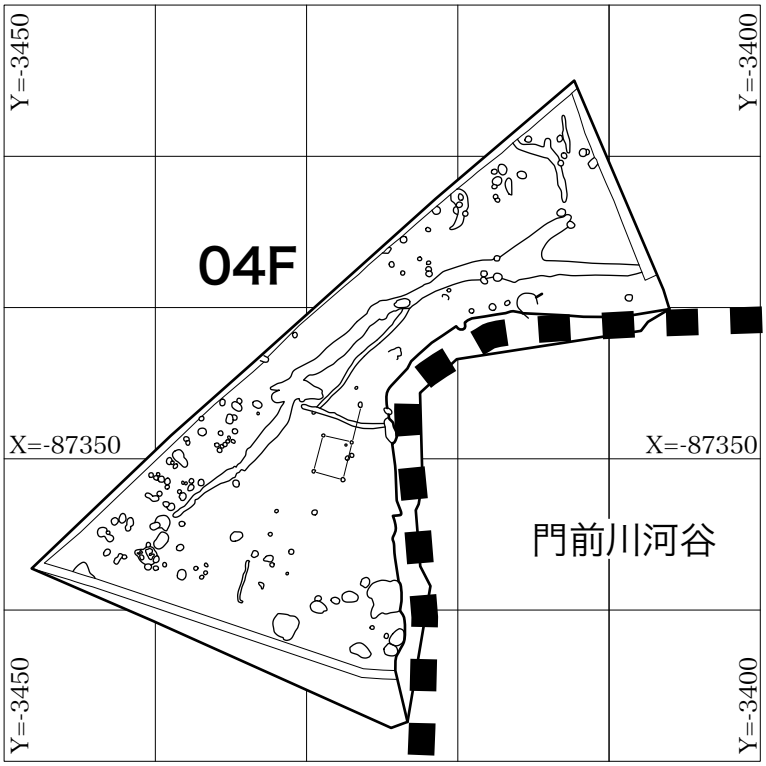


図５　Ｆ区遺構全体図（1：500）



Ｅ区全景　北東より



Ｅ区杭列　北西より



Ｅ区中世遺物出土状況



Ｆ区全景　南西より

桑下城跡（くわしたじょう）

所　在　地　瀬戸市上品野町桑下
（北緯35度15分22秒 東経137度8分19秒）
調 査 理 由　国道363号線改良工事
調 査 期 間　平成17年１月～３月
調 査 面 積　1,000㎡
担　当　者　酒井俊彦・樋上　昇



調査地点（1/2.5万「多治見」）

調査の経過　本遺跡は国道363号線の改良工事にともなう事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成17年１月から３月にかけて実施した。調査面積は1,000㎡である。

立地と環境　桑下城跡は、瀬戸市東部にある品野盆地の北東部に位置し、水野（品野）川と蟹川にはさまれた標高約200mの丘陵上に立地する平山城である。

文献および地元の伝承によれば、桑下城は応仁の乱の際、東軍に属して敗れた美濃国安八郡今須城主長江氏の一族、長江利景（近世地誌類では永井民部少輔）が尾張国春日井郡科（品）野の地に逃れて落合城（瀬戸市落合町）に入り、のちに築いた城とされている。長江利景は文明14（1482）年、今村城主の松原広長と大槙山・安土坂・若狭洞で戦って勝利を収め、瀬戸市一帯を手中にした。その後、16世紀に入ると、尾張・三河・美濃の国境に接するこの地は松平氏と織田氏で激しい勢力争いの場となり、享禄２（1529）年には松平清康（徳川家康の祖父）によって支配されるにいたる。そして、永禄３（1560）年、桶狭間の戦いの前哨戦として、前述の落合城や、水野川をはさんで桑下城の南側にある品野城とともに織田信長の攻撃を受けて焼失し、廃城となったとされている。

調査の概要　本年度は、蓬左文庫所蔵の絵図に残る桑下城の本丸および侍屋敷よりも西に位置する、丘陵西端部の調査をおこなった。その結果、のちに畑として改変は受けているものの、曲輪と考えられる平場を多数確認した。曲輪は、水野川に並行して走る中馬街道を意識して南側と西側にのみ築かれ、北側は武者走りとおもわれるわずかな平坦面しか存在しない。また、曲輪間を移動するための道も確認されている。遺物は少ないものの、おおむね15～16世紀代に属する。

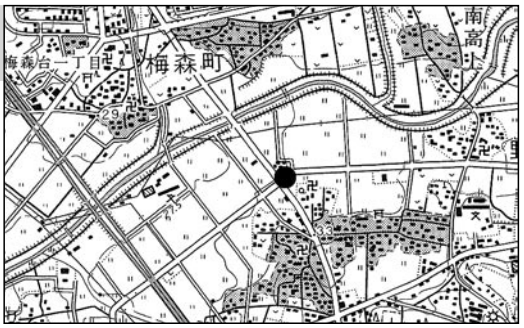
『愛知県中世城館跡調査報告Ⅰ』掲載の縄張り図や試掘調査の結果で、桑下城の範囲に入るか否か疑問視されてきた丘陵の西端部においても、曲輪が確認されたことから、桑下城跡は従来考えられてきた以上に大規模な城郭であり、その重要性があらためて認識されたといえる。今後、絵図にある侍屋敷の大半と本丸の北半部に調査がおよぶことから、その調査成果は戦国期の城郭研究に大きく寄与するものとおもわれる。　（樋上　昇）


全景　東から


全景　北から

三ヶ所（さんがせ）遺跡

所　在　地　日進市浅田町地内
（北緯35度7分47秒 東経137度1分20秒）
調 査 理 由　県道岩崎名古屋線道路改築
調 査 期 間　平成16年10月～12月
調 査 面 積　880㎡
担　当　者　永井宏幸



調査地点（1/2.5万「平針」）

調査の経過　調査は、県道岩崎名古屋線道路改築の事前調査として、愛知県道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成13年度（1,550㎡）と平成14年度（370㎡）の２次にわたりおこなっている。今回は３次調査にあたり、平成16年10月から12月にかけて実施した。調査面積は880㎡である。

立地と環境　三ヶ所遺跡は日進市の西部、浅田町地内に所在する。現在の国道153号線バイパス浅田西交差点の北東500ｍに位置し、天白川左岸域に展開する沖積地に立地する。現地標高は28m前後を測る。隣接する遺跡としては、古代から中世にかけての遺構・遺物を確認した西田面遺跡が500m南西にある。

調査の概要　調査の結果、古代から近世にかけての遺構・遺物が確認された。

古代の遺構としては、溝SD605と土坑SK704が確認された。SD605は南東から北西にむけて蛇行する自然流路と考えられ、現在の三ヶ所交差点に向かって天白川へと流れ込むと推定できる。流路の堆積は粗粒砂から砂礫層であり、この中から大量の灰釉陶器椀・須恵器などが出土した。SK704は調査区南壁にあり、調査区外へ延びる方形状の落ち込み。炭化物層が上層を覆い、その下部から把手付灰釉陶器小瓶片が出土した。中世の遺構としては、ほとんど近現代の整地により削平を受け、痕跡程度の溝が数条確認されたのみである。今回もっとも多く確認された遺構は、近世以降の土坑である。遺物をほとんど含まない人為的に埋めた土坑。性格は不明なものの、７基以上の土坑が縦列に並ぶ。この他、調査区を南東から北東に縦断する水路が２条ある。検出当初にビニールなどが混在していたので耕地整理直前まで使用していた水路と判断した。　（永井宏幸）


04A区全景


縦列配置の土坑群

桜鐘古窯群（さくらがね）

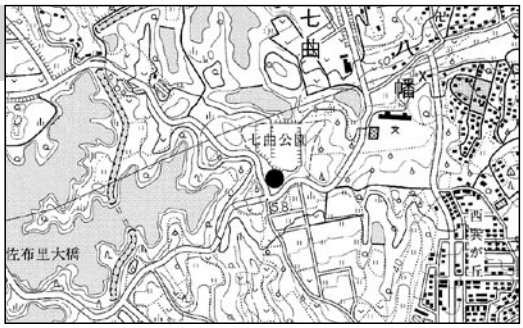
所　在　地　知多市佐布里字奥茂長田
（北緯34度57分55秒 東経136度54分1秒）

調 査 理 由　工業用水道事業

調 査 期 間　平成16年４月～６月

調 査 面 積　536㎡

担　当　者　宮腰健司・池本正明



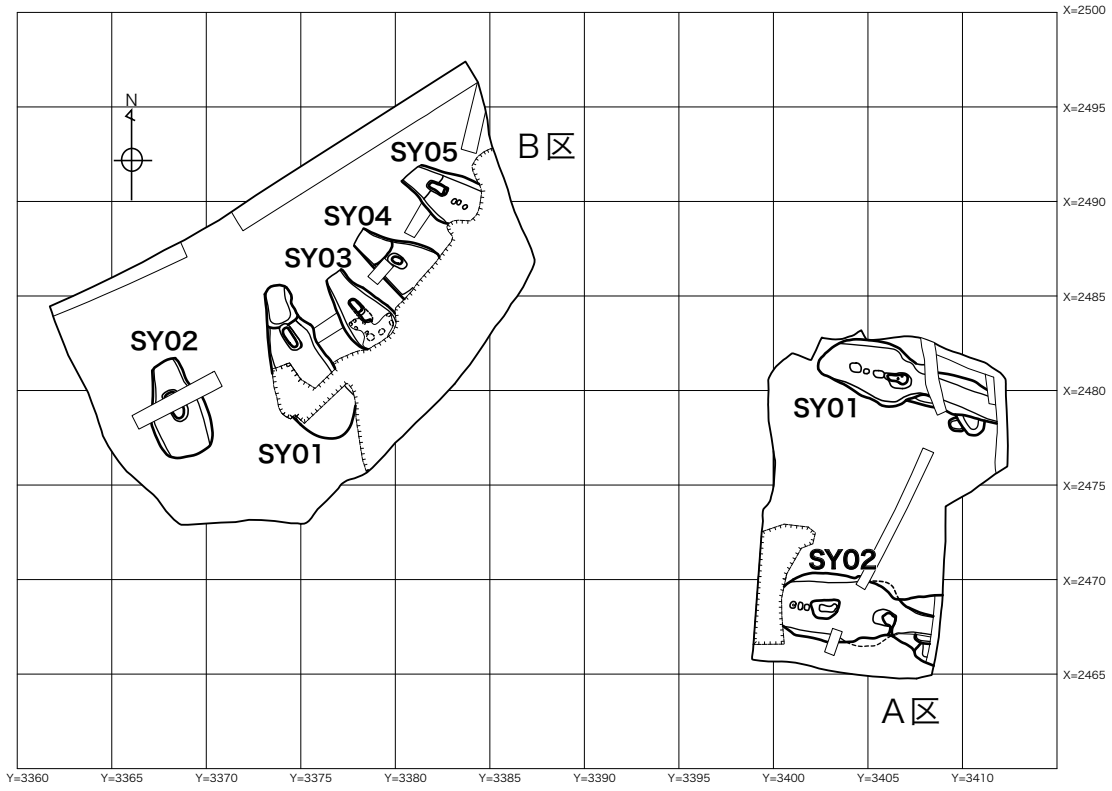
調査地点（1/2.5万「刈谷」）

調査の経過　調査は工業用水道事業に伴う事前調査として、愛知用水水道南部事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査面積は536㎡である。

調査区は、北東に向けて伸びる小尾根の頂部付近となる。調査区周辺は、工業用水道事業計画が開始される以前に、一部を除き標高60m前後に削平されていた。このため、調査は残存する斜面部のみを対象とし、南東側斜面をＡ区、北西側斜面をＢ区とした。

調査の概要　調査の結果、Ａ区で２基、Ｂ区で５基の窯体を検出した。窯体の残存状態は良好とは言えず、いずれの窯体も燃焼室と焼成室の下半部が残存するにすぎない。

窯体構造で特徴的となるのは、Ａ区SY02の焼成室内に設置されたいわゆる「支柱」がある。Ａ区SY01、Ｂ区SY05の床面でもその痕跡が確認でき、ここでも設置されていた可能性が高い。また、分焔柱を焼成室側に伸ばす改修が、Ａ区SY01・02、Ｂ区SY01・03で確認できた。このうち残存状況が良好なＡ区SY01でその手順を観察すると、分焔柱基底部の少し上方に直径５㎝程度の杭を打ち込み、スサ入り粘土を巻き付けた直径10～15㎝程度の棒状の粘土塊を作った後、これを支えとしてさらにスサ入りの粘土を貼り付けて、基底部計測で0.5m程度焼成室側に分焔柱を伸ばしている。



遺構平面図（1：400）

次に、遺物の出土状況で特徴を探すと、まずA区SY02の焼成室最下部の壁際から、ほぼ完形となる甕が伏せられた状態で出土している。甕は焼成時には底部を下として窯詰めされており、焼成後に改めて天地逆に置かれたものと考えられる。伏せられた甕は底の一部が剥離しており、これが原因して窯内に遺棄されたものかもしれない。ただし、甕の出土位置が焼成室から見て分焔柱手前にあたり、製品搬出作業の障害となることから、一応遺棄以外の可能性も考慮しておきたい。また、B区SY01では、分焔柱の補修部分にほぼ完形な壺を塗り込めている。ただし、分焔柱の中央が大きく攪乱により抉られており、詳細は明らかではない。

出土遺物は、壺・甕・鉢が主体となり、椀・小皿がこれに加わる。時期は13世紀後半（6a型式期）が中心となっている。出土遺物は未整理だが、A区SY01の製品に鳥をモチーフとした押印文が数点確認されている。

（池本正明）



A区全景



B区SY03



A区SY02



分焔柱断面



B区SY02分焔柱



鳥押印文

夏敷（なちき）古窯跡



調査地点（1/2.5万「常滑」）

所　在　地　常滑市夏敷地内
（北緯34度53分41秒 東経136度50分59秒）

調 査 理 由　常滑西特定土地区画整理事業

調 査 期 間　平成16年４月～７月

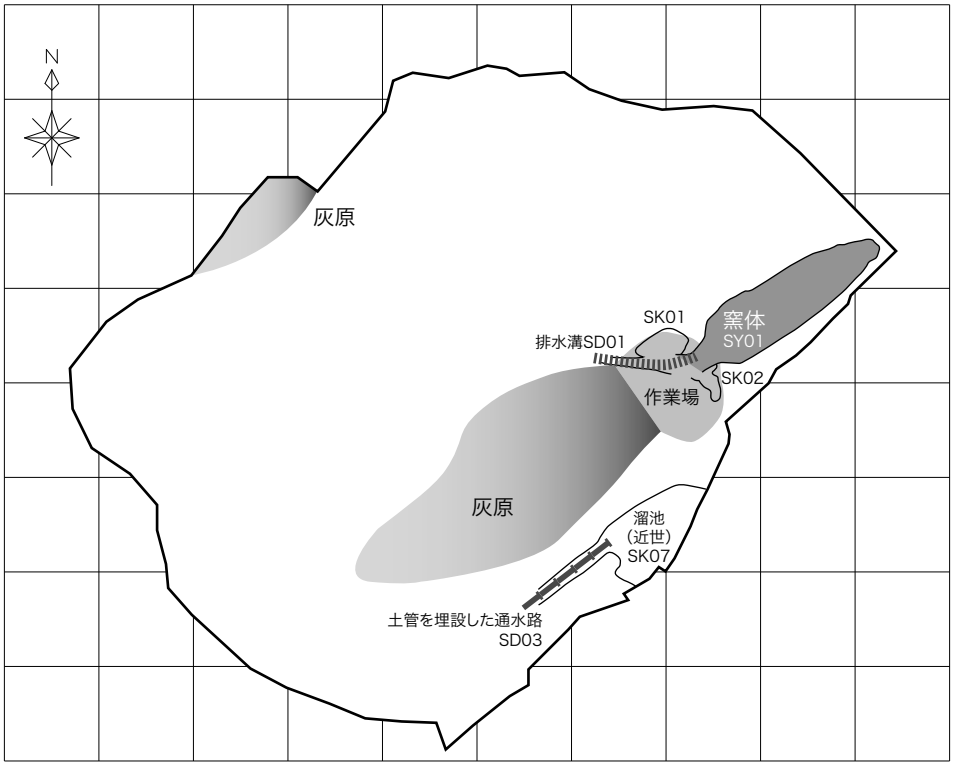
調 査 面 積　915㎡

担　当　者　宮腰健司・早野浩二

調査の経過　夏敷古窯跡は、常滑市夏敷地内に所在する中世常滑焼の古窯跡である。本窯跡の発掘調査は、常滑西特定土地区画整理事業に伴う事前調査として、都市基盤整備公団（現独立行政法人都市再生機構）より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成16年４月～７月、調査面積は915㎡である。

立地と環境　夏敷古窯跡は、知多半島中央丘陵から西に派生する尾根先端付近の南西斜面に立地する。尾根の標高は約33mである。同一尾根の北斜面には四池Ａ・Ｂ古窯、尾根小谷中の東斜面には蛇廻間古窯跡、支谷を挟んだ東尾根上には柴山古窯跡群が立地する。

調査の概要　発掘調査の結果、主要な遺構として窯体１基（SY01）、窯体に付随する作業場と灰原を確認した。窯体の南東側、北西側と灰原の末端は農地や溜池、道路の造成による大きな改変を受けていて、本来の窯体の基数、灰原の正確な規模は不明である。また、灰原南西の造成地に近世の溜池（SK07）とそれに付随する通水路（SD03）を検出した。



遺構配置図（1：400）

窯　体
ＳＹ０１

調査区の東端において検出した。主軸方向はN―123°―Wである。窯体の残存は良好で、焚口から煙道部までが残存し、燃焼室の天井の一部は原位置を維持していた。現存する長さは約11.5m、最大幅は焼成室で約３mである。焼成室には硬化した床が部分的に残存し、焼台の配列、鉢の高台が剥離した痕跡が確認できた。床面の最大傾斜は約35°である。窯壁は１面が残存するのみで、全面的な補修は確認されず、床面下施設も構築されていなかった。また、焼成室には崩落した天井の上面に層厚約５㎝の炭化物層が堆積していた。その成因は炭焼窯としての窯体の再利用にあると考えられる。

作業場

焚口から前庭部状に続く平坦面を作業場とした。作業場においては、築窯時の整地に伴う陶器を含まない焼土・炭化物の薄層が広がる。前庭部西には排水溝SD01が付随し、下層には除湿を目的とした炭化材の充填が確認できた。前庭部の東西には土坑SK01・SK02が掘削され、焼土・炭化物・陶器が大量に廃棄されていた。

灰　原

灰原は前庭部の南西斜面に分布し、窯体の主軸方向に約16m、それと直交する方向に約８mが残存する。厚さは最大で約１mである。灰原の分布、堆積の状況から、灰原の形成はSY01１基に付随する可能性が高いと思われる。また、調査区西端部の埋没した斜面上にも遺物の分布が認められた。産状が灰原の末端にも近似することから、SY01の西北に並列して別の窯体が存在した可能性もある。

出土遺物

遺物は灰原から出土した陶器が大部分を占める。これらは常滑窯編年３型式を主体とし、12世紀後半の年代が与えられる。焼成された器種には甕、鉢が多く、次いで三筋壷、碗、皿、少数の羽釜、水瓶がある。他に炭焼窯の操業に関係すると考えられる13世紀前半の土師器伊勢型鍋と山茶椀、溜池の通水路用の床樋として利用された土管がある。（早野浩二）



調査前



調査風景



調査区全景



窯体と灰原



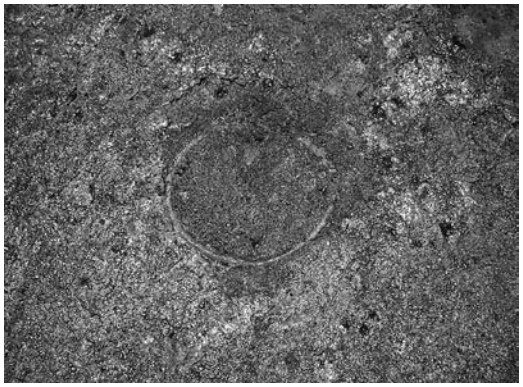
SY01（焚口から）



SY01（煙道部から）



SY01窯壁



SY01床面



SK01陶器



灰原の産状



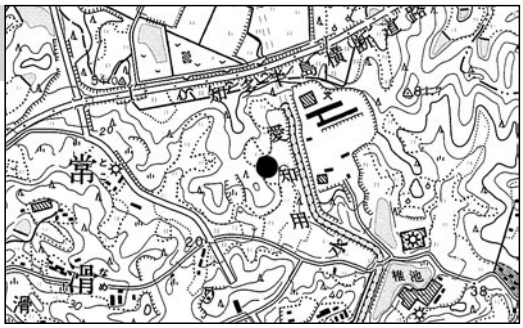
SY01土層断面



溜池の通水路

蛇廻間（じゃばさま）古窯跡

所　在　地　常滑市蛇廻間地内
（北緯34度53分51秒 東経136度51分30秒）
調 査 理 由　常滑東特定土地区画整理事業
調 査 期 間　平成16年７月
調 査 面 積　700㎡
担　当　者　宮腰健司・早野浩二



調査地点（1/2.5万「常滑」）

調査の経過　蛇廻間古窯跡は、常滑市蛇廻間地内に所在する中世常滑焼の古窯跡である。本窯跡の発掘調査は、常滑東特定土地区画整理事業に伴う事前調査として、都市基盤整備公団（現独立行政法人都市再生機構）より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成16年７月、調査面積は700㎡である。

立地と環境　蛇廻間古窯跡は、知多半島中央丘陵から西に派生する尾根に形成された小谷内の東斜面に立地する。尾根の標高は約37mである。同一尾根の北斜面には四池Ａ・Ｂ古窯、先端付近の南西斜面には夏敷古窯跡、支谷を挟んだ東尾根上には柴山古窯跡群が立地する。

調査の概要　尾根には北東斜面を中心に中世陶器が散布するが、発掘調査の結果、灰原は現地表下に埋没した尾根の斜面にその末端部分が残存するのみで、窯体やそれに付随する施設はすでに滅失したことが明らかとなった。旧来の自然地形そのものも、農地の造成、土砂の採取や流出によって大きく改変され、尾根の北東斜面のみが相対として旧地形を良好に残存させているに過ぎなかった。

灰　原　灰原は現地表下約１～２mに埋没した尾根の南東斜面において確認した。確認した灰原の層厚は約30㎝と薄く、灰原の末端部分に相当するものと考えられる。灰原は地表下の尾根の斜面上にさらに広がると想定されたが、完掘は不可能であった。

出土遺物　遺物は尾根の斜面に堆積した流出土、灰原から出土した陶器が大部分を占める。これらは常滑窯編年２型式を主体とし、12世紀後半の年代が与えられる。焼成された器種には甕、鉢、三筋壺、碗、皿、羽釜がある。（早野浩二）


調査区全景


調査区土層断面

高坂（こうさか）遺跡

所　在　地　宝飯郡御津町大字広石
（北緯34度49分48秒 東経137度18分58秒）
調 査 理 由　県道大塚国府線道路改築
調 査 期 間　平成16年10月～平成17年２月
調 査 面 積　1,700㎡
担　当　者　宮腰健司・松田　訓



調査地点（1/2.5万「小坂井」）

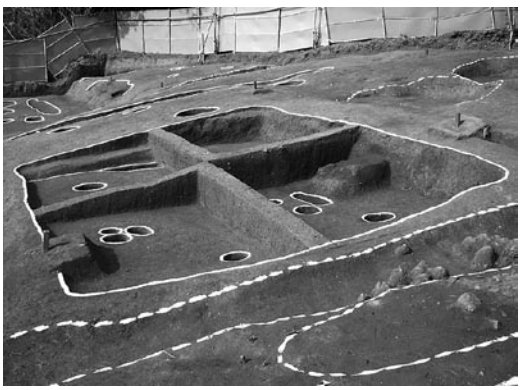
調査の経過　発掘調査は、県道大塚国府線道路改築予定地内における事前調査で、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成10年度に範囲確認を、平成11年８月から12月にかけて本調査を実施しており、今回は、平成11年度調査区のさらに北東側における道路建設予定地を、平成16年10月から翌年２月にかけて実施した。調査面積は、1700㎡である。

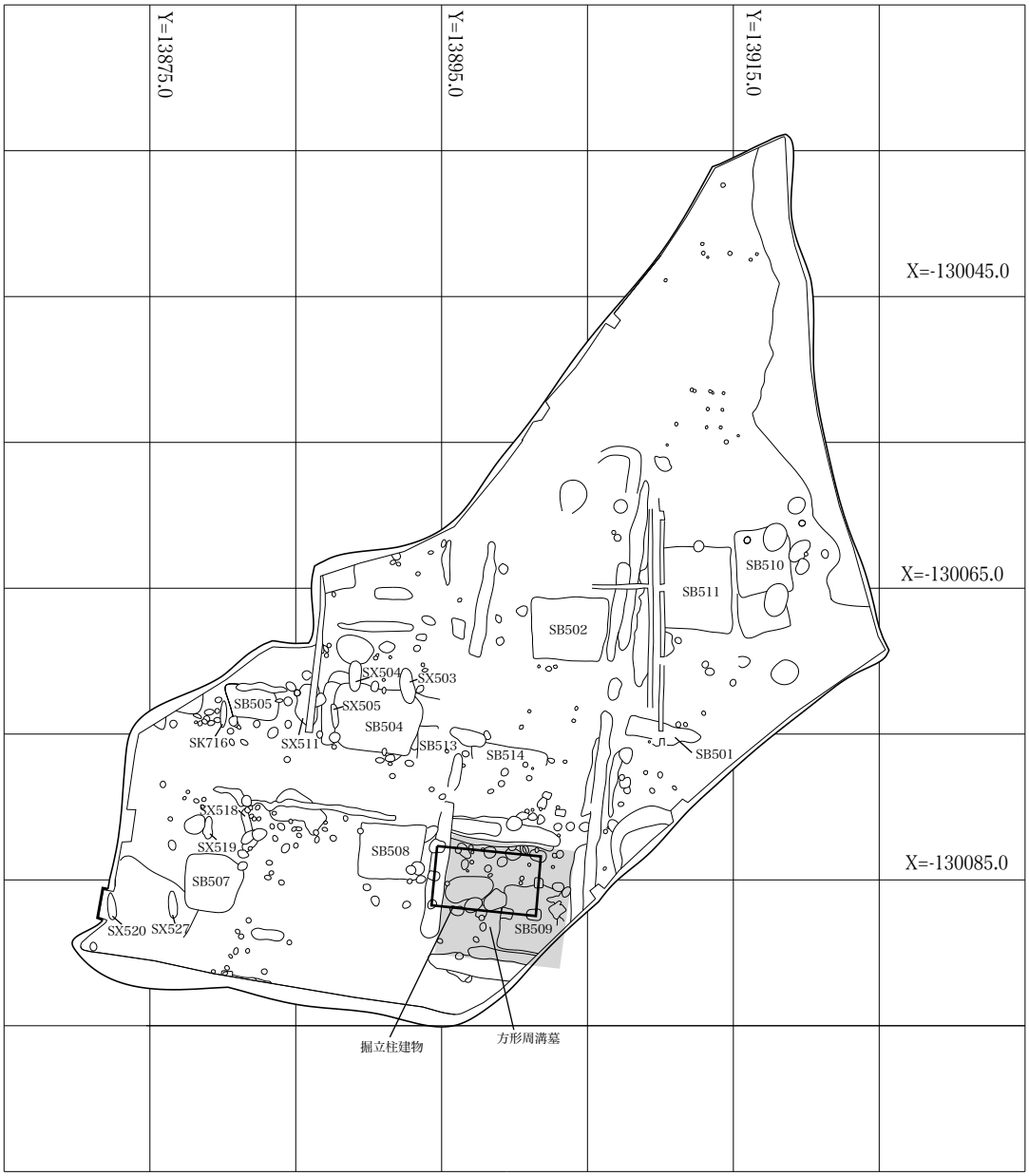
立地と環境　高坂遺跡は、ＪＲ東海道線愛知御津駅より北西約２㎞の、宝飯郡御津町大字広石地内に所在する。調査地点は、南に向かってゆるやかに下る舌状の丘陵地に立地し、標高はおよそ34m～38mを測る。調査地の北西には、古墳時代を主体とする石堂野遺跡、南西の浅い谷をはさんだ台地上には、弥生時代末から古墳時代を主体とする石堂野Ｂ遺跡、北東には、広石銅鐸出土地などが近接する。

調査の概要　調査地の旧態は畑地及び雑木林で、耕作土、表土10～30㎝を機械掘削によって除去した。これに続いて現況では、自然形成された斜面を段状に造成し、排水用の溝が掘削されていたため、盛土を除去した。この時点で、一部に遺物包含層と考えられるにぶい黄褐色シルト層を残すも、基盤層と考えられるにぶい赤褐色粘土等が大部分で露呈したため、シルト層を掘り下げつつ遺構検出作業を行った。

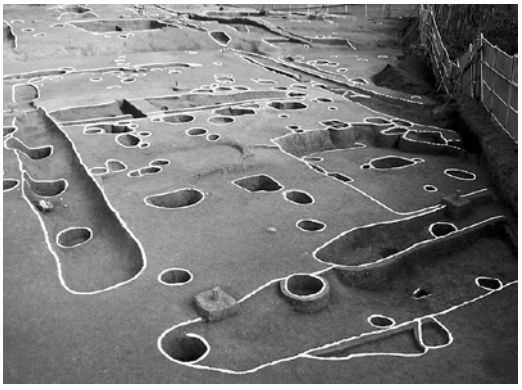
検出された遺構は、方形周溝墓１、土坑242、火葬土坑９（SX・SK）、溝2、竪穴住居15、掘立柱建物１他である。これらの遺構の時期は、方形周溝墓は欠山式と思われる壺が溝から出土し、竪穴住居は古墳時代後期～古代の遺物がわずかに含まれていたが、全体的に遺構に伴って出土するものが少なく、現在整理検討中である。　（松田　訓）


調査区全景（南西から）


竪穴住居（SB502）



主要遺構配置図



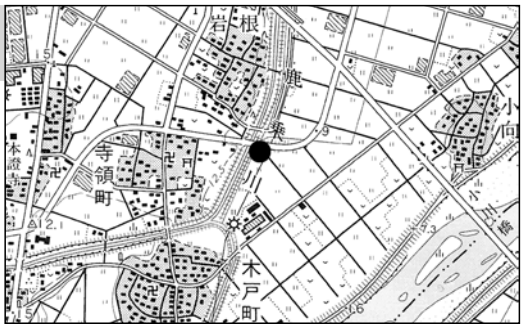
方形周溝墓・掘立柱建物



方形周溝墓西周溝内出土壺

惣作（そうさく）遺跡

所　在　地　安城市木戸町惣作
（北緯34度53分60秒 東経137度5分38秒）
調 査 理 由　鹿乗川河川改良工事
調 査 期 間　平成16年10月～平成17年３月
調 査 面 積　3,295㎡
担　当　者　宮腰健司・鈴木正貴



調査地点（1/2.5万「西尾」）

調査の経過　調査は愛知県建設部河川課による鹿乗川河川改良工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成16年10月から平成17年３月にかけて実施した。調査区は横断する道路などのため便宜上８調査区に区分し、北から順にＡ区～Ｈ区と呼称した。

立地と環境　惣作遺跡は安城市木戸町の鹿乗川左岸に所在する。矢作川などによって形成された自然堤防およびその後背湿地に立地しており、標高は約７ｍを測る。遺跡の西側は現鹿乗川を挟んで碧海台地が広がっており、南西方向の台地上には奈良時代に創建されたと推定される寺領廃寺跡が存在する。

調査の概要　今回の調査では、弥生時代から江戸時代までの様々な遺構や遺物が確認された。これらは弥生～古墳時代、奈良～平安時代、戦国～江戸時代の3期に大別することができる。

弥生～古墳時代　Ｅ区を中心にＤ区とＦ区にかけて展開する自然堤防上に、弥生時代中期前葉から古墳時代前期までの竪穴建物跡が約40棟確認された。特にＥ区では、竪穴建物跡がいくつも重複した状態で認められ、遺物も岩滑式から欠山式までの各段階のものが存在することから、集落が連綿と継続していたことが分かる。Ｄ区南部で検出されたSB36は弥生時代中期前葉に位置付けられる竪穴建物跡であり、その覆土から焼成剥離土器片がまとまった状態で出土した。一方、Ｃ・Ｄ区西半部では弥生時代中期の河道が確認され、川岸から弥生時代中期後半の土器が出土している。Ｃ区東部ではこの河道が埋積した後に構築された弥生時代中期後葉の方形周溝墓が1基検出された。また、Ｅ区東端部では後背湿地状の落ち込みが存在し、そこから弥生時代前期の土器片が出土した。出土遺物は遺構の密度に比べると比較的少ないが、遠賀川系土器の小片等も認められる。

奈良～平安時代　Ｃ区とＤ区で、奈良時代と推測される掘立柱建物跡が２棟確認された。建物周囲には溝が巡っていたと考えられ、この溝から8～9世紀に位置付けられる須恵器などが出土した。Ｅ区とＦ区では平行して走る溝が数条確認されている。また、Ｃ区とＤ区の西部では大規模な落ち込みがあり、9～10世紀に属する灰釉陶器や瓦類などが出土した。灰釉陶器には底部外面に墨書された碗・皿が多量に出土しており注目される。この他にＥ区東端部の後背湿地の落ち込みでは銅滓などが出土しており、この近くで銅製品の加工が行われていたことが予見される。Ｂ区からＣ区にかけてはおおよそ東西方向に走る河道が確認され、折敷などの木製品が出土した。また、Ａ区からＢ区にかけてはほぼ等間隔で平行して走る小溝群が検出されており、畑跡であったと想定される。

瓦や銅滓などが出土することから、付近に寺領廃寺に関連する作業場が存在した可能性が考えられよう。

戦国～江戸時代　この時期の遺構は河道・水路や水田跡などが確認されており、調査地点は居住域ではなく耕作域であったと考えられる。Ｂ区では水路と水田跡が、Ｃ区とＤ区では近代まで継続

する大溝が検出された。一方、F区～H区にかけてはおおよそ南北方向に流れる河道が確認され、粘土の堆積層から下駄や木胎漆器などが出土している。また、全ての調査区において、江戸時代後半に形成されたと推測される層厚50cm以上の河川堆積物が認められた。

ま と め　今回の調査により、西三河で初めて少なくとも弥生時代中期前葉まで遡る竪穴建物跡が確認されたことは特筆すべきであろう。それ以降についても多少の断絶はあってもおおよそ古墳時代前期まで連続して集落が営まれていたことは、矢作川中流域の弥生集落の動向を考える上で貴重な成果を得たといえる。（鈴木正貴）



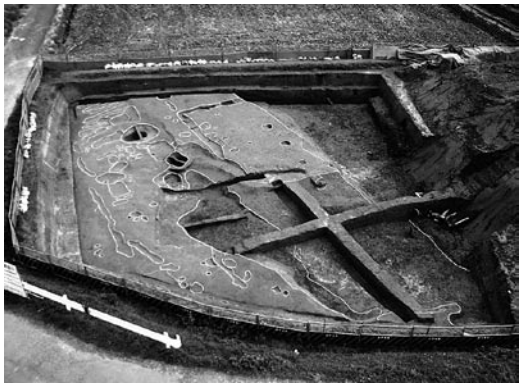
A区1面南半部　平安時代の畑跡？　北から



B区NR01木製品出土状態　西から



B区2面全体　平安時代の畑跡？と河道　北から



C区1面全体　古代の建物跡と大型土坑　西から



C区2面東半部　弥生時代中期の方形周溝墓　西から



C区土器棺墓（弥生時代中期後葉）　南から



C区3面全体　弥生時代中期の河道　南から



D区1面全体（奥の細長い調査区がE区）　西から



D区SB36焼成剥離土器片出土状態　北から



E区2面東部　東端部の落ち込み　東から



E区2面SB24　南東から



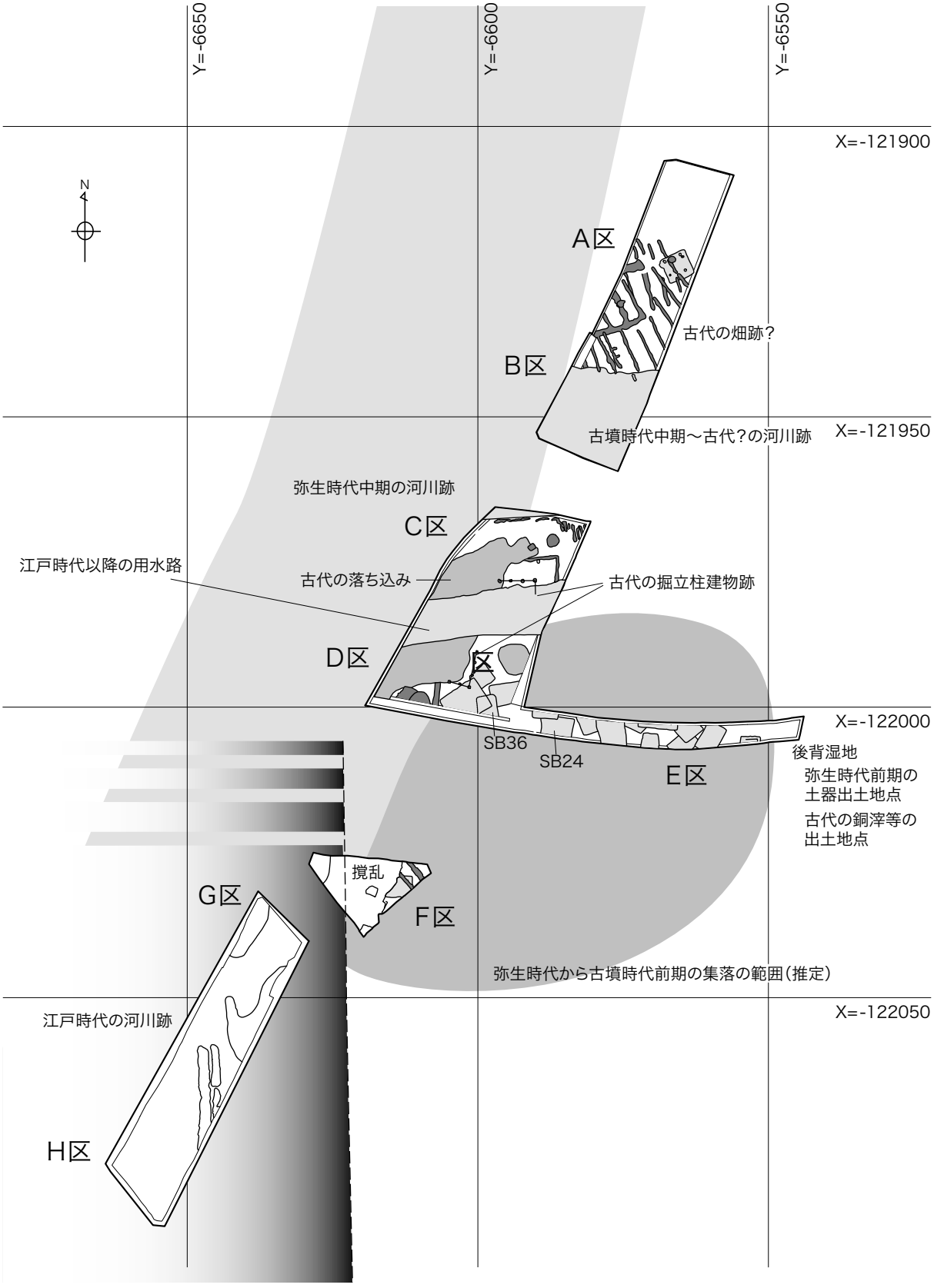
F区2面東半部　弥生時代中期の建物跡など　北から



G区弥生時代中期の河道出土土器　北東から



H区1面全体　江戸時代の河道　北から



惣作遺跡遺構図(1:1000)

御山寺（ごさんじ）遺跡範囲確認調査

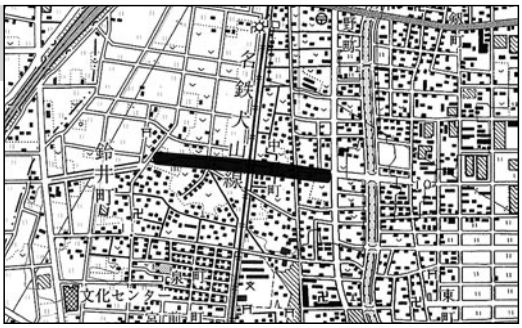
所　在　地　岩倉市中野町、鈴井町地内
（北緯35度17分18秒 東経136度52分13秒）

調 査 理 由　街路新設改良一宮春日井線建設

調 査 期 間　平成16年４月12日～22日

調 査 面 積　100㎡

担　当　者　蔭山誠一



調査地点（1/2.5万「一宮・小牧」）

調査の経過　調査対象地内に16ケ所の試掘坑（テストポイント、以下T.P.と略す）を設定し、土層の断面観察・遺構検出を行った。その後、各テストポイントの遺構の深さ、遺物の出土状況などを精査し、遺跡の範囲とその性格を確認した（テストポイントの設定位置は図を参照）。

立地と環境　岩倉市の北部、五条川右岸に形成された自然堤防上に立地する。岩倉城遺跡からは北北西約1.5㎞に位置する。

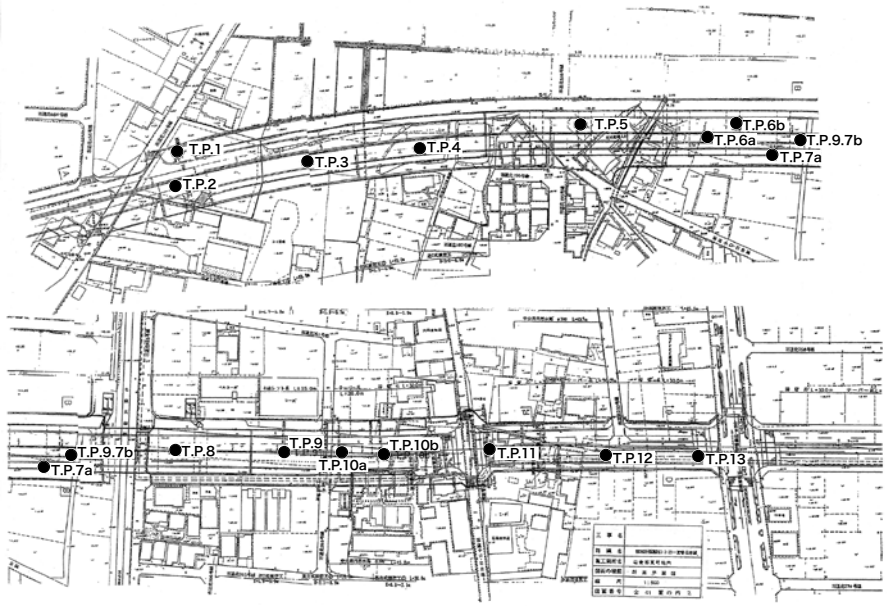
調査の概要　T.P.1とT.P.2は最も西側に位置する調査地点で、最近の掘削による堆積を除去すると古代～中世の遺構が全面にあり、地表下1.0mには厚さ20㎝程の黒色土層が検出された。下層の黒色土層からは縄文時代後期の土器が出土し（T.P.1）、その周辺の土層からは炭化物も検出された。

T.P.3～T.P.5では最近の整地・盛土層を除去した面にて水田を検出した。T.P.3とT.P.5は近世と思われる水田面から良好に残っており、T.P.3では古代以降ほぼ同じ位置に築かれた畦畔を４層確認した。

T.P.6a～T.P.7bは畑地の微高地となる部分で、T.P.6a・T.P.6b・T.P.7aでは最近の耕作土を除去すると古墳時代前期の竪穴住居や中世の溝、土坑などを検出した。しかし、T.P.6b・T.P.7aにて半分程、T.P.7bにて全面が最近の土砂採取により、遺構・遺物が消失していた。

T.P.8～T.P.13では最近の掘削による堆積を除去すると、中世以後の遺構面が認められ、古墳時代～戦国時代の遺構・遺物が濃密に認められた。特にT.P.8～T.P.10aにかけては遺構深度が100cmを越す可能性もあり、中世を中心に連綿と遺跡が営まれた状況が窺われた。T.P.10bは最近のゴミ廃棄により全面が掘削されており、遺構・遺物とも消失していた。

今回の調査対象地は、調査対象地西側中央部分のT.P.3～T.P.5の水田跡が検出される地域を挟んで、東西に古墳時代から中世、戦国時代にかけた集落がひろがる遺跡と考えられる。また、調査対象地西端のT.P.1とT.P.2付近では下層に縄文時代後期の遺構が存在するものと考えられる。（蔭山誠一）



御山寺遺跡試掘地点

かのりがわりゅういき 鹿乗川流域遺跡群範囲確認調査

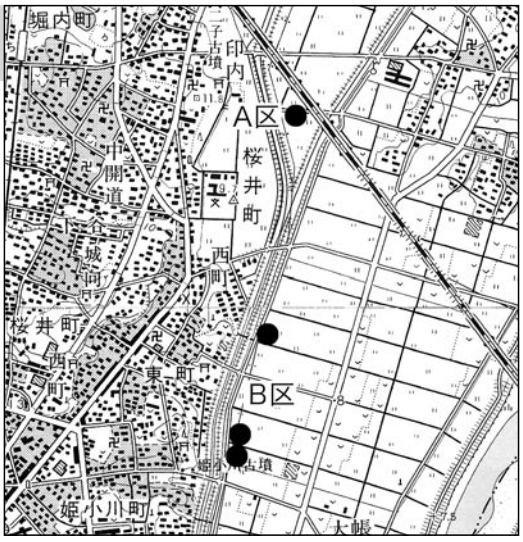
所　在　地　安城市桜井町・東町・姫小川町
（北緯34度54分54秒 東経137度5分49秒周辺）

調 査 理 由　中小河川改良事業（鹿乗川）

調 査 期 間　平成17年２月

調 査 面 積　230㎡

担　当　者　宮腰健司・松田　訓



調査地点（1/2.5万「安城・西尾」）

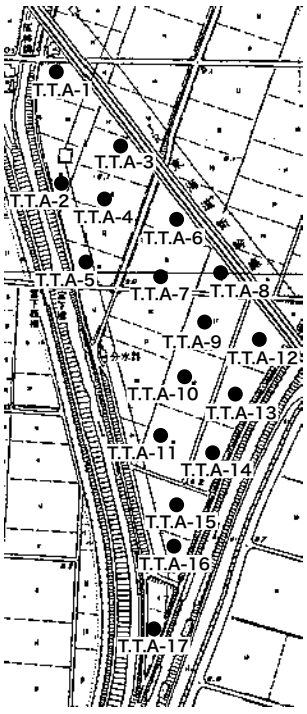
調査の経過　発掘調査は、中小河川改良事業（鹿乗川）予定地内における試掘調査で、県建設部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成17年２月に実施した。調査面積は、230㎡である。

立地と環境　鹿乗川流域遺跡群は鹿乗川に沿って展開する遺跡群で、平行して流れる矢作川が形成した自然堤防上や、西に広がる碧海台地の縁部に立地する。

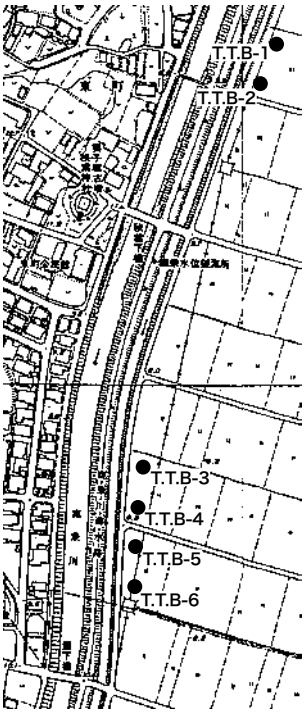
調査の概要　今回の範囲確認調査は、大きく二ヶ所に分かれて行われた。A区は西鹿乗川と鹿乗川が合流する地点の北側で宮下遺跡の東、B区は鹿乗川左岸の姫小川橋の北側にあたる。

A区では、17地点に２×５ｍの試掘トレンチを設定した。A区の基本層序は、上位より耕作土-灰白色シルトー灰黄色（白色）シルトー褐灰色シルトー灰白色シルト・砂で、灰黄色（白色）シルトー褐灰色シルトに古墳時代から古代の遺物を包含する。T.T.A-7～9、11.14～17では土坑及び溝と考えられる遺構が確認され、その中でもT.T.A-7・8では古墳時代の多くの遺物が出土している。またその間のT.T.A-10・13では遺物は見られなかったが、13では畦畔と思われるセクションを確認している。さらに北側のT.T.A-1～6・12では遺構は検出されなかったが、古墳時代～平安時代、江戸時代の遺物が出土している。

B区では、６地点に２×５ｍの試掘トレンチを設定した。B区の基本層序は、上位より耕作土-灰オリーブ色シルトー灰白色（黄色）シルト、灰色（灰黄色）粘質土ー灰白色シルト・砂で、灰白色（黄色）シルト、灰色（灰黄色）粘質土に古墳時代の遺物を包含する。T.T.B-2・6では土坑または溝の遺構を確認した。またT.T.B-1では南に落ちる自然流路状の堆積が確認されている。（宮腰健司）



A区（1：6000）



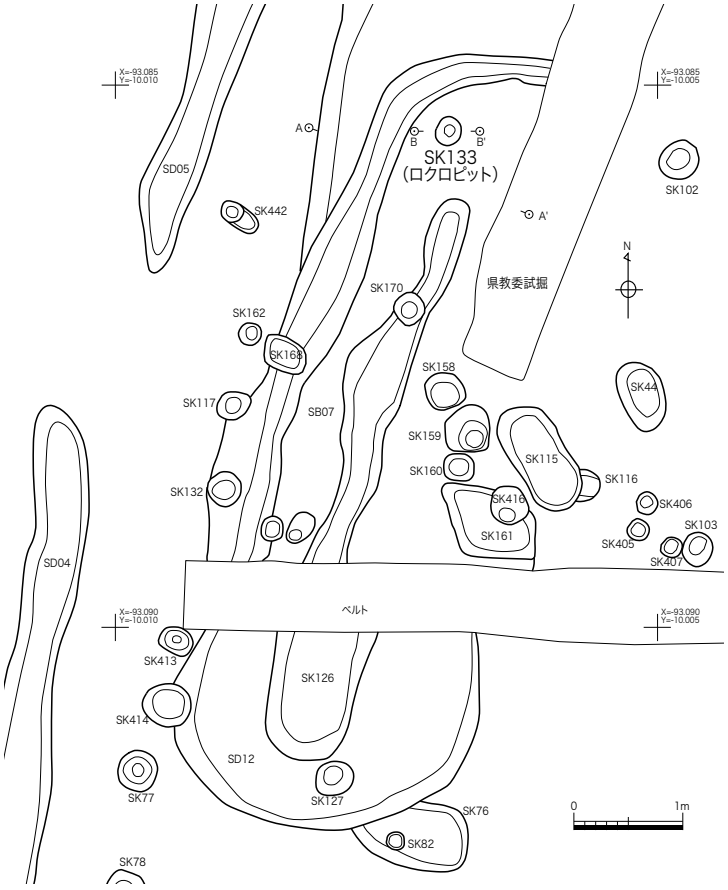
B区（1：6000）

III. 刊行報告書抄録

第119集　金萩遺跡

遺跡は、日進市北新町字金萩に位置している。地形的には低丘陵地帯中の南側に向けた緩斜面となる。遺跡の周辺は猿投窯の岩崎地区に該当し、丘陵部には古代～中世前期の窯跡が分布している。

調査で確認できた遺構は、奈良時代～平安時代に集中している。基本的には竪穴住居と掘立柱建物で構成される集落遺跡だが、土器製作や搬出に関連する遺構も検出され、本遺跡の特色となっている。土器製作に関連する遺構にはロクロピットを付設する竪穴住居が１棟、搬出に関連する遺構では廃棄土坑や土器集積遺構などがある。廃棄土坑や土器集積遺構からは焼成ムラが確認できる多量の出土遺物が得られ、本遺跡が集落内で製品の二次選別も実施される製品の集荷場としての性格も併せ持っていたことが確認できた。　（池本正明）



SB07平面図



SK01



SU07

報告書抄録

ふりがな	かねはぎいせき
書名	金萩遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第119集
編著者名	池本正明・蔭山誠一・神谷巳佳・井上　厳・山形秀樹・畠山晃陽・高橋尚人
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
かねはぎ 金萩	あいちけんにっしんし 愛知県日進市 きたしんちょうかねはぎ 北新町金萩	23230	14006	35度 9分 39秒	137度 3分 25秒	1999.06 ～ 1999.09	2,500	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金萩遺跡	集落	旧石器・縄文		ナイフ形石器・石鏃	
		奈良・平安時代	竪穴住居 工房(ロクロピット) 土器集積遺構 粘土ピット	須恵器・灰釉陶器 土師器	土器製作に関連する集落

文書番号	発掘届出(12埋セ第64-1号・2000.5.1)　通知(12教生第216-20号・2000.6.1) 終了届(12埋セ第215号・2001.3.14)　保管証・発見届(12埋セ第214号・2001.3.4)

要約	猿投窯岩崎地区に位置する土器製作に関わったと推定される奈良・平安時代の集落遺跡。焼成不良品を集めた土器集積遺構も確認されており、製品の二次選別も実施されていた可能性が高い。

第120集　上中・西屋敷遺跡

上中西屋敷遺跡は、稲沢市北島町上中及び西屋敷に所在する遺跡である。遺跡は、北東-南西方向に延びる標高２～３ｍの微高地上の西端に立地する。調査は県道須成七宝稲沢線建設に伴う事前調査で、平成12年４月から12月にかけ、4,600㎡の面積をＡ～Ｉ区の13調査区に分割して行っている。

１　調査地点中央部の最も標高の高い地点において、古墳時代・古代の竪穴住居が９棟検出されている。うち１棟は松河戸Ｉ式で、５棟は７～８世紀に属する。また南側の落ち込みでも古墳時代～古代の遺物や、放射性炭素年代測定値が７世紀末から８世紀代を示すひょうたん・木片が出土している。

２　調査地点北側の高位部から低位部に移り変わる地点は、13基の方形土坑・井戸が検出され、16点の中世銭貨も出土していることから、13世紀前後には墓域空間であったと考えられる。

３　戦国期から江戸時代にかけて幾度かの大規模な開削・埋め立てが行われている。調査地点北側では池と思われる大型土坑とそれに繋がる溝が検出された。これらの遺構の掘削時期は溝底部より出土した天目椀の示す16世紀後半に近い時期と思われ、16世紀初頭に行われた「青宮寺」の移転に伴って掘削されたと推定した。さらにその南側には、井戸・埋甕などの水廻り施設を伴う建物跡や水田が広がり、江戸期の昆虫分析でも人為的な汚染環境とその付近にある水田といった環境が指摘されている。また南側では江戸初期に造成されたとする「八神街道」と推定される道路跡が検出されている。

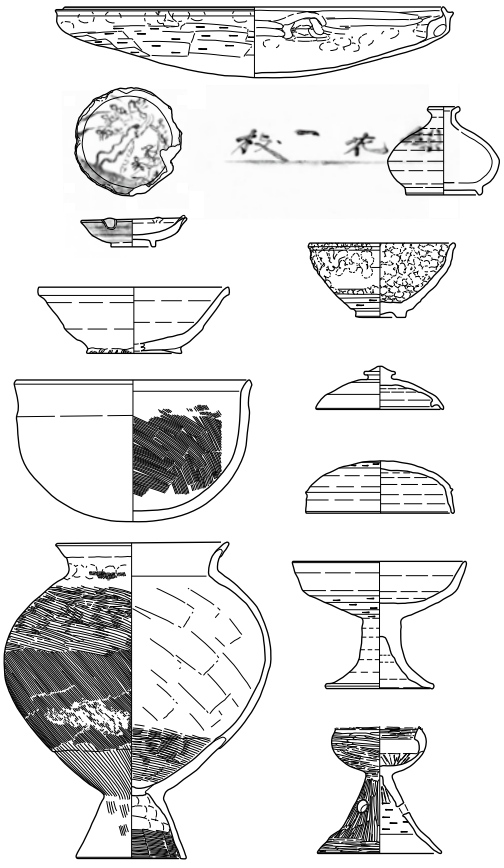
４　珪藻や放射性炭素年代測定などの層序分析により、本遺跡と土田遺跡、一色青海遺跡の堆積速度に違いがあり、それが東西方向の堆積面の高さの違いとなること、またそれが2500年前以降に形成されていることが判明した。　（宮腰健司）



F区SD01・SU01、SK01～04



Gb区２面遺構・SF01



上中・西屋敷遺跡出土土器

報告書抄録

ふりがな	かみなか・にしやしきいせき
書名	上中・西屋敷遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第120集
編著者名	宮腰健司・鬼頭　剛・森　勇一・上田恭子
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
かみなか 上中・ にしやしき 西屋敷	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 きたじまちょうかみなか 北島町上中 にしやしき および 西屋敷	23220	09210	35度 13分 38秒	136度 47分 46秒	2000.04 ～ 2000.12	4,600	県道須成七宝稲沢線建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上中・西屋敷遺跡	集落 墓 水田	古墳 古墳～平安 鎌倉～室町 江戸	竪穴住居 水田 土壙 井戸 区画溝	土器 土製品 須恵器・土師器 銅銭 木製品 石製品 瓦	

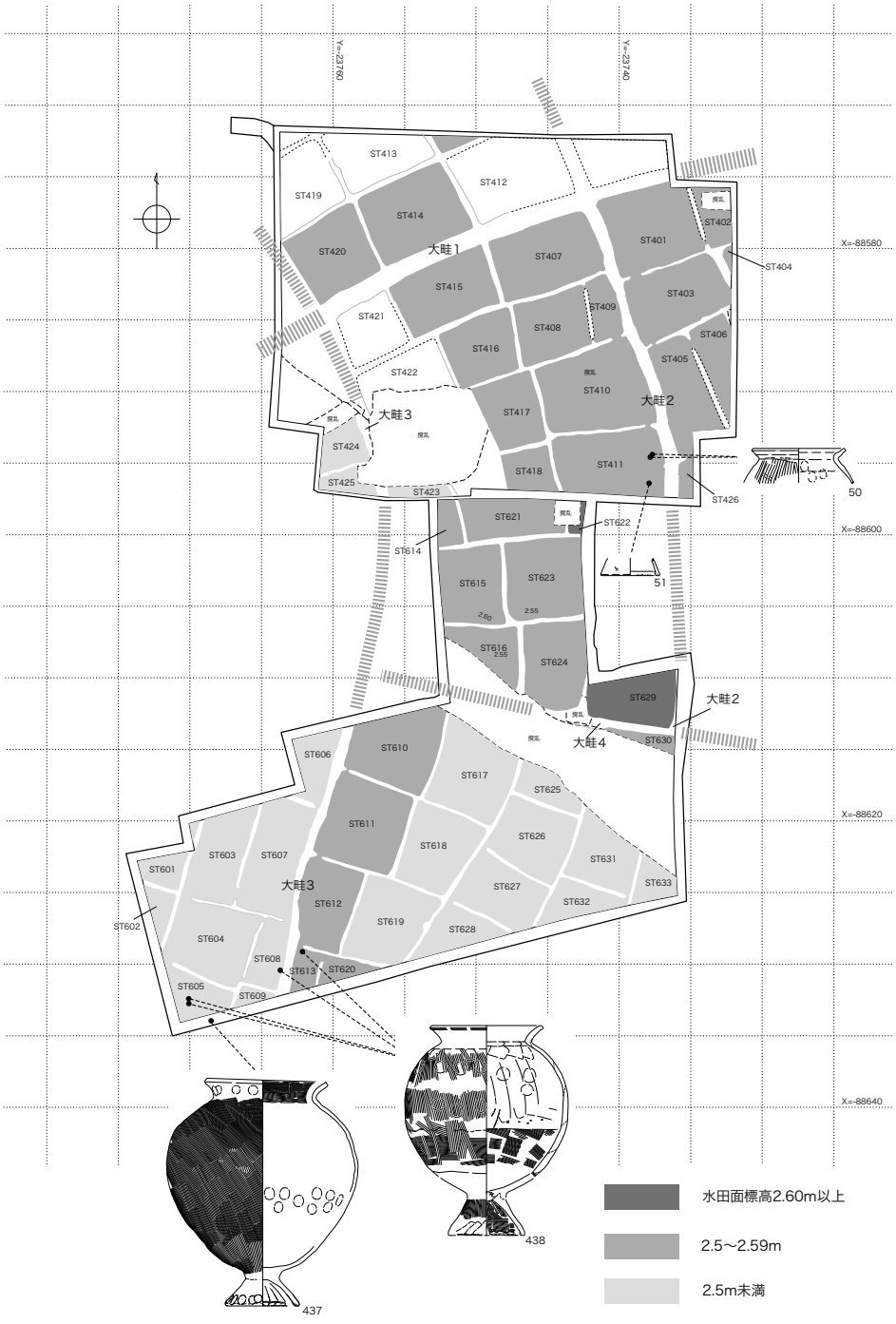
文書番号	発掘届出(12埋セ第44号・2000.4.3)　通知(12教生第216-14号・2000.6.5) 終了届・保管証・発見届(12埋セ第174-1,175-1,2号・2000.12.14)

要約	今回の調査では調査区の中央部の最も標高の高い地点で、古墳時代・古代の竪穴住居９棟が検出されている。また南側の落ち込みより該当時期の須恵器や自然遺物が出土している。B・C区では13基の方形土坑・井戸が検出され、中世銭貨も16点出土していることから、墓域と考えられた。調査区北側では池と推定される大型土坑とそれに接続する溝が検出された。溝底より16世紀後半の天目茶碗が出土しており、これらの遺構は16世紀初頭の「青宮寺」の移転による掘削と考えられた。また大型土坑が江戸後期には埋没してしまうなど、戦国期から江戸期にかけて幾度かの大規模な開削・埋め立てが行われており、居住地や水田、また「八神街道」と推定される道路遺構が検出されている。

第121集　志賀公園遺跡 II

遺跡は、名古屋市北区中丸町に所在している。遺跡付近は庄内川下流の沖積地で、南西には弥生時代の著名な西志賀遺跡がある。

調査で確認できた遺構は、①古墳時代前期から中期にかけての水田、②古代の竪穴建物・区画溝・河道、③中世の掘立柱建物・井戸・土坑・区画溝などである。①は上下２面の小区画水田が見つかり、とくに下面では大畦による中区画が確認された。②は中世の削平が著しく、竪穴建物は痕跡程度にすぎないものであった。河道からは７世紀後半から８世紀初頭に属す多量の木製品や須恵器・土師器が出土し、前回調査と同様の成果を得た。③は古代の河道跡の北縁に沿う区画溝を挟んで北側の微高地が居住域、南側の窪地が墓域であり、地表面に起伏のある農村景観の一端が明らかになった。　（石黒立人）



上層水田プラン（1：500）

報告書抄録

ふりがな	しがこうえんいせき に
書名	志賀公園遺跡 II
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第121集
編著者名	石黒立人・樋上　昇・鬼頭　剛・堀木真美子・森　勇一・上田恭子・松岡敬二・佐藤昌憲
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
しがこうえん 志賀公園	あいちけんなごやし 愛知県名古屋市 きたくちゅうまるちょう 北区中丸町 にちょうめ 2丁目	23102	01-2015	35度 12分 15秒	136度 54分 30秒	2000.1 2001.03	2,030	都市整備公団アーバニア志賀公園建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
志賀公園遺跡	集落	古墳前期	水田	土師器	
		古墳中期	水田	土師器・木製品	水田面から出土した甕
		古代	竪穴住居・自然流路	須恵器・土師器 木製品	
		中世戦国	掘立柱建物・井戸 池状遺構・溝・土坑	灰釉系陶器 施釉陶器	

文書番号	発掘届出(12埋セ第143-2号・2000.10.4)　通知(12教生第216-31号・2000.10.18) 終了届(12教生第216-31号・2000.10.18)　保管証・発見届(12埋セ第218号・2001.3.23)

要約	今回の調査では大きく3時期の変遷が確認された。古墳時代では上下2面の小区画水田が発見され、これは従来の調査成果にはない新知見である。古代では、活発な水流を伴う大溝とそれに隣接する小範囲の居住域が確認された。河道は前回調査につながるもので、前回同様に7世紀後半から8世紀にかけての多量の遺物が出土した。中世では、古代の河道跡が窪地状をなし、そこが墓域として利用され、北側の微高地に居住域が展開する景観が復元できた。中世段階の地表面はかなり起伏のあったことが窺われた。

第123集　四池Ａ古窯

Ⅰ　経過

知多半島横断道路の拡張工事に伴い愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じての委託事業として実施。調査面積は600㎡。調査期間は平成13年５月１日から６月16日まで。

Ⅱ　環境

本窯は知多古窯が展開する愛知県知多半島中央部西海岸の常滑市域に位置する。所在地は愛知県常滑市金山字四池。

Ⅲ　調査

窯体１基

（床面残存で残存長８ｍ幅３ｍ、傾斜角度19度）

溝３条（小谷地形）と近世遺構としての階段状遺構・堤状遺構・池跡・土坑１基。

出土遺物は甕・広口壺が主体でその他に鉢・椀・羽釜・陶丸・陶錘・加工円盤（総破片数1310点）

その内で線刻文６点が注目される。

13世紀前葉を中心とした操業

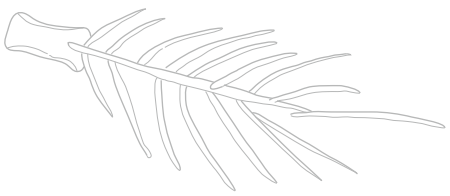
Ⅳ　考古地磁気分析

残留磁気推定年代：A.D.1150±20年

Ⅴ　総括

四池Ａ古窯は、甕・広口壺を中心とした焼成窯であり、赤羽・中野編年５型式を中心とした資料が出土しており、13世紀前葉を中心とする操業である。押印文は大きく二種類に区分できるものが主体的に使用されており、大型品の製作・企画性などから、専業的な製作者集団のまとまりを想定できる。また有耳壺に線刻を施す資料が見られ、放射状と木葉文の二種類であり、常滑・武豊地域を中心とする特殊・限定的な生産体制が復原できる。なお木葉文の出土は初例である。

（赤塚次郎）



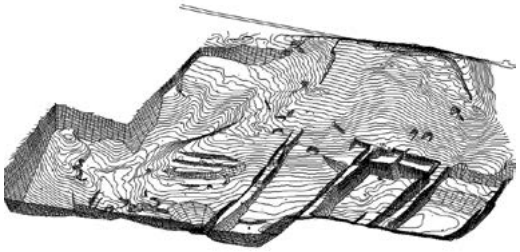


図５　四池Ａ古窯３Ｄ（斜め上より）



図18　調査区中央部（北東から）



図28　窯体調査（北から）

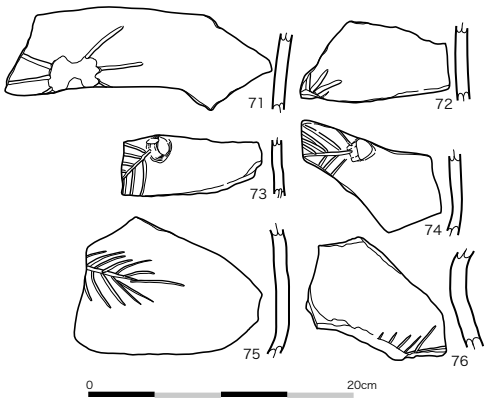


図47　線刻文

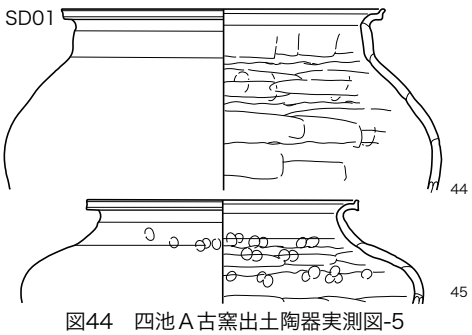


図44　四池Ａ古窯出土陶器実測図-5

報告書抄録

ふりがな	しいけえいこよう
書名	四池A古窯
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第123集
編著者名	赤塚次郎
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
しいけえい 四池A	あいちけんとこなめし 愛知県常滑市 かなやまあざしいけ 金山字四池	23216	42062	34度 53分 58秒	136度 51分 22秒	2001.05.06 ～ 2001.06.16	600	知多半島横断道路拡張工事に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
四池A古窯	古窯跡	鎌倉時代	窯床面	甕・壺	有耳壺片 (放射状文と木葉文)
		近世	池跡・堤状遺構 階段状遺構		

文書番号	発掘届出(12埋セ第216-43号・2001.1.29)　通知(12教生第216-43号・2001.3.26) 終了届・保管証・発見届(13埋セ第42-1.2.5号・2001.6.19) 鑑査結果通知(12教生第216-43号・2001.6.28)

要約	本窯は、甕・広口壺を中心とした焼成窯であり、13世紀前葉を中心とする操業である。窯体及び関連施設はすでに大きく破壊されており、僅かに焼成室の一部である床面が残存していたのみ。有耳壺に線刻を施す資料が見られる。放射状と木葉文の二種類であり、常滑・武豊地域を中心とする限定的な生産体制が復原できる。

第124集　宇トゲ窯跡・中洞窯跡

整理作業における成果は、以下の２点に集約される。

一点目は、地形変化の影響を大きく受け、窯体部分の燃焼室側下半部と、若干の前庭部・整地部分しか残存していなかった、中洞窯跡の歴史的意義についてである。古瀬戸中期前半を主体とする中洞窯跡の調査区全体から、古瀬戸後期II段階を中心とする資料が見つかっており、それは主に上層に集中している。上層の堆積は中洞窯跡の地形の平坦化に有機的な関連が見られるものである。地形が平坦化した時期ののちに古瀬戸後期II段階の陶器が搬入されたものと考えられ、搬入元は尾根を挟んで北側の宇トゲ窯跡からの可能性が高い。中洞窯跡では、盗掘など後世の撹乱が激しく、上面での遺構検出ができなかった。しかし、平坦化した中洞窯跡の地が、宇トゲ窯操業に関わる作業空間になった可能性も考えられる。

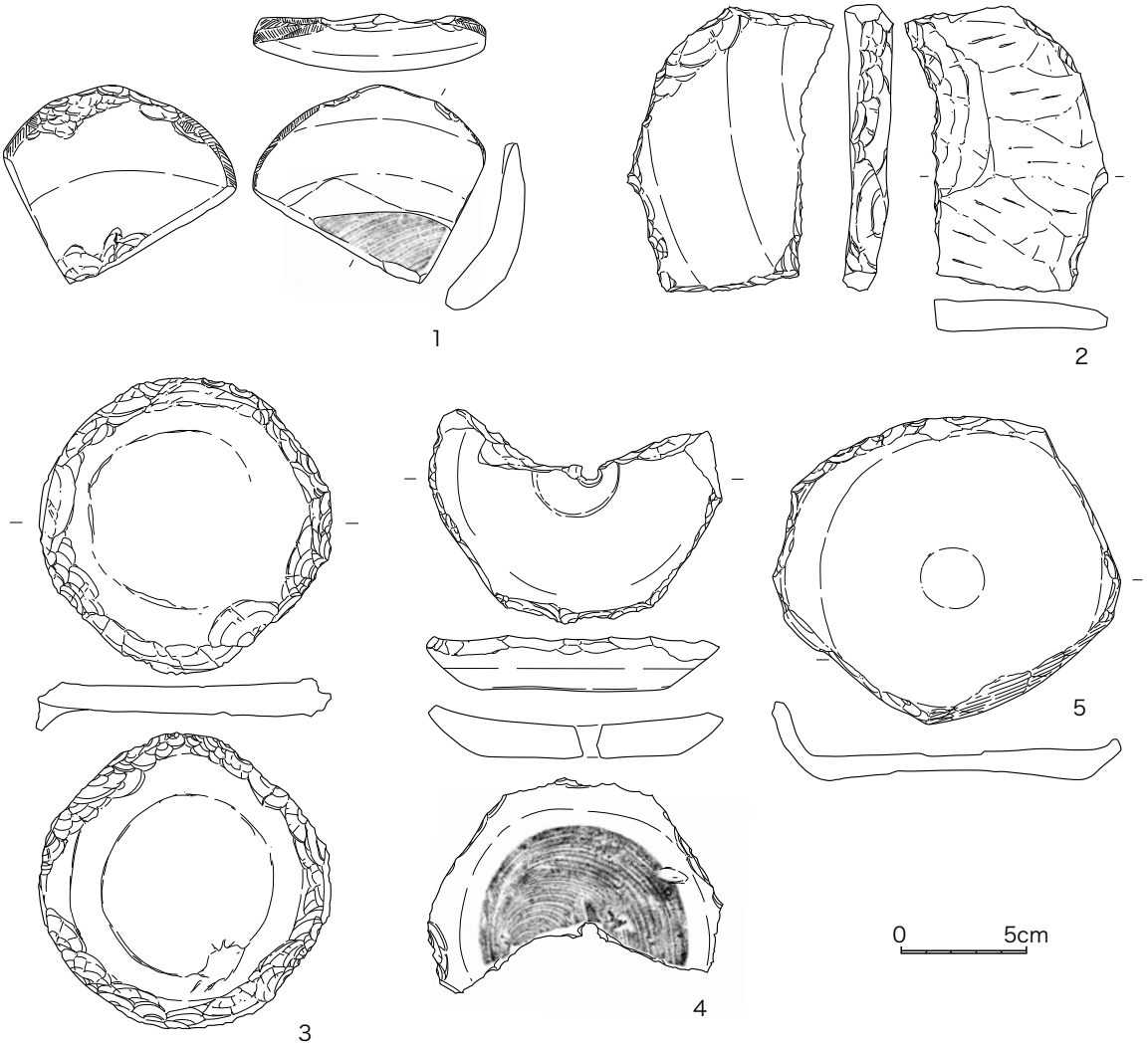
二点目は、中洞窯跡から、当窯で製作されたと考えられる陶器の破片を利用して、調整具などに転用した例が見つかったことである。窯業生産工程の復元に実証的資料として提示できるばかりでなく、明らかな搬入品を除く窯跡から出土する遺物を、単にすべて「失敗品」と一括することに再考が迫られる事例といえよう。　（川添和暁）

本文118頁、写真図版21PL

CD-ROM集録データー

○報告書PDF版　　○遺物登録一覧表

○宇トゲ窯跡・中洞窯跡現地説明会用資料データー



中洞窯跡出土の陶器片を利用した「調整具」(1：3)

報告書抄録

ふりがな	うとげかまあと・なかぼらかまあと
書名	宇トゲ窯跡・中洞窯跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第124集
編著者名	川添和暁・植田弥生・山形秀樹・藤根　久・Zauri Lomtatize
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
うとげかま 宇トゲ窯	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 かみしなのちょう 上品野町	23204	03092	35度 15分 9秒	137度 8分 28秒	2001.07 ～ 2001.08	400	東海環状自動車道建設に伴う事前調査
なかぼらかま 中洞窯	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 かみしなのちょう 上品野町	23204	03410	35度 15分 4秒	137度 8分 36秒	2001.07 ～ 2001.10	1,200	東海環状自動車道建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宇トゲ窯跡	窯業遺跡	中世	作業施設1・灰原	灰釉系陶器(山茶椀) 施釉陶器(古瀬戸)	古瀬戸後期IIの一括資料
中洞窯跡	窯業遺跡	中世	窯体1 作業施設3 整地部分 灰原	灰釉系陶器(山茶椀) 施釉陶器(古瀬戸) 砥石・陶器転用品 灯明皿	地滑りによる窯体の破壊 陶器転用品のまとまった出土
	遺物散布	縄文～弥生		縄文土器・弥生土器	
	遺物散布	近代以降		陶器	

文書番号 (宇トゲ窯跡)	発掘届出(13埋セ第25-1号・2001.5.30)　通知(13教生第36-4号・2001.6.22) 鑑査結果通知(13教生第36-4号・2001.12.11)
文書番号 (中洞窯跡)	発掘届出(13埋セ第25-2号・2001.5.30)　通知(13教生第36-5号・2001.6.22) 鑑査結果通知(13教生第36-5号・2001.12.11)

要約	両窯跡は、尾根を挟んで南北に存在し、中洞窯・宇トゲ窯の順に操業されていた。中洞窯は操業中あるいは操業後に、水流および地滑りによる地形が平坦化した模様である。遺物の検討から、その平坦化した後に、宇トゲ窯の遺物が持ち込まれていることが判明した。これは、宇トゲ窯操業時には、かつての中洞窯の場所が作業空間になった可能性をも考えられ、当時の窯業生産の「場」の復元において注目される事柄である。また、中洞窯跡からは、失敗した陶器片を調整具などに転用した例が数点見つかっている。

第125集　吉野遺跡

調査の成果

吉野遺跡は、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。以下に、今回最も注目される縄文時代を中心に記す。

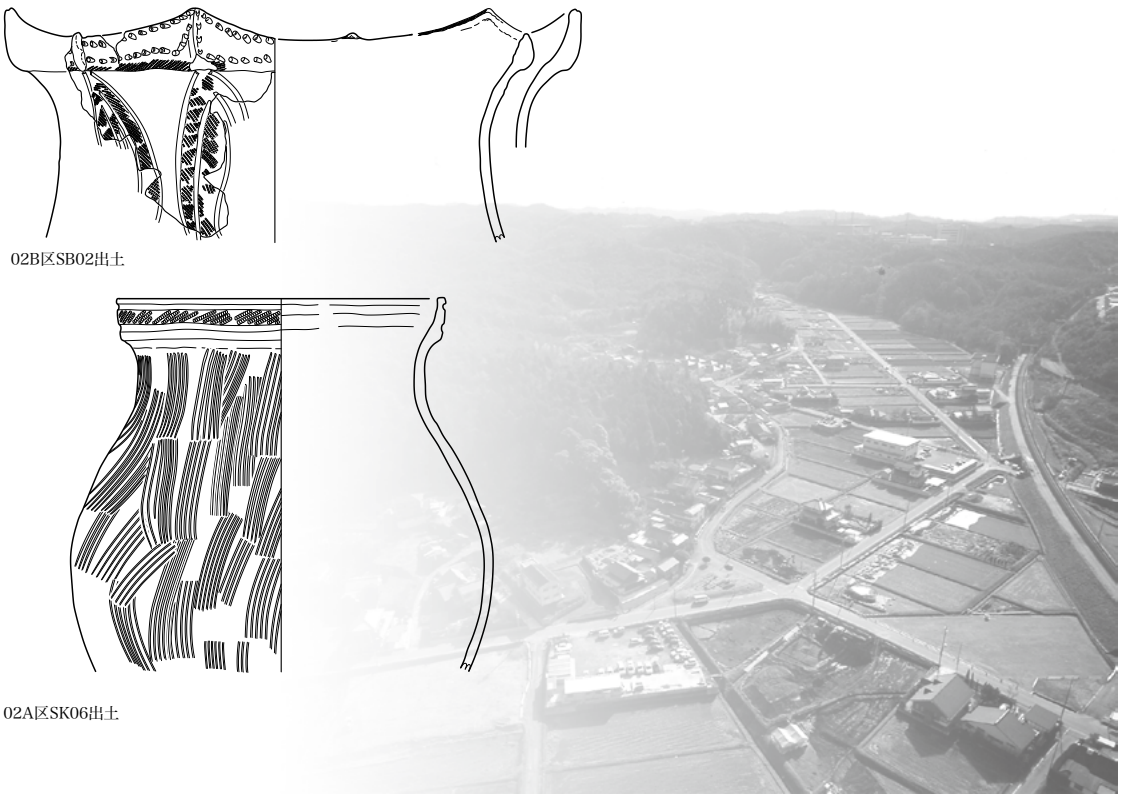
（1）吉野遺跡の立地する沖積地は、南東方向の２つ丘陵地に挟まれた谷底平野である。吉野遺跡はこの丘陵地に挟まれた細長い平野が扇状地状に大きく広がり、北西に流れる矢田川へ向かって徐々に低くなる手前に位置する。縄文時代には後背湿地から埋積谷へと続く東側を除く３方向は自然流路に囲まれた1,500㎡の微高地が形成されており、ここに中期後半から後期前葉を中心とする遺構群が展開する。

（2）縄文時代後期初頭前後として注目できる遺構としては、02B区SB02・SB03があげられる。いずれも、竪穴住居と想定できる。一方で否定的な条件もある。SB02は柱穴と考えられる痕跡がない。SB03は炉がない。いずれにしてもほぼ同時期の住居が２棟しか確認できない。

（3）前記の竪穴住居のほか、大型石器類（石皿・台石）を埋設した遺構が７ヶ所確認できた。なかでも02A区SK59は微高地の縁辺に位置し、20㎝超の大型石器類が３個体埋設されていた。

（4）出土した土器は、縄文時代後期初頭から前葉に比定できる資料群が注目できる。なかでも02B区SB02資料はまとまりがあり、知多地域の林ノ峰Ｇ層に比定できる。そのほか、中津式に比定できる資料群が包含層資料の大半を占める。

（6）注目できる石器類としては、石錘があげられる。石錘は切目石錘11点、礫石錘７点ある。いずれも大（90ｇ以上）・中（50ｇ前後）・小（20ｇ前後）にまとまりがある。　（永井宏幸）



02B区SB02出土

02A区SK06出土

報告書抄録

ふりがな	よしのいせき
書名	吉野遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第125集
編著者名	永井宏幸・小澤一弘・川添和暁・原田　幹
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
よしの 吉野	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 よしのちょう 吉野町・ やとちょう 屋戸町	23204	03918	35度 11分 43秒	137度 6分 29秒	2001.01.26 ～2001.03.30 2001.11.05 ～2001.12.17 2002.10.02 ～2003.02.06	540 890 2,300	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉野遺跡	集落	縄文時代	竪穴住居・土坑	縄文土器・縄文石器	縄文中期後葉と後期前葉の土器群
		弥生時代	水田？・土坑	弥生土器	
		古墳時代	自然流路 柵状遺構	土師器	古墳時代前期の柵状遺構
		中世	溝・土坑	灰釉系陶器	

文書番号	発掘届出(12埋セ第163-1号・2000.11.1／13埋セ第103号・2001.10.3／14埋セ第58号・2002.7.25) 通知(12教生第216-37号・2000.12.7／13教生第36-19号・2001.10.25／14教生第72-6号・2002.10.30) 終了届(13埋セ第145号・2001.12.17／14埋セ第149号・2003.2.12) 保管証(13埋セ第145号・2001.12.17／14埋セ第148号・2003.2.12) 発見届(13埋セ第145号・2001.12.17／14埋セ第146号・2003.2.12) 鑑査結果通知(12教生第216-37号・2001.5.28／13教生第36-19号・2002.1.21／14教生第72-6号・2003.3.31)
要約	吉野遺跡は、標高100ｍ前後の丘陵地に挟まれた細長い谷底平野に位置する。今回最も注目される成果としては、縄文時代中期後葉から後期前葉を中心とした遺構・遺物群である。縄文時代の遺構が展開する微高地はまわりを自然流路と後背湿地あるいは埋積谷に囲まれた1,500m^2の非常に狭い空間である。竪穴住居とした遺構は２ヶ所のみ、ほかは土坑・ピットの性格不明遺構がほとんどであった。そのうち、大型石器を埋設した土坑が７ヶ所確認できた。出土した土器群のうち、02Ｂ区SB02は比較的まとまりがあり、概ね知多地域の林ノ峰Ｇ層に比定できる。今後当地域の基準資料として注目できる。

第126集　長谷口遺跡

調査の成果

(1)縄文時代早期末葉

集石遺構２基のほか、ピット・土坑などがあったが、住居は確認できなかった。一方、土器群は比較的まとまりがある。入海II式新相、石山式(塩屋中層Ａ式・Ｂ式)、天神山式古相のまとまりがみとめられた。残念ながら、層序による確認はできなかった。

(2)縄文時代中期後葉

竪穴住居２棟と土坑数基、これらに伴う土器群に好資料が得られた。02区SB06は五角形プランの竪穴住居、長野県伊那方面との関係が示唆できる。

(3)弥生時代中期後葉から後期初頭

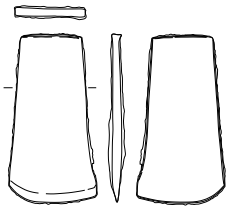
竪穴住居２棟と土坑１基。このうち土坑02区SK120から板状鉄斧が出土した。後期初頭の住居と切り合い関係があり、後期初頭以前とした。県内では２例目。

(4)古代

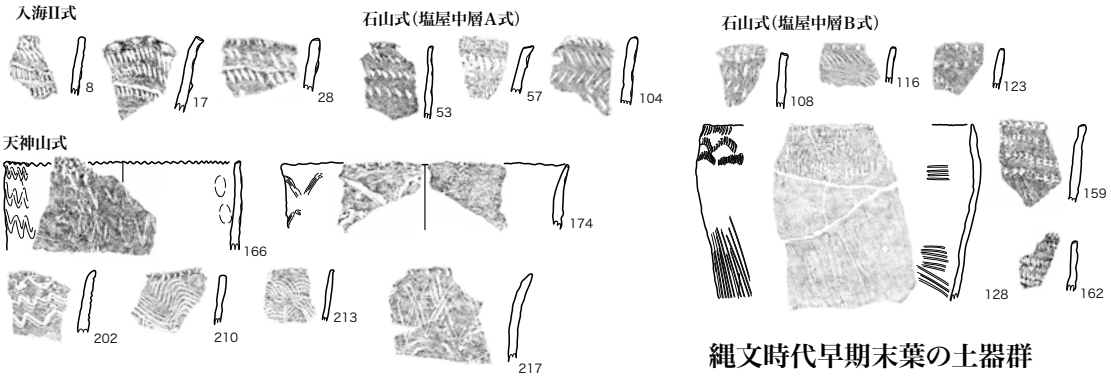
竪穴住居３棟と土壙墓１基。

(5)近世末

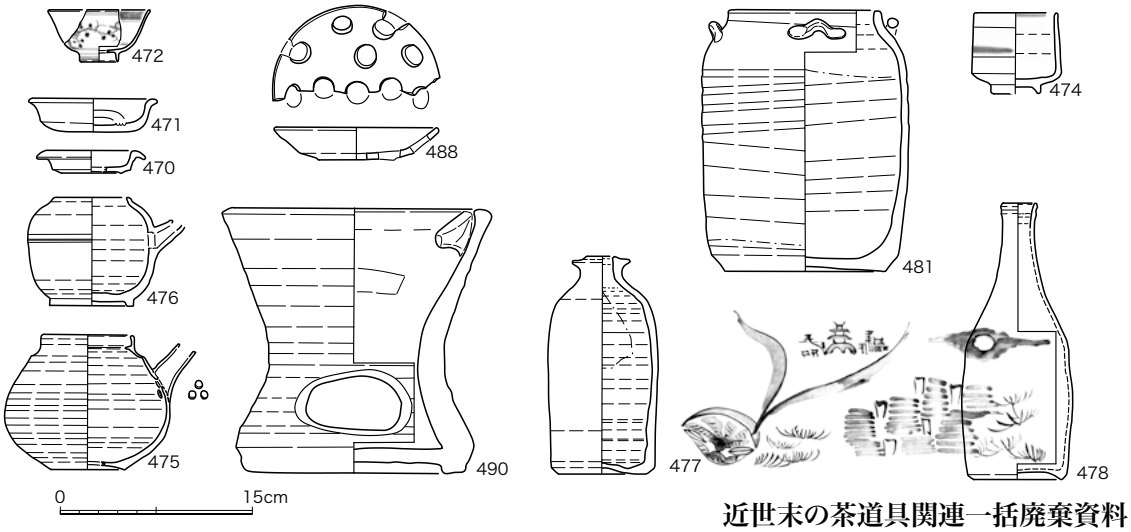
調査区最上段に長谷口Ｂ窯の操業と同時期の居住地が確認できたことと、茶道具に関連する一括廃棄(SU01)。　(永井宏幸)



弥生時代の板状鉄斧



縄文時代早期末葉の土器群



近世末の茶道具関連一括廃棄資料

縮尺は全て1:6

報告書抄録

ふりがな	はせぐちいせき
書名	長谷口遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第126集
編著者名	永井宏幸・川添和暁・原田　幹・小澤一弘
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
はせぐち 長谷口	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 はせぐちちょう 長谷口町	23204	03779	35度 13分 33秒	137度 8分 12秒	2000.08.18 ～2000.11.08 2002.07.01 ～2002.09.09	1,200	東海環状自動車道建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長谷口遺跡	集落	縄文時代早期末葉	土坑・ピット	縄文土器・石器 土製品	縄文時代早期末葉の一括資料
		中期後葉	竪穴住居・土坑 埋甕	縄文土器・石器	五角形プラン竪穴住居
		弥生時代中期～後期	竪穴住居・土坑	弥生土器・石器・鉄斧	板状鉄斧
		古代	竪穴住居・土壙	須恵器・灰釉陶器 土師器甕	
		中世後期	土壙・土坑 ピット・溝	灰釉系陶器・古瀬戸製品 土師器・銭貨	
		近世末	土坑・ ピット・溝	瀬戸産陶磁器・土師器 窯道具	茶道具(煎茶?)の一括廃棄資料

文書番号	発掘届出(12埋セ第163-2号・2000.7.8／14埋セ第26号・2002.5.30) 通知(12教生第216-35号・2000.12.7／14教生第72-4号・2002.6.18) 終了届・保管証・発見届(14埋セ第73号・2002.9.17) 鑑査結果通知(12教生第216-35号・2001.5.28／14教生第72-4号・2002.11.5)

要約	長谷口遺跡は、標高200m前後の山地裾に位置する。縄文時代から近世末、都合6期にわたる複合遺跡である。これら多岐にわたる時期のうち、特に注目される時期は、縄文時代早期末葉と近世末の2時期ある。縄文時代早期末葉については、隣接する八王子遺跡から継続した集落遺跡として、遺構は集石遺構2基のみであるものの、豊富な土器と石器資料に恵まれた。近世末については、隣接する長谷口B窯跡と同時期の居住地が確認でき、さらに茶道具(煎茶か)に関連する一括廃棄資料があげられる。

第127集　名古屋城三の丸遺跡VII

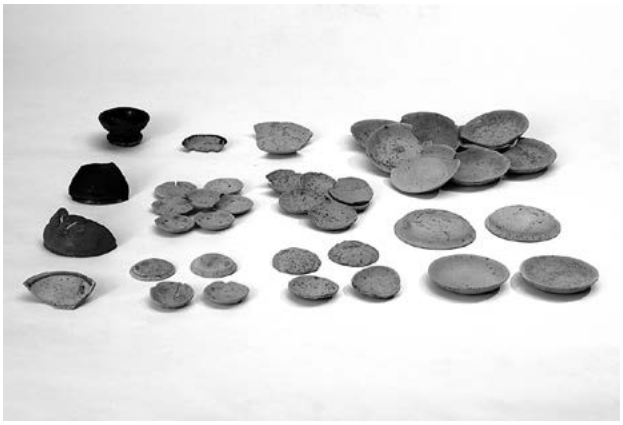
今回の調査は、国立名古屋病院（現独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター）の看護婦養成所大型化整備事業に伴う事前調査として、愛知県埋蔵文化財センターが愛知県教育委員会を通じて委託を受けて実施した。調査地点は名古屋城三の丸の北東部に相当する。現地における発掘調査は朝日航洋株式会社の支援を受けて行い、石黒立人、鈴木正貴、鵜飼雅弘が調査を担当した。　（鈴木正貴）



SK308出土遺物



SK226出土遺物



SK147出土遺物



SK185出土遺物



SK94出土遺物



SK96出土遺物

報告書抄録

ふりがな	なごやじょうさんのまるいせき　な
書名	名古屋城三の丸遺跡 VII
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第127集
編著者名	鈴木正貴・早野浩二・永井邦仁・鬼頭　剛・古澤　明・森　勇一・上田恭子・堀木真美子・小村美代子・植田弥生・鵜飼雅弘
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
なごやじょう 名古屋城 さんのまる 三の丸	あいちけんなごやし 愛知県名古屋市 なかくさんのまる 中区三の丸 よんちょうめ 4丁目	23106	01-7027	35度 10分 33秒	136度 54分 5秒	2002.04.01 ～ 2002.09.30	1,100	看護婦養成所大型化整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
名古屋城 三の丸遺跡	集落	古墳～奈良時代	竪穴住居跡7棟 掘立柱建物跡 溝・土坑など	土師器・須恵器 灰釉陶器	古墳時代から古代の集落
	城郭	鎌倉～戦国時代	掘立柱建物跡 柵列・溝・井戸 土坑など	山茶碗類 瀬戸美濃窯産陶器 肥前窯産陶磁器・石器 石製品・木製品・木材 金属製品およびその関連遺物	那古野城関連の遺構を検出
		江戸時代	池・石組溝 掘立柱建物跡 溝・土坑など		江戸時代の庭園遺構を検出 御屋形に関する遺構群
		明治～昭和時代	礎石建物跡 井戸・土坑など	ガラス製品など	名古屋陸軍病院の病棟やその関連遺物

文書番号	発掘届出(13埋セ第171号・2002.2.28)　通知(13教生第36-26号・2002.3.6) 終了届・保管証・発見届(14埋セ第82号・2002.9.20)

要約	今回の調査で確認された遺構や遺物を4期に大別した。古墳時代から古代では竪穴建物を中心とした集落が確認された。中世では戦国時代の那古野城に関連する屋敷群とそれに先行する集落の存在が明らかになった。近世では当初名古屋城三の丸の武家屋敷が展開したが、17世紀中頃に尾張藩主徳川家の親族らが居住する御屋形が建設され、それに伴う庭園遺構や石組溝が検出された。庭園遺構は池泉鑑賞式庭園で屋敷の中庭的存在であったと推測される。近代では名古屋陸軍病院に関連する遺構や遺物が発見され、戦時中の切迫した物質生活様相を明らかにした。土師器皿や鍋類、及び遺構の変遷を辿ることにより、当地域における物質生活上の画期や歴史的な変遷を考察することができた。

第128集　荒山古墳群

荒山古墳群は、豊田市渡合町に所在する遺跡である。遺跡は、ほぼ東西に延びる標高77～81ｍの丘陵頂部平坦面の西端に立地する。調査は第二東海自動車道建設に伴う事前調査で、1,200㎡の面積を、平成14年４月から７月にかけて行っている。

１　石室を有する古墳２基（１号墳・２号墳）と盛り土された高まりSX01が検出された。

２　１号墳は径７～８ｍの円または方墳で、盛り土部はほとんど流失していた。築造時期は６世紀末～７世紀初頭で、７世紀前半まで追送が行われていたと考えられる。石室内より、須恵器や太刀・刀子・鉄鏃・銀環などの金属製品、ガラス小玉・滑石製小玉・水晶製管玉・瑪瑙製勾玉が出土している。

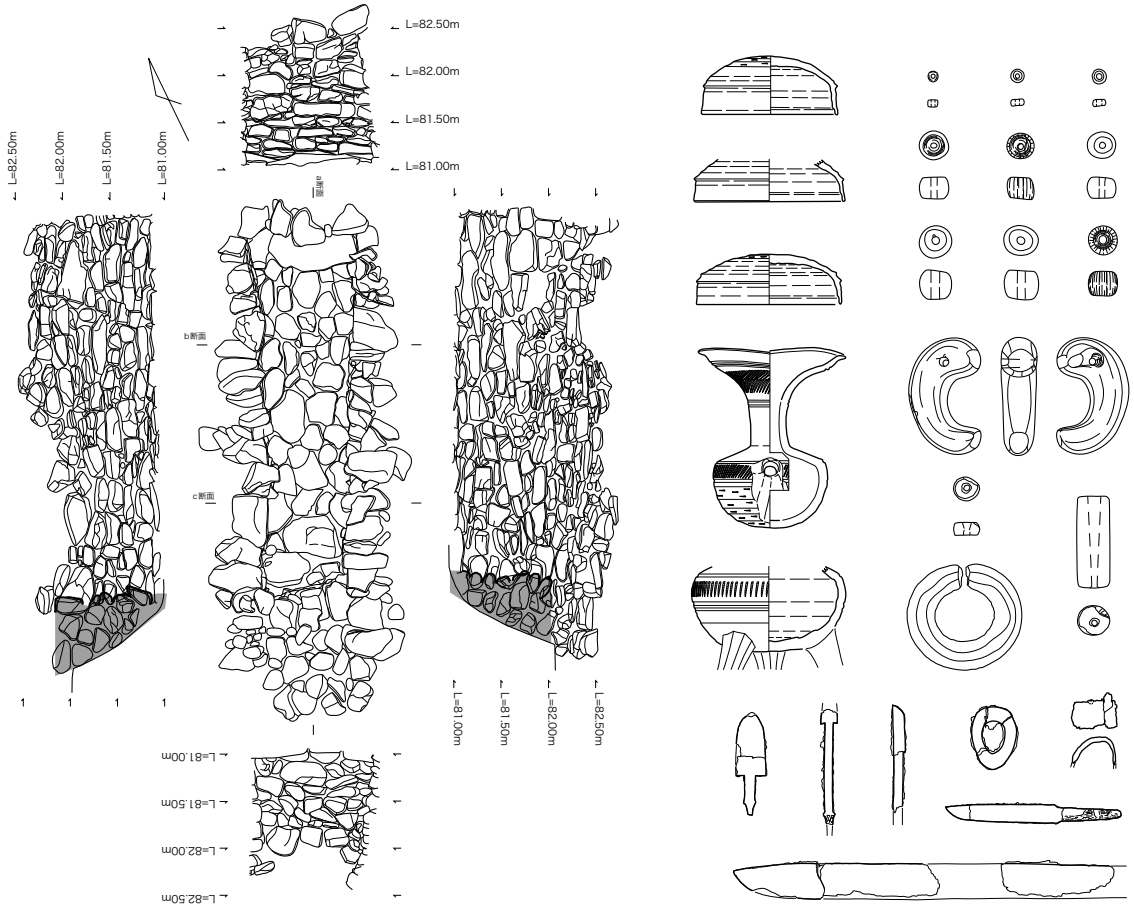
３　石室は竪穴系横口式石室で、（１）玄室平面形は長方形で入り口部は無袖式、（２）横口部は92㎝の高さをもつ段構造をなし、（３）奥壁・側壁・横口部框石とも横長石を多石多段に積み、（４）石室を構築するために地山に墓壙を掘削するなどの特徴がある。この型式の石室は西三河地域を中心に分布するもので、１号墳の石室は巴川を挟んだ対岸にある岡崎市雨戸古墳の石室と類似する。また築造された時期に例の少ない多石多段積みに関しては尾張北東部地域との関連が考えられた。

４　２号墳は墳丘・遺物とも確認されなかったが、周囲から出土した須恵器から６世紀末～７世紀中頃と想定した。石室は小型の両袖・疑似両袖型となる。

５　２号墳周辺から出土した三足壺は、北九州と美濃・尾張に分布の中心があり、竪穴系横口式石室を含め両地域の関連が窺える資料となる。

６　幕末～昭和初期にかけて、焜炉・練炭熾し・陶磁器を用いた人為的痕跡が１号墳付近にみられる。

（宮腰健司）



荒山１号墳（SZ01）石室と荒山古墳群出土遺物

報告書抄録

ふりがな	あらやまこふんぐん
書名	荒山古墳群
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第128集
編著者名	宮腰健司・鬼頭　剛・森　勇一・上田恭子
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2004年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
あらやま 荒山 こふんぐん 古墳群	あいちけんとよたし 愛知県豊田市 どあいちょう 渡合町	23211	63380 63381	35度 2分 31秒	137度 10分 47秒	2002.04 ～ 2002.07	1,200	第二東海自動車道建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
荒山 古墳群	墓	古墳	古墳(円墳か) 竪穴系横口式石室 横口式石室	須恵器・土師器 勾玉・ガラス小玉 滑石製小玉・耳環	三足壺 銀環
		室町～江戸		土師皿・焜炉	

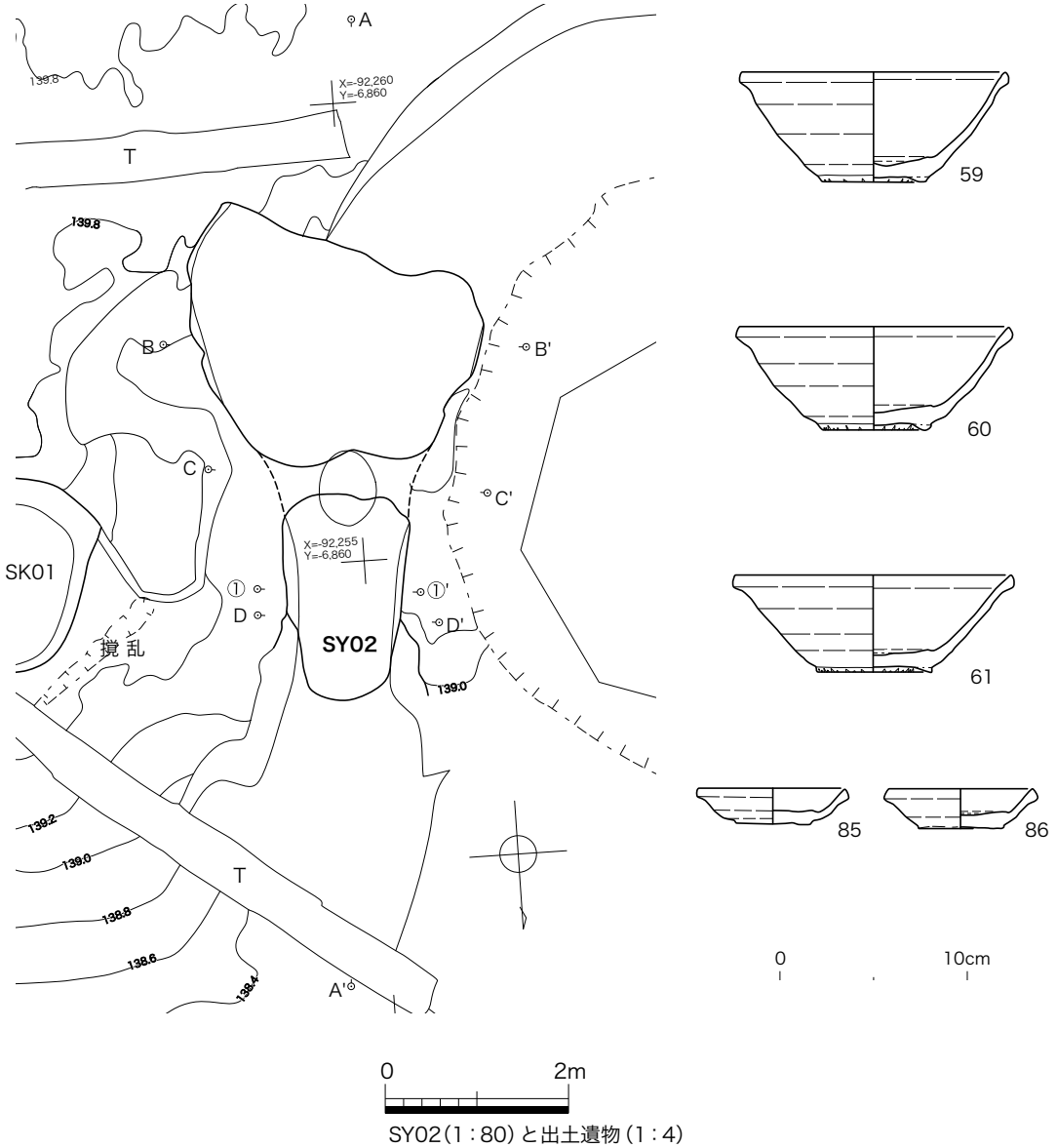
文書番号	発掘届出(13埋セ第165号・2002.2.25)　通知(13教生第33-138号・2002.2.13) 終了届・保管証・発見届(14埋セ第52号・2002.7.29) 鑑査結果通知(教文発第33-138・2002.8.22)

要約	今回の調査では石室を有する古墳２基(１号墳・２号墳)と、盛り土された高まりSX01が検出されている。１号墳は径７～８ｍの円または方墳で、石室内より出土した須恵器や太刀・刀子・鉄鏃より、築造時期は6世紀末～7世紀初頭で、7世紀前半まで追送が行われていたと考えられる。石室は竪穴系横口式石室で、玄室平面形は長方形を呈し、横口部に92㎝の段構造をもつ。また奥壁・側壁・横口部框石とも、横長の扁平な石が多石多段積みされる。この１号墳の石室は巴川を挟んだ対岸にある岡崎市雨戸古墳と類似する。また築造時期に類例の少ない多石多段積みに関しては、尾張北東部との関連が考えられた。２号墳は墳丘・遺物とも確認されなかったが、周辺から出土した須恵器から６世紀末～７世紀中頃と想定した。石室は小型の両袖・疑似両袖型となる。また北九州と美濃・尾張地域にみられる三足壺も出土している。

第129集　I－G－2号窯

I－G－2号窯は愛知郡長久手町東部、愛知青少年公園敷地内に所在する。遺跡は三ヶ峯丘陵を構成する一支丘の北斜面に立地し、焚口付近の標高は約139mである。窯体は中世東海地方に通有の分焔柱を有する窖窯であり、調査の結果３基の存在を確認したが、いずれも焼成室上半及び煙道部は削平されており、燃焼室及び焼成室下半を対象に調査を行った。

主な焼成品は山茶椀・小皿・陶丸であり、本窯が山茶椀専焼窯であることが確認された。遺物は13世紀前葉から中葉にかけて焼成されたと考えられ、継続的な経営が想定される。周辺で過去に実施された調査事例でもほぼ同じ時期の年代観が与えられていることから、猿投窯岩崎支群の窯業生産が13世紀前半にピークに達したことを示す、貴重な事例として位置づけられよう。また、このほかの出土遺物として伊勢型鍋、甕などが挙げられる。　（鵜飼雅弘）



SY02（1：80）と出土遺物（1：4）

報告書抄録

ふりがな	あいじーにごうかまあと
書名	I−G−2号窯跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第129集
編著者名	鵜飼雅弘
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
あいじーに I−G−2 ごうかま 号窯	あいちけんあいちぐん 愛知県愛知郡 ながくてちょうおおあざやざこ 長久手町大字岩作 あざさがみね 字三ケ峯	23304	15033	35度 10分 6秒	137度 5分 27秒	2003.04.07 ～ 2003.07.07	350	青少年公園再整備に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
I−G−2 号窯跡	古窯跡	鎌倉時代	窯体3基	灰釉系陶器	山茶椀・小皿・陶丸を焼成

文書番号	発掘届出(14埋セ第156号・2003.2.28)　通知(14教生第72-14号・2003.3.7) 終了届・保管証・発見届(15埋セ第24号・2003.6.20) 鑑査結果通知(14教生第72-14号・2003.8.15)

要約	本窯は山茶椀・小皿・陶丸を焼成した、いわゆる山茶椀専焼窯である。中世東海地方に通有の分焔柱を有する窖窯であり、窯体を3基確認したが、いずれも上半は滅失した状態であり、燃焼室及び焼成室の一部を確認するに留まった。遺物の年代観から、13世紀前葉から中葉にかけての操業が考えられる。本窯は猿投窯岩崎支群の一群に含まれており、周辺の丘陵を含めた窯業生産の実態を示す一資料として位置づけることができる。

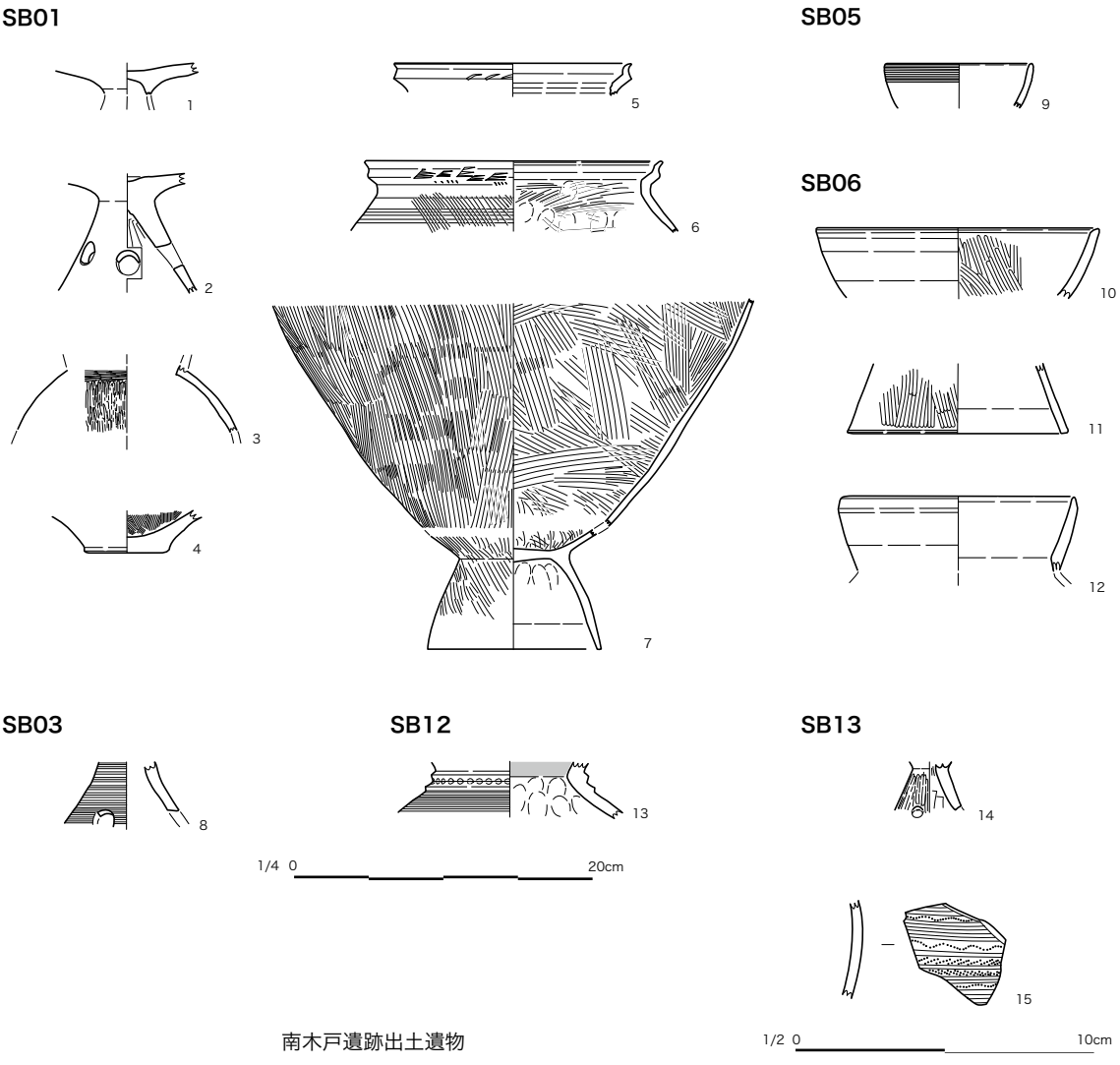
第130集　南木戸遺跡

南木戸遺跡は、一宮市萩原町河田方字南木戸に所在している。地形的には、濃尾平野を北東から南西に流れる木曽川の一支流である日光川の左岸に形成された沖積微高地上に立地し、現地表面での標高は約５ｍを測る。

1962(昭和37)年には、名神高速道路の建設に際して、古墳前期の土器・木製品が大量に出土している。今回は、この名神高速道路の側道にあたる市道256号線の下に水道管を埋設するための事前調査としておこなわれた。

その結果、古墳初頭(廻間Ⅰ式期後半～同Ⅱ式期初頭)に属する竪穴住居11棟・小型掘立柱建物２棟・溝１条・土坑55基のほか、古代から近世にかけての遺構を確認した。古墳初頭の集落は、東西幅約30mの狭い微高地上に展開しており、竪穴住居の規模も小さいことから、比較的短期間の小規模な居住域と推定される。

しかしながら本遺跡の周辺には、八王子遺跡・山中遺跡・北川田遺跡・苗代遺跡・二タ子遺跡・河田遺跡など、南北約３㎞、東西約1.5㎞の範囲に弥生～古墳時代の著名な遺跡が集中しており、今後とも目が離せない地域といえる。　（樋上　昇）



南木戸遺跡出土遺物

報告書抄録

ふりがな	みなみきどいせき
書名	南木戸遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第130集
編著者名	樋上　昇・鬼頭　剛・植田弥生・山形秀樹
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
みなみきど 南木戸	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 はぎわらちょうかわだかた 萩原町河田方 みなみきど 南木戸	23207	02082	35度 17分 3秒	136度 46分 16秒	2003.04.14 ～ 2004.05.14	195	愛知県水道用水供給事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南木戸遺跡	集落	古墳時代	竪穴住居11棟 掘立柱建物2棟 溝1条 土坑55基	S字状口縁台付甕 高杯 パレススタイル壺	萩原遺跡群の一角を占める集落で、特に1期には直角に折れ曲がる区画溝が、2～6期は2～3棟程度の竪穴住居・掘立柱建物が確認された
		古代	竪穴住居2棟 溝1条 土坑67基	須恵器杯蓋・身 須恵器擂鉢 伊勢系土師器甕 木製品	
		中世	土坑14基	灰釉系陶器・木製品	
		近世	溝6条 土坑12基	陶磁器	

文書番号	発掘届出(14埋セ第171号・2003.3.10)　通知(14教生第72-16号・2003.3.18) 終了届・発見届(15埋セ第15号・2003.5.26)　鑑査結果通知(14教生第72-16号・2003.12.25)

要約	南木戸遺跡は日光川左岸の沖積微高地上に立地する古墳初頭を主体とする集落遺跡である。昭和37年の名神高速道路建設の際、河田方高架橋の敷設工事において廻間Ⅰ～Ⅱ式期に属する大量の土器と木製品が出土して遺跡の存在が知られるようになった(『一宮市史　資料編二』所収)。 今回の調査は、名神高速道路南側の側道にあたる市道256号線の下に水道管を埋設するための事前調査として、幅約3m、全長約70mの調査区を設定した。その結果、調査区の西寄りで幅がおよそ40mほどの微高地を確認した。さらに微高地の西半分にあたる約20mの範囲で、廻間Ⅰ式期後半～Ⅱ式期初頭に属する竪穴住居11棟と小型の掘立柱建物2棟、溝1条、土坑55基を検出した。集落はおよそ6期の変遷が認められる。うち特に1期は、居住域の西辺がL字に折れる幅4～5mの区画溝を確認した。2期～6期は調査内でそれぞれ2～3棟の竪穴住居があり、その東には小型の掘立柱建物数棟と土坑群が集中して築かれている。 このほか、8世紀前半の竪穴住居2棟と溝1条・土坑67基、中世および近世の土坑が多数確認されている。

IV. 埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録

平成 16 年度　埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会について

1　目的

愛知県埋蔵文化財センターの発掘調査により出土した資料を広く公開し、また、学識経験者による講演会を開催することによって、県民の埋蔵文化財に対する理解を深めるとともに、郷土に残された先人の歴史を考え、文化財保護意識の向上を図る。

2　主催

愛知県教育委員会
一宮市博物館
財団法人　愛知県教育サービスセンター

3　主管

愛知県埋蔵文化財センター

4　埋蔵文化財展

1）会場：一宮市博物館
　一宮市大和町妙興寺2390（0586-46-3215）
2）日時：平成16年7月17日(土)～8月29日(日)
　9.30～17.00　月曜休館
　［7月19日(月)開館・20(火)休館］
3）タイトル：「弥生水都（すいと） 二千年」

5　埋蔵文化財講演会（参加自由）

1）会場：愛知県一宮勤労福祉会館
　一宮市若竹町3丁目1-12（0586-77-6612）
2）日時：平成16年8月15日(日)
　午後1.30～4.30
3）講師：石野博信（ひろのぶ）氏（徳島文理大学教授）
4）演題：弥生の國々とその都

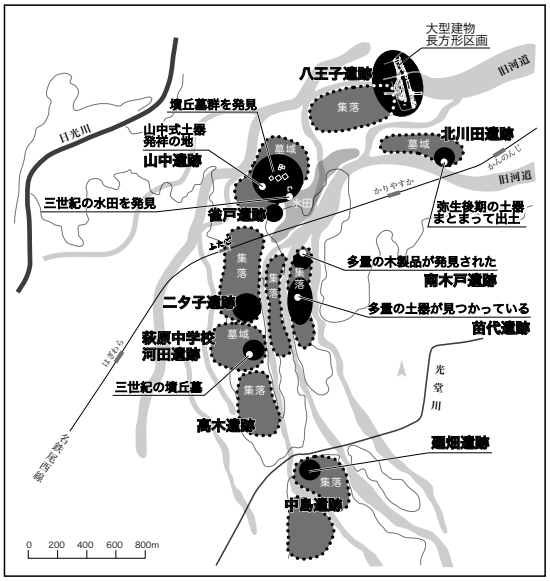


6　関連事業の内容について

埋蔵文化財展

1）「弥生水都 二千年 －葉栗臣人麿（はぐりのおみひとまろ）が語る考古学むかし話－」

一宮市周辺の遺跡調査とその研究成果に基づき、弥生～古墳時代までの海部・中島・葉栗郡の歴史を概観し、特に一宮市八王子遺跡を中心にした出土遺物のほかに、写真・想定図などのパネルを用いて展示紹介する。



萩原遺跡群（一宮市）


八王子遺跡（一宮市）出土遺物


八王子遺跡・北道手遺跡（一宮市）出土遺物

葉栗一族に残る物語

草木たちがことばをしゃべっていたはるか昔々、人々はあらゆるものに神々が宿ると信じ、それを崇めてくらしていた・・・・・。

このあたりは、いたる所で泉が湧き、良き水があり、それを求めて人や動物たちがあつまってくる。

カゲロウムラ（一宮市元屋敷遺跡）

南の川の辺ほとりに、古い古いムラの跡がある。今は土に埋もれ何も残っていないが・・・。

この場所は夏の満月にカゲロウが飛び交い、かつては「カゲロウムラ」と呼ばれていた。

我が一族がこの地にやって来るはるか以前、ここに大きなムラがあり、この葉栗の地に米作りの技術を伝えたムラと聞いておる。

白く輝く器（山中式土器）

萩原の地にかつてとてもとても大きなムラがあった。今の都のようなに賑わいで、多くの部族が集まってきていたそうだ。萩原の民は、見たことがないような美しい器を作ることができた。

ムラは、川と泉いずみに囲まれた、それはそれは美しい「水の都」であった。

オウと呼ばれた英雄神（八王子遺跡の大型建物）

とても寒い年が続いた春に、萩原の地で大部族長会議が開かれることになった。

天にもとどくような建物ができ、その中で不思議な器や道具が運び込まれた。

そして、多くの部族長の中から、顔に鳥のイレズミをもつ一人の若者が選ばれ、周囲の部族を従えていった。

やがて彼はオウと呼ばれた英雄神となり、この水の都に祀られる。

アガタヌシ

時がたちヤマトに大王が登場すると、この地にも大王からの使者がやって来るようになった。

ここから南に半日ほどいった所に島田という所がある。ここにそのむかしアガタヌシが住んでおった。

アガタヌシは大王の命を無視して、温原の民と豊かに暮らしていたが、これに怒った大王は戦士を遣してアガタヌシを滅してしまった。

島田に残る古い塚の跡は、アガタヌシを滅ぼし、島田の地を治めた人物の墓である。

葉栗臣人麿からの手紙

米作りを伝えた弥生カゲロウムラの人たちも、萩原の地に水都を築いた人たちも、いまは何処へとさっていった。ヤマトの大王は巨大な古墳を築くことをやめてひさしい。聞けば都には大きなお寺が次々に造られておるという。

木曽川と良き水があちこちに湧き出すこの地にも、皆みなで葉栗の寺を造ることにした。真清田の神や民はよろこんでくれるであろう。

物語を聞いてくれた旅人よ、縁があったらまた合あおう。そして耳をかたむけて欲しい。

土に眠る古代からの独り言を・・。



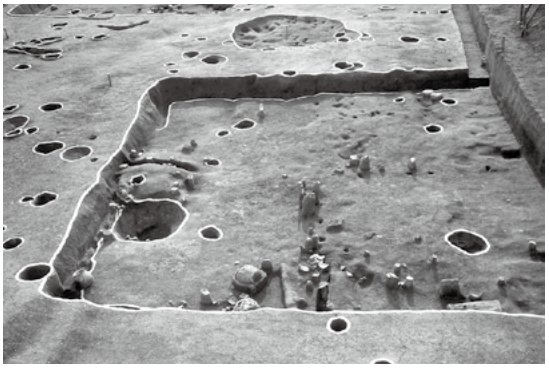
2）愛知県埋蔵文化財センター　埋蔵文化財新出土品展

愛知県埋蔵文化財センターが平成15年度に発掘調査した遺跡の紹介。

瓶子（へいじ）窯跡（瀬戸市）・一色青海（いっしきあおかい）遺跡（中島郡平和町）・小針（こばり）遺跡（岡崎市）・惣作（そうさく）・鐘場（かねば）遺跡（瀬戸市）ほか



一色青海遺跡（中島郡平和町）作業風景



惣作・鐘場遺跡（瀬戸市）竪穴住居



瓶子窯跡（瀬戸市）出土遺物

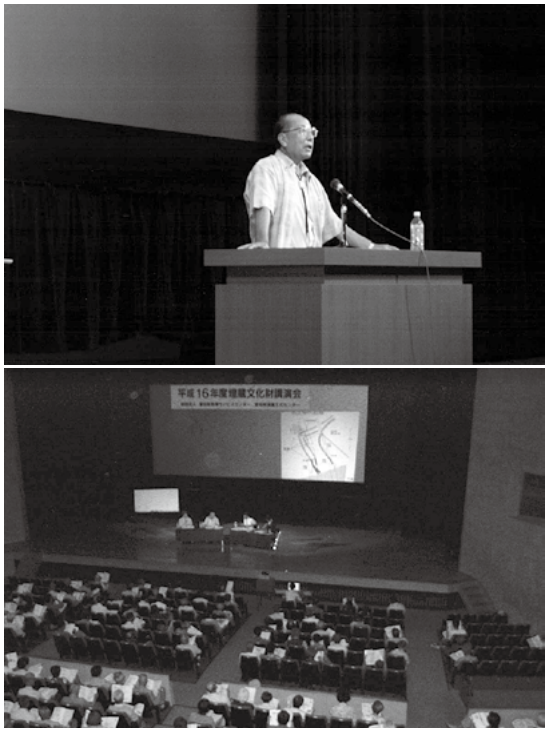




一色青海遺跡
出土遺物

埋蔵文化財講演会

石野博信氏（徳島文理大学教授）による「弥生の國々とその都」と題する講演会を実施し、その後「幻の巨大遺跡、一宮市萩原遺跡群の謎を探る」と題して、パネリスト森岡秀人氏（芦屋市教委）・石黒立人（愛知埋文セ）・赤塚次郎（愛知埋文セ）を加えたパネルディスカッションを開催。



講演会・パネルディスカッションのようす

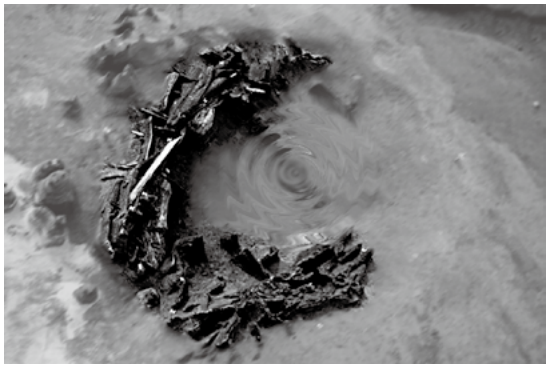
Photo・ギャラリートーク

一宮市八王子遺跡のスライド写真をまじえた展示解説（午後２時から40分程度）。

場所：一宮市博物館展示室

講師：愛知県埋蔵文化財センター調査課職員

日時：７月17日(土)・７月31日(土)・
８月７日(土)・８月21日(土)・８月28日(土)



八王子遺跡の泉イメージ



仙界のイメージ

その他

一宮市博物館主催による小・中学生対象文化体験プログラム「子どものための尾張歴史講座」を開催。

場所：一宮市博物館学習室ほか

内容：午前10.00～12.00 午後1.00～3.00

８月１日（日）「石器を作る・石器を使う・石器を観察する」

８月８日（日）「土器を作る・土器を使う・土器を観察する」

８月15日（日）「縄文時代の布を編む・弥生時代の布を織る」

８月22日（日）「古代人から学ぶ木の性質と木の道具」

８月29日（日）「金属器・・・耳飾りを作る」



歴史講座のようす



（赤塚次郎）

Ⅴ．発掘調査技術等研修会の記録

平成16年度　発掘調査技術等研修会　開催報告

2004年12月８日（水）・９日（木）に、愛知県教育委員会と愛知県埋蔵文化財センターの共催で行われた。今年度の研修会は「埋蔵文化財としての参加体験型学習について」と題し、学校教育現場あるいは地域社会における埋蔵文化財の活用法とその事例について検討を加え、併せて生涯学習での幅広い活用法を模索することをねらいとした。

県内の埋蔵文化財担当者、博物館学芸員、生涯学習課担当者などから８日には41名、９日には46名と多くの参加者が集まった。

12月８日（水）

会場：愛知県埋蔵文化財センター２階研修室

・講義１「弥生学習講座」
　講師　原田　幹氏（県文化財保護室）

・講義２「体験型考古普及活動の事例と
　その問題点」
　講師　岩瀬彰利氏（豊橋市教育委員会）

・「出前授業体験」… 火おこし・道具使用体験
　「石の斧と鉄の斧」

・座談会・意見交換会

８日最初の講義の原田　幹氏（県文化財保護室）からは平成12年度に始まった「出前博物館」の実施状況や「メニュー」、募集から実施までの流れ、準備の苦労や安全対策、留意点などの詳細な報告があった。

岩瀬彰利氏（豊橋市教育委員会）は豊橋市の事例紹介のあと、「体験型普及活動」をテーマパークの体験にさせない、学習重視の方向性について話された。

午後は野口哲也氏・原田　幹氏（文化財保護室）の指導のもと、火おこし体験と復元した石斧と鉄斧を用いた丸太切断の比較実験を行った。指導する側の学習と訓練の重要性を身をもって体験する結果となった。

その後の座談会では、他地域の事例や体験談について質問や活発な意見交換があった。


原田氏の講演のようす


岩瀬氏の講演のようす


火おこし体験


石斧使用体験

12月９日（木）

会場：安城市歴史博物館

・講義１「博物館と学校現場」
　講師　加藤善亮氏（安城市歴史博物館）

・講義２「博物館における子ども向け講座の
　目的と方法」
　講師　久保禎子氏（一宮市博物館）

・「安城市埋蔵文化財センター
　および博物館の見学」

９日は会場を安城市歴史博物館に移し、まず加藤善亮氏（安城市歴史博物館）が学校教育現場への博物館の働きかけの実際について、学習指導計画の時期や内容にあわせた博物館展示企画の工夫や教師との連携について紹介された。

久保禎子氏（一宮市博物館）は、歴史・民俗・自然科学などを綜合した体験型学習の事例について、「本物指向」を目指す際の問題点や苦労について紹介された。

午後は、公開を前提とした設計で建設された安城市埋蔵文化財センターの収蔵庫を含む諸施設と、安城市博物館の企画展「正月の遊び」を見学させていただいた。

今回の研修会は、講師の方々をはじめ参加者の皆さんが熱っぽく語られたように、まさに現在進行形の「体験型学習」「体験型普及活動」のこれからの可能性を改めて認識する機会となりました。厚く御礼申し上げます。　（武部真木）


加藤氏の講演のようす


久保氏の講演のようす


安城市埋蔵文化財センター見学



安城市歴史博物館見学

VI. 埋蔵文化財センターの活動

現地説明会等

現地説明会

遺跡名	開催日	所在地	内容	参加者
朝日遺跡	1月29日(土)	西春日井郡清洲町・春日町	弥生時代後期の北集落の東縁辺部を調査。竪穴住居・環濠や方形周溝墓等を検出。貝輪形土製品・丸木舟の他、主な出土遺物を展示。	250名

地元説明会

遺跡名	開催日	所在地	内容	参加者
桜鐘古窯跡	6月26日(土)	知多市	13世紀中頃から後半の陶器窯7基を調査。窯体の残存状況は不良であるが、分焔棒を検出。壷・甕など主な出土遺物を展示。	50名
夏敷古窯跡	7月4日(日)	常滑市	平安時代末期の陶器窯1基を調査。ほぼ完全に残る窯体と作業場を検出。壷・甕・捏鉢などを展示。	100名
惣作遺跡	1月22日(土)	安城市	弥生時代から平安時代にかけての集落遺跡を調査。竪穴住居・掘立柱建物の他、墓、溝を検出。土器棺や墨書土器など主な出土遺物を展示。	50名

記者発表

遺跡名	開催日	所在地	内容
朝日遺跡	1月26日(水)	西春日井郡春日町下之郷	貝輪形土製品(弥生時代後期初頭)

資料の貸出・提供

貸出先	目　的	遺跡名	貸出・提供資料		期間
株式会社碧水社	学習研究社『よみがえる日本の城 名古屋城』に掲載	名古屋城三の丸遺跡	遺物写真	デジタルデータ3点	平成16.4.5
財団法人千葉県史料研究財団	『千葉県の歴史資料編 考古4(遺跡・遺構・遺物)』の掲載	志賀公園遺跡	遺物写真	6×7カラーポジ3点	平成16.4.5
幡豆町教育委員会	『幡豆の出土遺物展』	下山古墳	遺構写真	6×7カラーポジ 3点	平成16.4.9
		西川原古墳	遺構写真	6×7カラーポジ 3点	
		鳥羽城跡	遺構写真	6×7カラーポジ 3点	
			遺構写真	空撮密着プリント2点	
			遺構写真	35mmカラーポジ2点	
東海市　個人	山川出版社『新全国歴史散歩シリーズ 愛知県の歴史散歩(改訂版)上』に掲載	松崎遺跡	遺物写真 1点	使用許可のみ	平成16.4.21
豊田市郷土資料館	豊田市郷土資料館企画展『猿投山麓の遺跡III』	寄元古墳	遺物写真	デジタルデータ	平成16.4.26
		御船城跡	遺物写真	デジタルデータ	
(株)小学館	「考古学資料大観　第10巻」に掲載	朝日遺跡	武器形骨角器・石剣・伐採斧・石鏃・加工斧・粗製剥片石器・石包丁・朝鮮半島産鉄斧・巴形銅器・銅鐸・鏡・逆茂木・杭列・装飾品	4×5カラーポジ4点 6×7カラーポジ8点 デジタルデータ	平成16.4.28
		八王子遺跡	井泉・ミニチュア土器集合・大溝出土状況	6×7カラーポジ2点	〃
		志賀公園遺跡	U字形鉄刃を装着する曲柄平鍬	利用許可	
		一色青海遺跡	SB17大形建物	利用許可	
豊田市郷土資料館	豊田市郷土資料館企画展『猿投山麓の遺跡III』	寄元古墳	3号墳墓石室内遺物出土写	＊すべてデジタルデータ	平成16.5.26
		寄元古墳	4号墳墓石室全景写真		
		上ノ段遺跡	全景(南から)		
高崎市等広域市町村圏振興整備組合立かみつけの里博物館	夏期企画展『古代の「蒸し器」を使ったら』に利用のため	志賀公園遺跡	遺物写真(E-1165横面、底面) 遺物写真(E-1497横面)	6×7カラーポジ 2点 6×7カラーポジ 1点	平成16.5.26～ 平成16.8.13
愛知県総務部	愛知県史資料編3考古3古墳に掲載	志賀公園遺跡	遺物写真	6×7カラーポジ 1点	平成16.5.26
		西上免遺跡	遺構写真	6×7カラーポジ 1点	
			遺構写真	6×7カラーポジ 1点	
株式会社　映像	西三河の肖像『古代からのメッセージ』(ケーブルテレビ番組)に利用のため	岡島遺跡	岡島遺跡 遺物出土写真(水辺の祭祀)	1 点	平成16.6.14
			遺物出土写真(土器棺墓)	1 点	
			遺構検出写真(竪穴住居)	1 点	
			遺構検出写真(方形周溝墓)	1 点	
有限会社　コーベット・フォトエージェンシー	新編ビジュアル日本史(高校生向け教科書副読本)に利用のため	朝日遺跡	遺構写真 (逆茂木)	デジタルデータ	平成16.7.20
橿原考古学研究所	秋期特別展『前方後方墳』に利用のため	廻間遺跡	遺構写真	6×7カラーポジ 1点	平成16.7.23
		西上免遺跡	遺構写真	6×7カラーポジ 1点	〃
静岡県立登呂博物館	特別展「古代建物のまつり」に利用のため	朝日遺跡	遺物写真(巴型銅器)	デジタルデータ1点	平成16.7.23
			遺物写真(剣型石製品)	6×7カラーポジ 1点	
			遺跡全景写真	6×7カラーポジ 1点	
			遺物写真(銅鏃	6×7カラーポジ 1点	
		一色青海遺跡	遺跡全景写真	デジタルデータ 1 点	
			遺構写真	デジタルデータ 1 点	
		猫島遺跡	遺跡写真	6×7カラーポジ 1点	
			遺物写真(人面付土器)	6×7カラーポジ 1点	
		本川遺跡	遺跡写真	6×7カラーポジ 1点	
			遺物写真(鳥形木品)	6×7カラーポジ 1点	
可児市教育委員会	「可児市史　第1巻通史編考古・文化財」に利用のため	朝日遺跡	遺構写真(逆茂木)	デジタルデータ 1 点	平成16.9.7
			木製品出土写真	デジタルデータ 1 点	
春日井市教育委員会	「春日井市広報」に利用のため	勝川遺跡	遺構写真(62F 区NR01)	6×7カラーポジ 1 点	平成16.9.24
愛知県総務部長	『愛知県史　資料編3　考古3　古墳』に利用のため	水入遺跡	遺構写真	4点	平成16.9.24
			石製模造品写真	1点	
		田所遺跡	石製模造品写真	1点	
		朝日遺跡	キ龍文鏡写真	1点	
上毛新聞社出版局	『群馬の遺跡』第5巻 「古墳時代集落」に利用のため	西上免遺跡	調査区全景写真	デジタルデータ 1 点	平成16.10.4
			出土遺物写真	デジタルデータ 1 点	〃

貸出先	目　的	遺跡名	貸出・提供資料		期間
瀬戸市歴史民俗資料館	常設展「瀬戸3万年の歴史」「瀬戸焼きの歩み」に利用のため	金萩遺跡	ロクロピット	はぎ取り1点	平成16.11.29
瀬戸市歴史民俗資料館	常設展「瀬戸3万年の歴史」「瀬戸焼きの歩み」に利用のため	八王子遺跡(瀬戸市)	尖底深鉢(報告書掲載207)	1点	平成16.11.29 〃
		上品野遺跡	台形石器集合写真	1点	
		惣作・鐘場遺跡	銅鐸型土製品写真	1点	
		清洲城下町遺跡	陶製狛犬(報告書53 集掲載498)写真	1点	
株式会社セレプロ	「森浩一が語る日本の古代」(DVD) に利用のため	朝日遺跡	全景写真	1点	平成16.11.29 許可のみ
			柵列	1点	
			乱杭	1点	
			防御施設	1点	
			弥生時代後期後半の赤彩土器	1点	
			銅鐸埋納坑遠景写真	1点	
			銅鐸出土状況	1点	
可児市郷土歴史館	特別展「東海の発掘ニュース」に利用のため	本川遺跡	土器写真	4×5カラーポジ 4 点	平成16.12.13 〃 平成17.2.4
			木製品写真	6×7カラーポジ 1 点	
			遺構写真	6×7カラーポジ 5 点	
		権現山遺跡	土器写真	6×7 カラーポジ 2 点	
			遺構写真	6×7 カラーポジ 3 点	
		猫島遺跡	遺物写真	6×7カラーポジ 9 点	
			遺構写真	6×7カラーポジ 3 点	
豊明市教育委員会	「豊明市広報　平成17年1月号」に利用のため	大脇城跡	木製品写真	1 点	平成17.1.6
愛知県総務部長	「愛知県史　資料編3　考古3　古墳」に利用のため	門間沼遺跡	土器実測図	1 点	平成17.1.6
		大毛池田遺跡	遺構写真	1 点	
		水入遺跡	石器実測図	1 点	
		田所遺跡	石器実測図	1 点	
		朝日遺跡	遺物実測図	1 点	
可児市教育委員会	「可児市史」第1巻通史編に利用のため	阿弥陀寺遺跡	遺物実測図	1 点	平成17.1.6
		松河戸遺跡	遺物実測図	1 点	
		清須城下町遺跡	遺物実測図	1 点	
		松河戸遺跡	木棺墓及び出土遺物実測図	1 点	
有限責任中間法人日本考古学協会	「2003 発掘された日本列島」日本考古学協会英文公式サイトに利用のため	朝日遺跡	巴型銅器出土地点	デジタルデータ 1 点	平成17.1.11 許可のみ
			巴型銅器	デジタルデータ 1 点	
			骨角製品	デジタルデータ 1 点	
			山中式土器	デジタルデータ 1 点	
			銅鏃	デジタルデータ 1 点	
			打製石鏃	デジタルデータ 1 点	
			戈形木製品	デジタルデータ 1 点	
長野県立歴史館	長野県立歴史館発行ブックレット「信濃の風土と歴史」11 に利用のため	朝日遺跡	杭列	6×7カラーポジ 1 点	平成17.1.11
長久手町教育委員会	特別展「長久手の歴史展」に利用のため	岩作城跡	出土遺物(横瓶)	6×7カラーポジ 1 点	平成17.1.18
春日町教育委員会	「郷土のあけぼの　春日村の遺跡　第1集(復刻版)」に利用のため	朝日遺跡	出土遺物(袋状鉄斧) 出土遺物(貝輪状土製品)	プリント 1 点 プリント 1 点	平成17.1.24 〃

<<平成16年4月1日～平成17年3月1日>>

報告書作成のための遺物等の指導

日付	遺跡名	指導者(所属)
平成16年4月～平成17年3月	名古屋城三の丸遺跡・朝日遺跡・水入遺跡・清洲城下町遺跡・上品野遺跡	森　勇一(愛知県立明和高等学校)
平成16年6月4日	朝日遺跡	寺前直人(大阪大学)
平成16年7月27日	名古屋城三の丸遺跡	藤沢良祐(愛知学院大学)
平成16年8月24日	小針遺跡	城ケ谷和弘(豊田南高等学校)
平成16年10月12日	NA311号窯跡	藤沢良祐(愛知学院大学)
平成16年10月25日	I-G-2号窯跡	赤羽一郎
平成16年12月6日	瓶子窯跡	井上喜久男(愛知県陶磁資料館)
平成17年1月25日	瓶子窯跡	福岡猛志(日本福祉大学)
平成17年1月25日	瓶子窯跡	曲田浩和(日本福祉大学)
平成17年1月27日	鷲窯跡	藤沢良祐(愛知学院大学)
平成17年3月10･11日	朝日遺跡	村上恭通(愛媛大学)
平成17年3月10･11日	朝日遺跡	寺前直人(大阪大学)

発掘調査現場における遺構・遺物等の指導

日付	遺跡名	指導者(所属)
平成16年6月15日	桜鐘古窯群	中野晴久(常滑市民俗資料館)
平成16年6月16日	夏敷古窯	楢崎彰一((財)瀬戸市埋蔵文化財センター)
平成16年7月28日	惣作･鐘場遺跡	渡辺　誠(山梨県立考古博物館)
平成17年1月17日	朝日遺跡	北條芳隆(東海大学)
平成17年2月1日	朝日遺跡	大塚達朗(南山大学)
平成17年2月1日	朝日遺跡	黒沢　浩(南山大学)
平成17年2月23日	桑下城跡	千田嘉博(国立歴史民俗博物館)

ホームページ

内容の更新

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1.WhatNew	Web愛知 No.19,20	Web愛知 No.21	Web愛知 No.22～24	Web愛知 No.25,26	Web愛知 No.27	Web愛知 No.28	Web愛知 No.29,30	Web愛知 No.31	Web愛知 No.32～34	Web愛知 No.35	Web愛知 No.36	Web愛知 No.37
2.イベント・展示会情報	各種案内／埋文展案内	各種案内	各種案内／埋文展案内	各種案内	各種案内	各種案内	各種案内	各種案内	各種案内／埋文展案内	各種案内／資料公開／現地説明会（朝日遺跡）	各種案内	各種案内／埋文展案内
3.調査速報		桜鎧古窯群 夏敷古窯跡	桜鎧古窯群 夏敷古窯跡 惣作鐘場遺跡	惣作鐘場遺跡				高坂遺跡 惣作遺跡	高坂遺跡	惣作遺跡		高坂遺跡 惣作遺跡
4-1.ようこそ ばれ～す遺跡へ												
4-2.信長が 夢見た城下町	瓦のふきかた											
4-3.弥生神 との出会い												
5.自然科学から みた考古学	古地磁気年代測定						黒水晶と黒曜石	総合的な分析				
6.今月の考古学者	松田	堀木	加藤			樋上						
7.考古学入門												
8.埋文コレクション	遺跡アルバム（高針原１号窯）（細口下１号窯）（鳴ノ巣古窯）					遺跡アルバム（廻間Ⅰ古窯）	遺跡アルバム（石皇野B）（名城三の丸）（鳥帽子）（岡山屋敷）		遺跡アルバム（勝鬨）（矢並下本城）（権現山）（古新田）			遺跡アルバム（東城）
9.刊行物			平成15年度 年報・紀要 刊行報告書 PDF公開		報告書概要 コンテンツ（90.志賀公園,100.本川 112.八王子,113.東郷はか 116.岡山屋敷,117.鳥帽子 118.廻間Ⅰ窯跡） 報告書抄録公開	報告書概要 コンテンツ（107.笹島,101.平手町）	報告書概要 コンテンツ（105.今町,106.西川原 110.権現山,111.木戸城 114.石皇野B,115.名城Ⅵ）		報告書概要 コンテンツ（104.菅元ほか,103.川田） 平成16年度 刊行報告書 PDF公開			報告書概要 コンテンツ（102.矢道）
その他	検索エンジン											
トップページカウンター	73,753	77,839	78,910	80,900	82,778	84,328	85,682	87,229	88,412	89,904	91,485	92,934



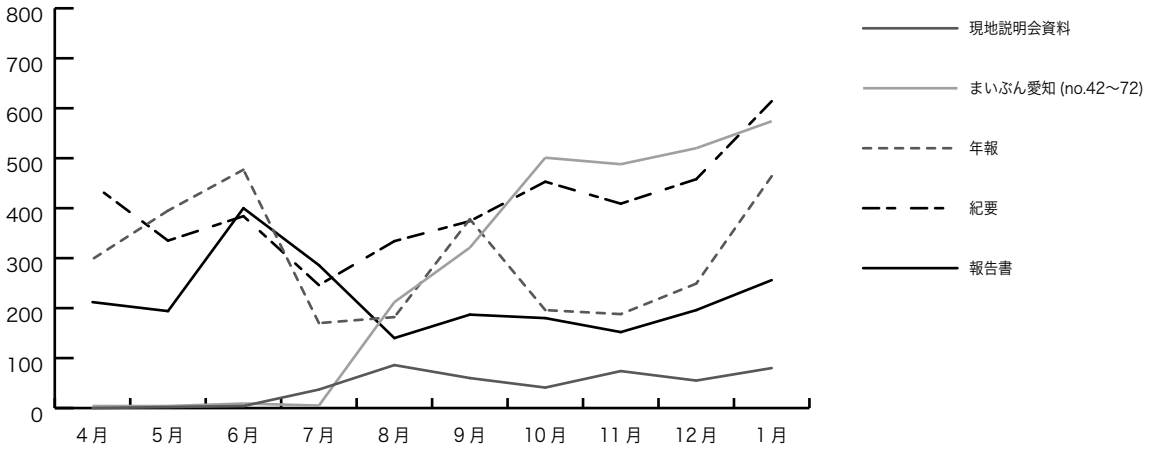






PDF ダウンロード

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
現地説明会資料	0	2	4	37	86	60	41	74	55	80	439
埋文愛知	4	4	9	5	212	321	501	488	520	574	2,638
年報11	65	103	92	43	78	89	40	29	69	89	697
年報12	94	117	136	38	42	137	61	43	31	118	817
年報13	54	75	0	0	9	67	44	41	32	74	396
年報14	85	100	99	43	32	54	32	22	33	46	546
年報15			150	46	21	31	19	53	84	137	541
紀要1(7)	165	141	94	84	104	113	156	96	116	154	1,223
紀要2(5)	83	63	67	51	50	48	55	48	48	83	596
紀要3(7)	82	66	74	43	52	100	97	101	99	95	809
紀要4(5)	118	65	48	30	64	48	60	48	45	66	592
紀要5(6)			101	38	64	65	85	116	150	216	835
報告書	212	194	400	286	140	187	180	152	196	256	2,203
合計	962	930	1,274	744	954	1,320	1,371	1,311	1,478	1,988	12,332



平成16年度　愛知県埋蔵文化財センター　組織一覧

運営協議会委員

石川光博	愛知県教育委員会生涯学習監
伊藤秋男	南山大学教授
上村喜久子	名古屋短期大学名誉教授
大澤義洋	県都市教育長協議会会長 瀬戸市教育委員会教育長
諏訪兼位	名古屋大学名誉教授
田辺征夫	独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長
楢崎彰一	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター所長 名古屋大学名誉教授
渡辺　誠	山梨県立考古博物館長 山梨県立埋蔵文化財センター所長 名古屋大学名誉教授

専門委員

考古学	楢崎彰一	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター所長 名古屋大学名誉教授
考古学	伊藤秋男	南山大学教授
文献史学	福岡猛志	日本福祉大学副学長 日本福祉大学附属高等学校長
地理学	海津正倫	名古屋大学教授
建築史学	小寺武久	名古屋大学名誉教授
考古学 **動物学** **植物学**	渡辺　誠	山梨県立考古博物館長 山梨県立埋蔵文化財センター所長 名古屋大学名誉教授
形質人類学	多賀谷　昭	長野県看護大学教授
保存科学	肥塚隆保	独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター 保存修復科学研究室長
岩石学	諏訪兼位	名古屋大学名誉教授
木材組織学	木方洋二	名古屋大学名誉教授

所長(兼管理課長) 藤澤宣勝

管理課

課長補佐	橋本　昇	
主　査	長﨑　稔	
主　事	佐々木裕二	高桑大輔
	細木克彦	

調査課

課　長	福岡晃彦	
主　査	赤塚次郎	石黒立人
	小澤一弘	宮腰健司
	酒井俊彦	池本正明
主　任	松田　訓	鈴木正貴
調査研究員	樋上　昇	鵜飼雅弘
	加藤博紀	堀木真美子
	永井宏幸	鬼頭　剛
	武部真木	蔭山誠一
	川添和暁	永井邦仁
	早野浩二	

上品野遺跡調査報告（県建設部分）

例 言

１．本書は、瀬戸市上品野町に所在する上品野遺跡(県遺跡番号03678)の発掘調査報告書である。

２．発掘調査は、国道363号線の拡張工事に伴い、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて、財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが委託を受けて実施した。

３．調査期間は平成９年度の７月から９月である。

４，調査担当者は、北村和宏(課長補佐兼主査、現愛知県教育委員会文化財保護室)・小澤一弘(主任、現主査)・後藤英史(調査研究員、現名古屋西高校教諭)である。

５．発掘調査時の航空測量に関して、アジア航測株式会社から支援を受けた。

６．発掘調査および報告書作成に際しては、次の関係機関の指導・協力を受けた。

国土交通省愛知国道事務所・愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室・愛知県埋蔵文化財調査センター・(財)瀬戸市埋蔵文化財センター (五十音順、敬称略)

７．本書の執筆は、川添和暁が担当した。

８．調査区の座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標第VII系に準拠する。ただし、旧基準(日本標準座標)で表記してある。

９．調査記録および写真記録は愛知県埋蔵文化財センターで保管している。

1．地理的環境・歴史的環境

上品野遺跡は、瀬戸市東部、上品野町の品野盆地の東端に位置する。ここは南東側から舌状に伸びる丘陵の末端部にあたり、東を流れる中洞川と西を流れる大洞川が、北で水野川に合流する地点である。標高は180m～200mを測り、南東から北西方向に向かう緩斜面上に位置する。

この品野町近辺は、中世以降、現代にまでつながる窯業生産の中心地であり、周囲には多くの窯跡の所在が、知られている。また、最近の発掘調査の成果により、窯業遺跡のみならず、各時代の様相が徐々に知られるようになってきた。特に、古代の遺跡･遺物としては、上品野蟹川遺跡が知られている。ここでは、平成12･13年度の調査で自然流路のから「山寺」･「山」･「阿」･「門」･「文室門」(ふんやのもん)などと墨書された灰釉陶器がまとまって出土しているのは、注目されよう。また、付近には中世以降の山城として、品野城跡や桑下城跡が所在する。

2．調査の経緯と経過

国土交通省が計画した東海環状自動車道建設に伴い、国道363号線の拡張工事が行われることとなった。当調査は、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて受けた委託事業として行われた。調査期間は平成９年度の７月から９月までで、面積は合計360㎡である。

調査は、国土交通省愛知工事事務所から愛知県教育委員会を通じた委託事業も併行して行っていた。調査時には両者を区別することなく、工程上97Ａ区として調査を行った。当調査範囲はこの97Ａ区の北側部分である(図１)。

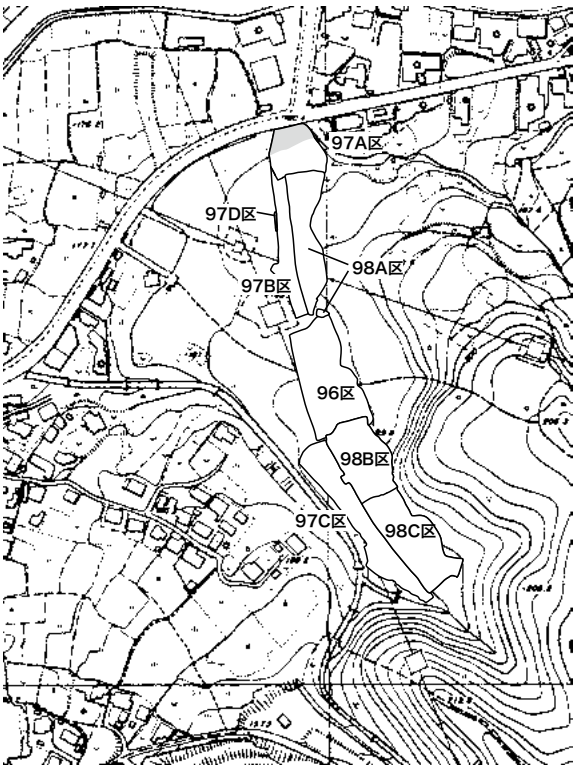


図１　調査区位置図(5000分の１)
トーン部分が当調査範囲

3．遺構・遺物

遺構は竪穴住居跡1軒・土坑50基程度が検出された。遺構の残存状況は悪く、一部痕跡を残している程度である。遺物の出土がほとんど皆無ではあるものの、上品野遺跡調査区域全体の様子や、遺構埋土の状況などから、竪穴住居は古代、その他土坑の多くは中世期のものと考えられる。土坑は柱穴が主体であると考えられ、一部は１間×２間の掘立柱建物の可能性もある。

4．まとめ

上品野遺跡の調査区自体は、本調査区から南側に長く広がっており、後期旧石器時代初頭、縄文晩期～弥生時代、古墳時代初頭、古代、中世と、各時期で遺構の展開がみられる。特に当調査区を包括する97Ａ区と南側に隣接する97Ｂ区・98Ａ区では、灰釉陶器を主体とする古代の遺構が多く見つかっており、これらとの関係を考慮する必要がある。

以上のことを受け、国土交通省愛知工事事務所委託分の報告書(平成18年度刊行予定)に詳細な成果を掲載予定である。



調査区全景（南より）



図2　調査区全体図（250分の１）

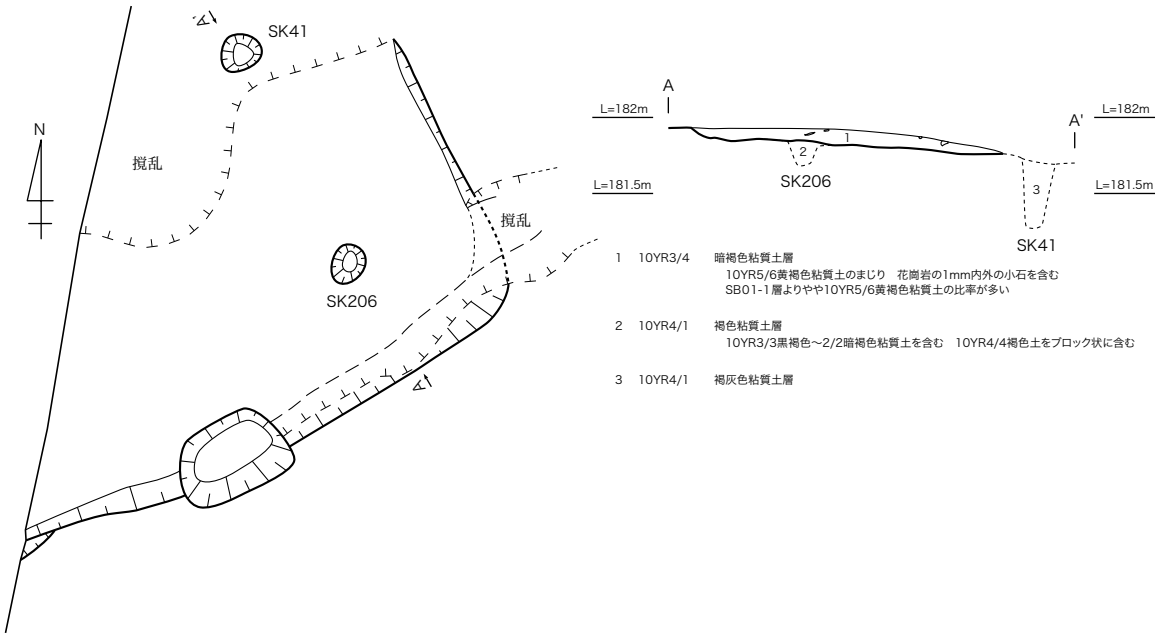


図3　SB05（50分の１）

本書に掲載した地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の
２万５千分の１地形図を複製したものである。
（承認番号　平16部複　第220号）

年報　平成 16 年度

平成17年3月
編集・発行(財)愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター
印　刷　(株)クイックス

本書は再生紙を使用しています。